パネル調査に基づくドラマ「パラレル東京」の効果―首都直下地震への対策―

Measuring the Effectiveness of Media Campaigns on How to Prepare for an Earthquake Directly Hitting Tokyo from a Panel Survey

安本 真也　Shinya YASUMOTO　　河井 大介　Dasisuke KAWAI
齋藤 さやか　Sayaka SAITO　　関谷 直也　Naoya SEKIYA

目　　次

１．はじめに
1.1　調査目的
1.2　首都直下地震の想定
1.3　体感「首都直下ウィーク」
1.4　調査概要
２．デモグラフィック・普段の情報接触状況
３．「パラレル東京」の視聴状況
3.1　番組の認知度
3.2　「パラレル東京」の視聴状況
3.3　「パラレル東京」の評価
3.4　LINE のグループチャットの確認状況と評価
４．態度や行動への番組効果
4.1　首都直下地震に対する態度の変化
4.2　災害に関する意見の変化
4.3　知識の変化
4.4　視聴後の行動
５．不安感の変化
5.1　首都直下地震による首都圏への影響に対する不安感
5.2　自宅や自分、家族への影響に対する不安感
5.3　不安感の変化に関するまとめ
６．居住地域による差異
6.1　居住地域による「パラレル東京」接触・態度
6.2　地域ごとの「パラレル東京」視聴有無による影響の比較
引用・参考文献
付属資料（アンケート調査の単純集計）

キーワード：首都直下地震、パネル調査、マスコミュニケーションの効果、テレビドラマ

執筆分担：

安本 真也	東京大学大学院学際情報学府　博士課程	1，3，4章
河井 大介	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	6章
齋藤さやか	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	5章
関谷 直也	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	2章

１．はじめに

1.1　調査目的

日本では、毎年のように大雨や台風、大雪、それ以外にも地震や津波、火山の噴火など様々な自然災害が発生し、人的・物的被害をもたらしている。そうした現状に対して、我が国では被災時の行政などからの支援には限界があることから「災害を『他人事』ではなく『自分事』として捉え、国民一人一人が減災意識を高め、具体的な行動を起こすことが重要である」（内閣府，2018：p.31）としており、個々人が災害に対して興味を持ち、対策を行うことが求められるようになっている。

だが、ひとえに具体的な行動を起こす、といってもそれは簡単ではない。たとえば、地震対策を考えた場合、地震保険への加入や家の耐震化、家具の転倒防止などが考えられるが、経済的コストが生じるし、水・食料の備蓄は地震発生後、生き残った後の対策で、そもそも地震の揺れそのもので亡くなってしまうと、意味がない。そもそも、歴史的にみても人が、人的・物的被害が出るような地震にあうのは一生に一度あるかないかであり、不確実性が高い。そのため、人々に地震対策を行ってもらうように仕向けることは簡単ではない。

そうした中で、地震対策に関する教育的効果を考えるうえで、マスメディアの役割は重要である。特にテレビは速報性、広範性、明快性、耐災性という特性を有していることから、災害が発生した場合、もしくは災害の発生が予想される場合に、災害の形態や被害の様子といった事実情報を伝えることが放送法第一〇八条によって義務付けられている。それにより、被害の拡大を防ぐ、防災の機能が求められる（廣井，2004)。地震においても、発生するとその被害の様子を伝え、多くの人の情報源となる（関谷ほか，2012など)。それにより、被害を受けていない人の防災に関する意識も向上するだろう。さらに、緊急時の報道だけではなく、平時においても災害啓発に関する情報を発信し、防災の機能を担う。たとえば、日本放送協会（以下、ＮＨＫ）は、「災害時だけでなく日ごろから防災の課題を積極的に取り上げ、安全な社会づくりに寄与するとともに、人々に防災知識が広がるように努める」（ＮＨＫホームページ，2020：p.44）としており、実際に防災に関する番組を制作している。東海地震に関連する情報に着目した想定ドキュメント番組「巨大地震・情報パニックの恐怖」（1978年5月12日放送）や、不定期に放送されたＮＨＫスペシャル「MEGAQUAKE 巨大地震」（2010年～全13回）などもその一例である。こうした番組を通して、人々は災害に関する知識を取得し、対策をとることもあろう。

だが、こうした番組が人びとにどのような効果を与えたのかは実証がされていない。つまり、テレビの教育的効果、そしてその結果としての知識や行動への影響は明らかではない。その理由として、第一にこれまで防災に関する番組はキャンペーン放送のように継続的に行われることはほとんどなかった点があげられる。マスコミュニケーションの効果研

究でしばしばテーマとされた選挙や環境問題のような集中的なキャンペーン放送が、防災をテーマとしては行われてこなかった。先に述べたような、防災啓発を目的としたような単発の番組はあるが、防災について一定期間集中的に放送が行われることはほとんどない。大きな災害のあった 1 月 17 日や 3 月 11 日には、周年報道と呼ばれるような、1 年ごとに過去の災害の振り返りが行われ、災害に関する報道は増加する。これらも災害に対する注意を喚起しており、防災啓発を目的としている側面もあるが、どちらかといえば、被災地を想起させる内容が多い。第二に、集中的な報道は当然のことながら、実際の災害が発生した（または風水害などの場合は、発生が予期される事前から）場合に行われる。だが、災害がいつ発生するか分からないため、その後にマスメディア、テレビに関する調査を実施したとしても、災害が発生する前に調査を実施していないために、その効果を明らかにすることに限界があった。そのため、防災に関して、テレビの効果を実証できていない。

そうした中で、ＮＨＫは 2019 年 12 月 1～8 日にかけて、首都直下地震を題材としたキャンペーン放送を行った。中でも、中核となったのが 2～5 日にかけて放送されたドラマ「パラレル東京」である。このドラマは内閣府の想定に基づき、制作された。こうしたキャンペーン放送が実施されることを事前に知り得たことから、このキャンペーン放送の前後でインターネットパネルを用いたアンケート調査を実施することとした。これにより、防災に関するキャンペーン放送の効果としての人々の首都直下地震に関する知識や意識、行動の変化をみることが可能となった。本稿ではその調査結果を論ずる。

1.2　首都直下地震の想定

本節ではまず、内閣府が公表している首都直下地震の想定について述べる。

内閣府は 2003 年 9 月に首都直下地震対策の専門調査会を発足させ、2005 年 2 月に被害想定の公表を行った（内閣府ホームページ）。その後、2011 年 3 月の東日本大震災を機に見直しが図られ、防災対策の検討に活かすことを主眼とした新たな被害想定、社会・経済への影響について検討がなされた（内閣府ホームページ，2013a)。

想定される被害として、上下水道や電力供給などのライフラインの被害、道路や鉄道などの交通施設の被害、避難者・被災者の発生、物資不足、情報の混乱などがあげられている。特に、避難者・被災者の発生では、揺れによる被害だけではなく、火災による被害の想定も多く行われている。ここでは「環状六号線から八号線の間をはじめとして、(中略）大規模な延焼に至ることが想定され、同時に複数の地点で出火し、延焼拡大による火炎の合流や、四方を火災で取り囲まれたり、火災旋風の発生等により、的確に火災からの避難を行わないと、逃げ惑いが生じることで大量の焼死者が発生するおそれがある」（内閣府，2013：p.22）と記述されている。また、風向きや季節によるが、火災による死者が最大 約

16,000 人という想定がなされている。この数字は揺れによる死者数（最大約 11,000 人）よりも多い。想定される死者数の大小で比較するべきではないが、首都直下地震において火災への対策も重視すべきといえよう。実際、首都圏をおそった巨大地震として知られる 1923 年の関東大震災においても、揺れによる死者数よりも火災による死者数の方が圧倒的に多い（内閣府ホームページ，2006)。こうした想定を受け、東京都は地震に関する危険度測定調査に基づくパンフレット「あなたのまちの地域危険度」の作成や「木密地域不燃化プロジェクト」などの火災対策を行っている。

つまり、同じ地震というハザードであるが東日本大震災のような津波被害とは異なる想定がなされている。首都直下地震では特に、23 区内を中心とした火災への対策が重要である。

そして、この内閣府の被害想定を基に、「漠然と恐れるのではなく、どんなことが起こりえるのかを知っておくことが命を守ることにつながります」（ＮＨＫホームページ，2020）と防災啓発を目的として制作されたのが、ドラマ「パラレル東京」である。

1.3 体感「首都直下ウィーク」

本節では、ＮＨＫの行った防災に関するキャンペーン放送の「体感　首都直下ウィーク」ならびにその中核たるドラマ「パラレル東京」（以下、「パラレル東京」）の概要について述べる。

このキャンペーン放送は 2019 年 12 月 1～8 日にかけて行われた。実際の防災訓練、インターネット上のホームページや Twitter、ドラマ独自の LINE グループチャットといったネットメディア、「おはようニッポン」などの通常編成のテレビ番組、ドラマなどが組み合わせて行われた。例えば、渋谷区役所などで実際に行われた首都直下地震対策の防災訓練の様子や、地震の影響で、電気や水道、ガスなどが通じないという状況を現実で作り、番組ディレクターが在宅避難を体験する様子などを通常編成の番組内で生中継したり、子供や障害者などの災害弱者の備えや支援に焦点をあてた番組も放送された。

そうした中でも、中核となったのが 2～5 日にかけて放送されたドラマ「パラレル東京」である。この「パラレル東京」はマグニチュード 7.3 の大地震が 12 月 2 日午後 4 時 4 分に架空の「東京」で発生した、という想定で、その後、都心が変化する様子を VFX を用いながら、現実世界の時間軸に沿って描かれた作品である。つまり、ドラマ内の時間軸での 12 月 2 日（月）19 時 30 分は、現実世界の時間軸でも 12 月 2 日（月）19 時 30 分、現実世界で 30 分が経過すると、ドラマの中でも 30 分が経過している、という設定である。物語は架空のテレビ放送局であるＮＮＪを舞台として、主人公のアナウンサー・倉石美香の目線で展開する。テレビ局が舞台のため、様々な情報が集まっており、それによって我々視聴者も首都直下地震の一端を「体感」できる。ここでは、発災後の 4 日間という、発災直

後から初期対応（約100時間まで）が描かれている。放送日ごとにテーマが決められ、その事象が発生し、その出来事をどのように報道するかという点に主眼が置かれつつ、一方で、主人公の倉石は、自身の妹と連絡がつかずに心配する、というストーリーが展開された。たとえば、発災から30時間ほど経過したという設定の2日目には、火災旋風の発生、ソーシャルメディア上のデマ情報に振り回されるテレビ局の人々の姿などが描かれている。なお、この番組中、約半分はドラマパート、残りの約半分の時間は実際のスタジオで、アナウンサーや専門家らによる解説にあてられていた。これにより、人々は首都直下地震に関する知識などを得ることが可能となり、防災につながると考えられる。4夜連続で放送された時間とタイトル、テーマは表1.1の通りである。

表1.1　「パラレル東京」概要

放送日時	タイトル	テーマ
12月2日（月） 19時30分～20時41分	「あなたを襲う震度7の衝撃」（発災当日）	建物倒壊・同時多発火災・群衆雪崩[1]
12月3日（火） 22時00分～23時00分	「多発する未知の脅威」 （発災2日目）	火災旋風･デマによる情報混乱･広域通信ダウン
12月4日（水） 22時00分～23時00分	「命の瀬戸際 新たな危機」 （発災3日目）	避難所　食糧不足・通電火災・閉じ込め被災者　救出難航
12月5日（木） 22時00分～23時00分	「危機を生きぬくために」 （発災4日目）	相次ぐ余震で土砂崩れ・堤防決壊の危機

1.4　調査概要

本節では用いる調査の概要について述べる。

この防災啓発番組として放送された「パラレル東京」が人々に与える影響や効果を測定することを目的として、インターネットパネルを用いた3波のアンケート調査を実施した。調査の概要は表1.2の通りである。第1波の調査は、東京都在住のインターネットモニター（ＮＴＴコムリサーチのモニターを利用）を対象として、10,680サンプルを回収した（680は予備サンプル）。調査実施期間は、2019年11月29日から、「体感　首都直下地震ウィーク」が開始する前の12月1日までである。なお、性別や年代の割付などは行っていない。第2波の調査は「体感　首都直下地震ウィーク」が終了した直後の2019年12月11～12日

[1] 本来は「群集雪崩」が正しい表現と考えらえるが、本稿では実際の放送内容に従い「群衆」雪崩と表記する。

に実施した。つまり、キャンペーン放送から 1 週間が経過した時期である。ここでは第 1 波の回答者に対して、80%を目途として実施した。第 3 波の調査は「体感　首都直下地震ウィーク」から 3 か月後の 2020 年 3 月 2～23 日に実施した。回収は第 2 波の回答者に対して、可能な限り行った。その結果、第 1 波の回答者のうち 68.8%、第 2 波の回答者のうち 88.2%の 7,349 サンプルが有効回答となった。以下では、この 3 波ともに回答のあった 7,349 サンプルを調査対象として論ずる。

なお、本稿では紙幅の都合上、第 1 波、第 2 波の結果に絞って分析をする。

表 1.2　調査概要

調査対象	東京都在住の男女（ＮＴＴコムリサーチ）
調査方法	WEB 調査（パネル調査）
第 1 波「首都直下地震に関する調査」	
有効回答	10,680 サンプル
調査期間	2019 年 11 月 29 日～12 月 1 日（キャンペーン放送開始直前）
第 2 波「首都直下地震に関する調査（2 回目）」	
有効回答	8,329 サンプル（1 回目と同一パネル、回収率 80.0%を目途）
調査期間	2019 年 12 月 11～12 日（キャンペーン放送終了直後）
第 3 波「首都直下地震に関する調査（3 回目）」	
有効回答	7,349 サンプル（2 回目と同一パネル、可能な限り回収）
調査期間	2020 年 3 月 2～23 日（キャンペーン放送終了直後）

２．デモグラフィック・普段の情報接触状況

本調査の男女、回答者年代、居住地、LINE フォローの有無などは表 2.1 の通りである。なお、「視聴あり」「視聴なし」については 3 章 2 節で詳説するが、「パラレル東京」の視聴の有無についてである。回答者は第 1 波の時点で 4 つのグループに分けた。それぞれ、「パラレル東京」の視聴をお願いし、かつ LINE のグループチャット「ＮＨＫドラマ　パラレル東京」のフォローをお願いする（A グループ）、「パラレル東京」の視聴をお願いするのみ（B グループ）、LINE のグループチャット「NHK ドラマ　パラレル東京」のフォローをお願いするのみ（C グループ）、何もお願いしない（D グループ）とした。これらはあくまで「お願い」であり、強制力はない。それぞれ、2,670 サンプルに対して表示した。だが、結果的に視聴の有無についてはほとんど差がなかった。

本調査は、できるだけ多くの視聴経験者パネルを確保するために割り当てを行っていな

いので、これらの特性は、調査パネルそのものの特性を表しているといえる。

表 2.1　調査対象者の概要

		視聴あり (n=1825)	視聴なし (n=5524)	合計 (N=7349)
性別	男性	59.5%	51.4%	53.4%
	女性	40.5%	48.6%	46.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%
回答者年代	10・20代	4.2%	7.0%	6.3%
	30代	13.4%	17.4%	16.4%
	40代	21.5%	28.6%	26.9%
	50代	31.3%	29.0%	29.5%
	60代	20.4%	12.9%	14.8%
	70代以上	9.2%	5.1%	6.2%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%

		視聴あり (n=1825)	視聴なし (n=5524)	合計 (N=7349)
居住地	23区内	69.7%	70.1%	70.0%
	23区外	30.3%	29.9%	30.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%
LINEフォロー	あり	20.6%	1.4%	6.2%
	なし	79.4%	98.6%	93.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%
グループ分け	Aグループ	25.7%	24.8%	25.0%
	Bグループ	26.3%	24.1%	24.6%
	Cグループ	25.0%	25.5%	25.4%
	Dグループ	23.0%	25.6%	25.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%

なお、このパネルのメディアへの接触時間（第 1 波 Q27）は図 2.1、それらのメディアの信頼感（第 1 波 Q29）は図 2.2 の通りである。なお、信頼感に関して、利用していないメディアについては、大体の印象で回答していただいた。必ずしも、接触時間と信頼感の度合いが比例しているわけではない。

本調査の前提として、アプリやＮＨＫに関連するホームページを普段見ている人の割合（第 1 波 Q28）は、図 2.3 の通りである。

また、いわゆる「ながら視聴」(テレビ放送を見ながらスマートフォン、携帯電話を利用することがよくありますか）の程度（第 1 波 Q31）は図 2.4 の通りである。

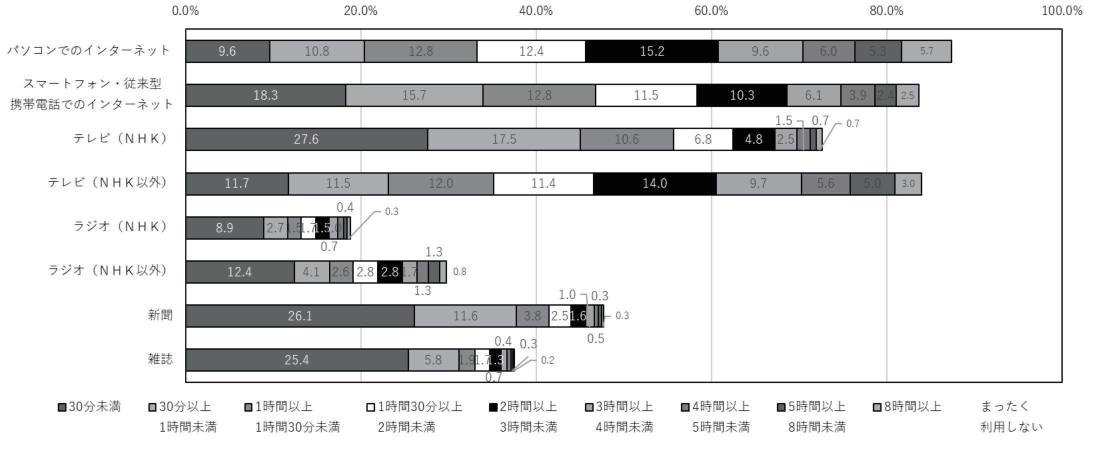


図 2.1　メディアの接触頻度（※「ラジオ」は radiko 含む）

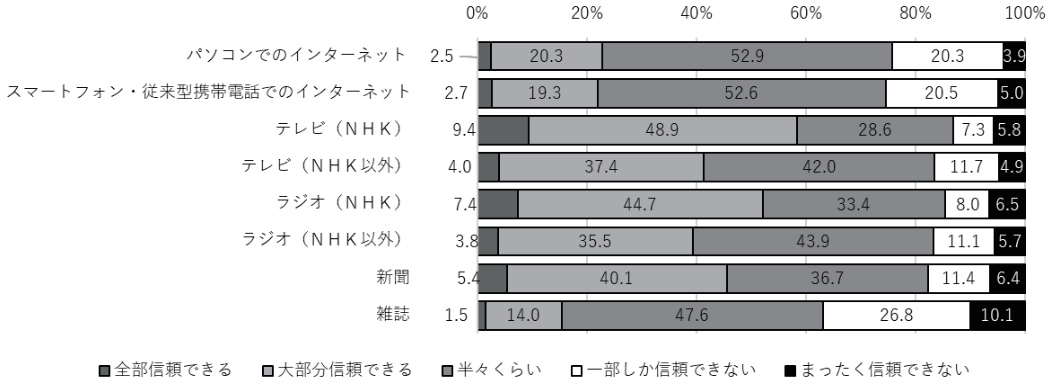


図 2.2　各メディアの情報の信頼できる情報の程度

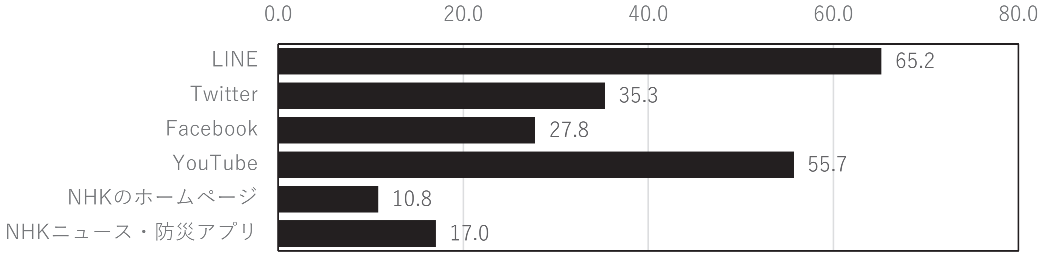


図 2.3　アプリやＮＨＫに関連するホームページの普段の利用状況

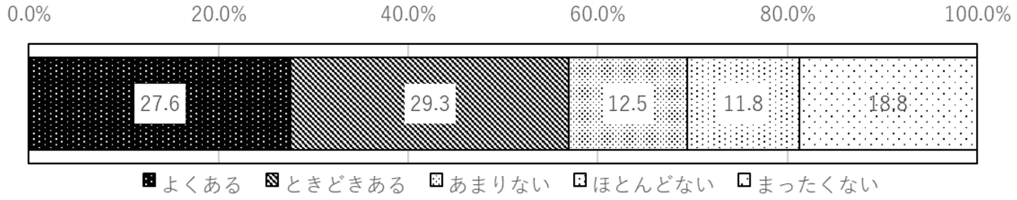


図 2.4　「ながら視聴」の頻度

３．「パラレル東京」の視聴状況

3.1　番組の認知度

本節では番組視聴状況について述べる。

まず、普段のＮＨＫの番組の視聴状況を問うた結果が図 3.1.1 である（第 1 波 Q30)。これらの番組は「体感　首都直下ウィーク」と連動した番組である。2019 年 12 月時点での各番組の概要は次の通りである。「ＮＨＫスペシャル」は毎週日曜 21 時からＮＨＫ総合テレビで放送されているドキュメンタリー番組である。シリーズ企画などによっては別の曜

日に派生することもある。「おはよう日本」は曜日によって時間は異なるが、毎朝、ＮＨＫ総合テレビジョンで放送しているニュース番組である。「あさイチ」は「おはよう日本」の後、連続テレビ小説を挟んで平日朝 8 時 15 分から放送される情報番組である。「まいにちスクスク」は毎週月曜から木曜の 10 時 55 分から 5 分間、ＮＨＫ Ｅテレ（教育テレビ）で放送されている 5 分間の育児に関する情報番組である。「ごごナマ」は平日 13 時からＮＨＫ総合テレビで放送されている情報番組である。「シブ 5 時」は平日 16 時 50 分からＮＨＫ総合テレビで放送されているニュース番組である。「首都圏ネットワーク」は平日 18 時 10 分からＮＨＫ総合テレビで放送されている、関東ローカルのニュース番組である。「沼にハマってきいてみた」は毎週月～水曜 18 時 55 分からＮＨＫ Ｅテレ（教育テレビ）で放送されているバラエティ番組である。「ハートネット TV」は毎週月～水曜 20 時からＮＨＫ Ｅテレ（教育テレビ）で放送されている福祉情報番組である。

これらの番組の中で「毎回必ず見る」と「よく見る」の合計が最も高かったのが「ＮＨＫスペシャル（26.2%）」であった。「見たことがない」割合も最も低く、32.4%であった。なお、ここで挙げたいずれの番組も「見たことがない」と答えた人は全体の 22.9%であった。

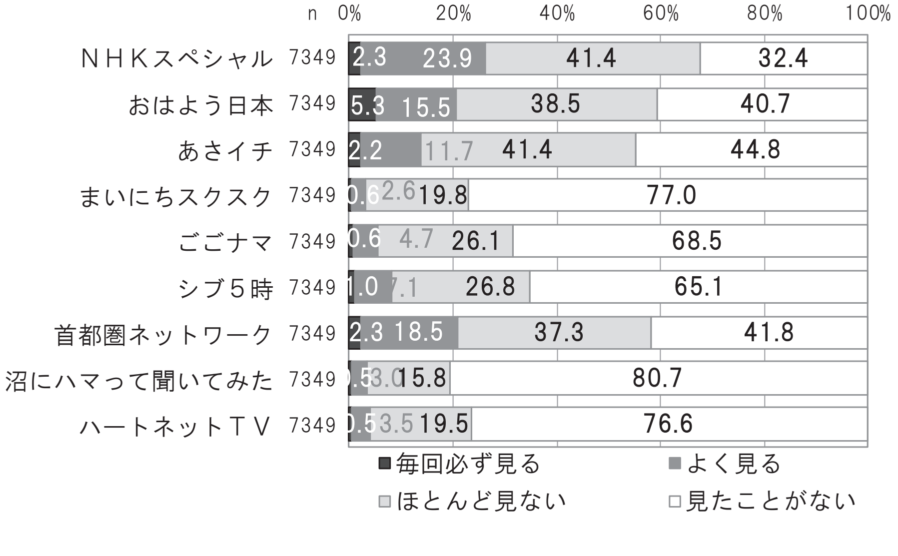


図 3.1.1 普段の番組視聴状況

次に、第 1 波の時点でのこのキャンペーン放送「体感　首都直下地震ウィーク」の認知度について問うた（第 1 波 Q32）。その結果、全体の 10.7%が「知っている」と答えた。その情報入手元はほとんどがＮＨＫの番組内であった（第 1 波 Q33）（図 3.1.2）。また、ＮＨＫスペシャルを「毎回必ず見る」と答えた人（n=172）の 53.5%が、「よく見る」と答えた人

（n=1,753）の 24.5%が「体感　首都直下地震ウィーク」を「知っている」と答えている。

次にこのキャンペーン放送内で、ＮＨＫスペシャルとして４夜連続で放送される「パラレル東京」の認知度について問うた（第１波 Q34)。その結果、全体の 10.0%が「知っている」と答えた。その情報入手元は先と同様にほとんどがＮＨＫの番組内であった（第１波 Q35）（図 3.1.3)。

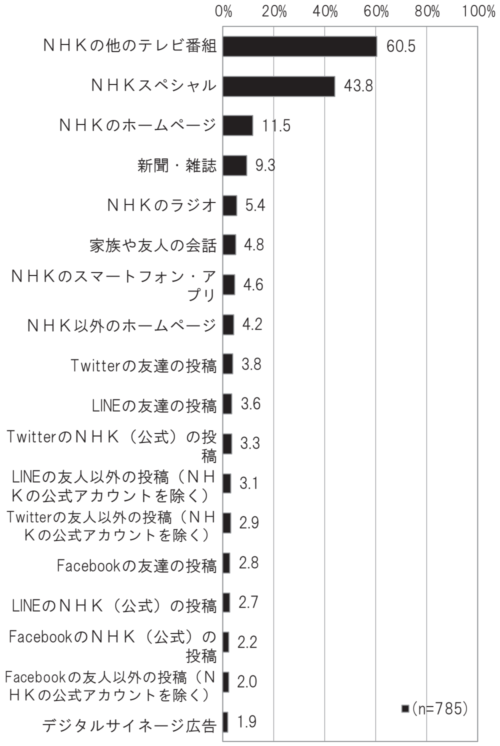


図 3.1.2　「体感　首都直下地震ウィーク」の情報入手手段

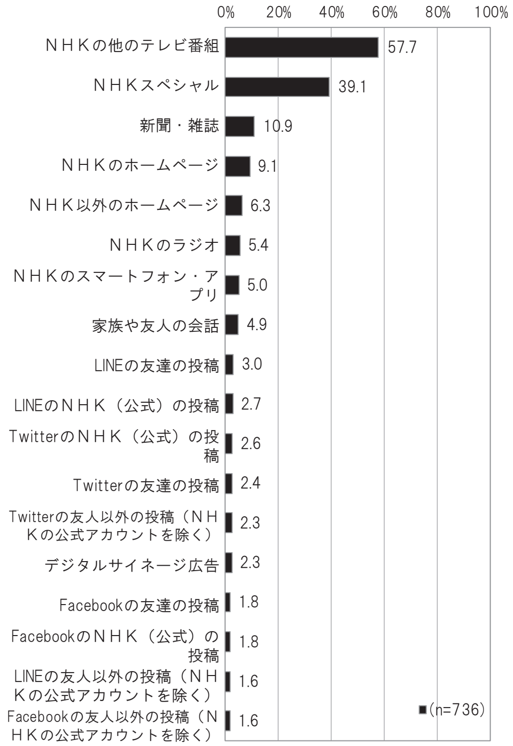


図 3.1.3　「パラレル　東京」の情報入手手段

3.2　「パラレル東京」の視聴状況

本節では「パラレル東京」の視聴状況について述べる。

まず、キャンペーン放送「体感　首都直下地震ウィーク」に参加した番組の中で「毎回必ず見る」と「よく見る」の合計が最も高かったＮＨＫスペシャルの視聴状況について、「あなたは、以下のＮＨＫ『体感　首都直下地震ウィーク（12/1～12/8)』に関する番組を見ましたか。それぞれの番組について、複数回見た場合には、最初に見た時のことについてお答えください」と問うた（第２波 Q3)。その結果が図 3.2.1 である。「放送中にすべて見た」人はいずれの日も 6%前後である。12 月 1 日（日）のレギュラー放送日が最も見た人の割合が高い。4 夜連続で放送された「パラレル東京」はいずれの日も約２割程度

の人が見ている。

本稿ではこの「パラレル東京」を 12 月 2 日〜5 日のいずれか 1 日でも「放送中にすべて見た」「放送中に一部見た」「録画したものを見た」「ＮＨＫオンデマンドで見た」と答えた人（n=1,825）を「パラレル東京」を視聴した人として分析を行った（視聴しなかった人は n=5,524）。

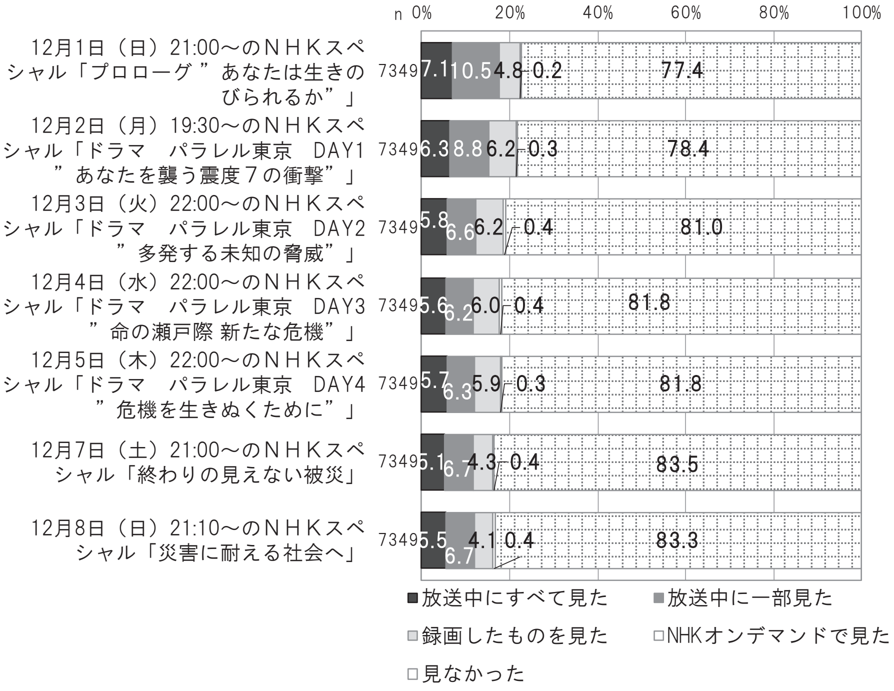


図 3.2.1 視聴状況

この「パラレル東京」視聴のきっかけについて複数回答を問うた結果が図 3.2.2 である（第 2 波 Q4）。最も多かったのは「ＮＨＫスペシャルの予告」で 46.7%であった。「テレビをつけたら放送していた」が次いで 31.3%、「前回（※第 1 波調査のこと）のアンケート調査での告知」は 14.4%と極端に多いわけではなかった。

また、この「パラレル東京」は番組独自の LINE のグループチャット「ＮＨＫドラマ　パラレル東京」と連動して行われていた。「パラレル東京」では LINE がコミュニケーションツールとして登場しており、その LINE 上でのやりとり（グループチャット）は視聴者も各々の LINE などを通じて見ることが出来る仕組みになっていた（図 3.2.3）。時には登場人物からアドバイスを求められる場面があるなど、視聴者もあたかも参加しているかのような体験が出来た。

そこで、こうした LINE のグループチャットへの参加などの「ながら視聴」が行われているか、どのような視聴スタイルかを明らかにするために「『ドラマ　パラレル東京』を視聴しているときに、以下のようなことをしましたか」と複数回答で問うた（第 2 波 Q5)。その結果が図 3.2.4 である。約半数の 57.0%が「テレビだけを見ていた」と答えており、「番組に連動した LINE を見ながら、視聴した」とした人は 7.0%と少なかった。スマートフォンなどの他のメディアを見るというよりかはむしろ、テレビだけ見る、もしくは家族などと番組について話しながら視聴するスタイルの人が多かった。

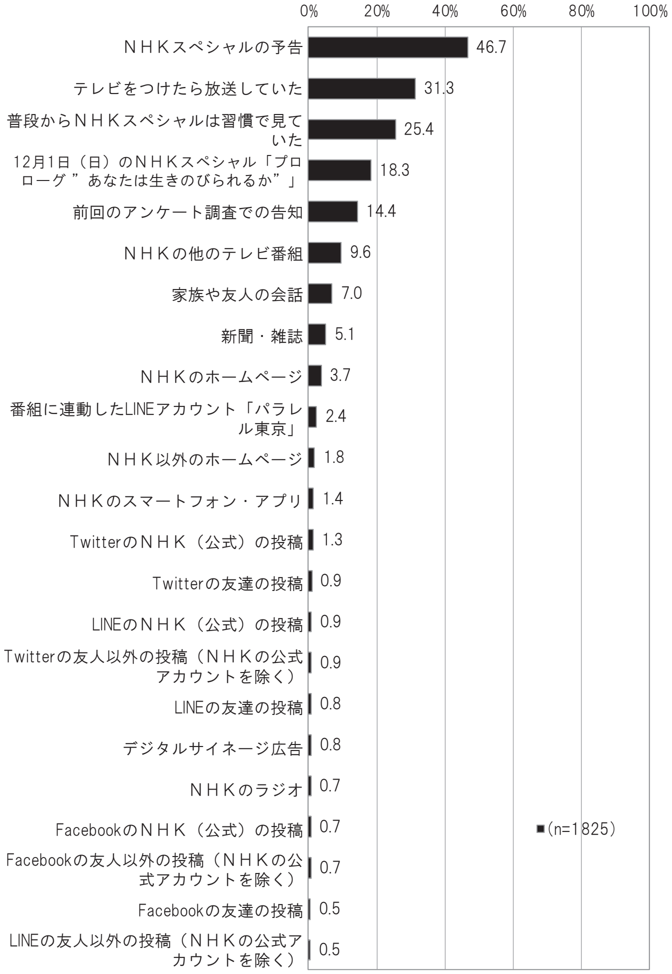


図 3.2.2　「パラレル東京」視聴のきっかけ

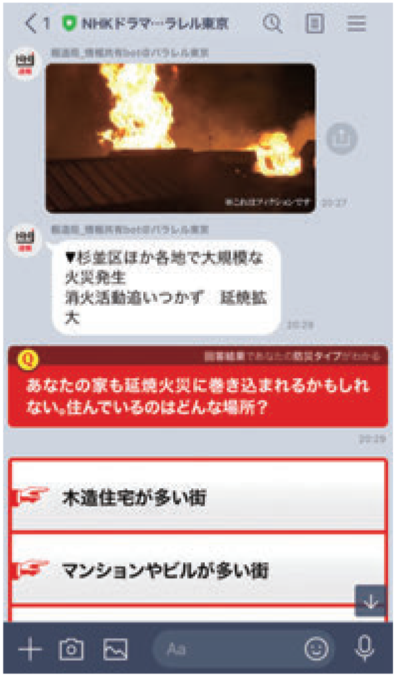


図 3.2.3「パラレル東京」の LINE 画面（出典：筆者撮影）

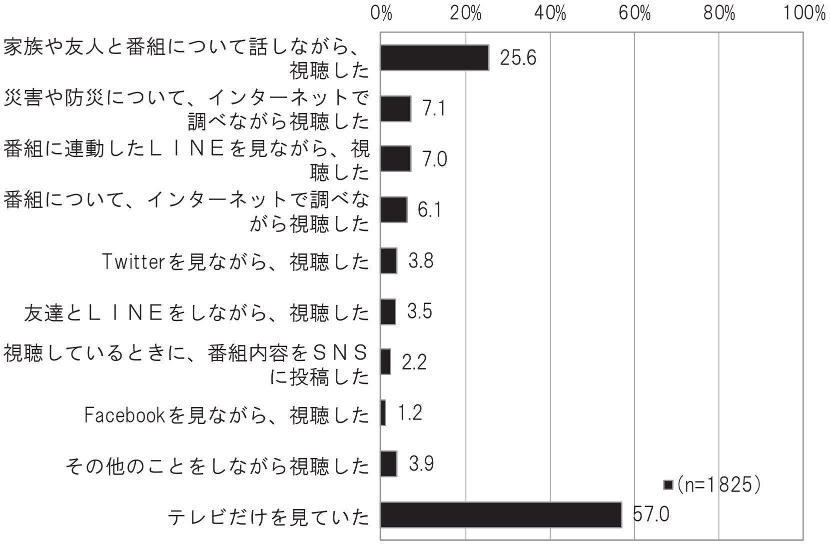


図 3.2.4　「ながら視聴」の有無

3.3　「パラレル東京」の評価

本節では「パラレル東京」を視聴した人（n=1,825）の評価を述べる。

まず、「パラレル東京」を視聴して、印象に残ったことを問うた（第 2 波 Q6)。その結果が図 3.3.1 である。最も多かったのは「火災旋風」で 22.1%であった。この火災旋風は発災 2 日目に扱われた。この現象は、ときに高さ 200m を超える巨大な炎の渦が竜巻のように家屋や人を吹き飛ばし、街を焼き尽くす現象のことで、移動し、火の粉を遠くまでまき散らすことから延焼を拡大させるもの（NHK ホームページ, 2020)、として番組内で VFX を用いて描かれた。火災とは異なり、これまでほとんどの人が映像などでも実際に見たことがない現象であり、大々的に描かれた結果、人々の印象に残ったと考えられる。ただし、全体として、どれか一つに集中しているというより、分散している。

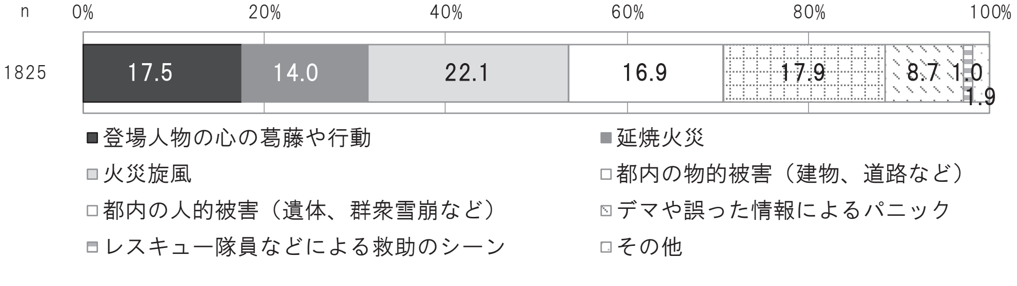


図 3.3.1　「パラレル東京」でもっとも印象に残ったこと

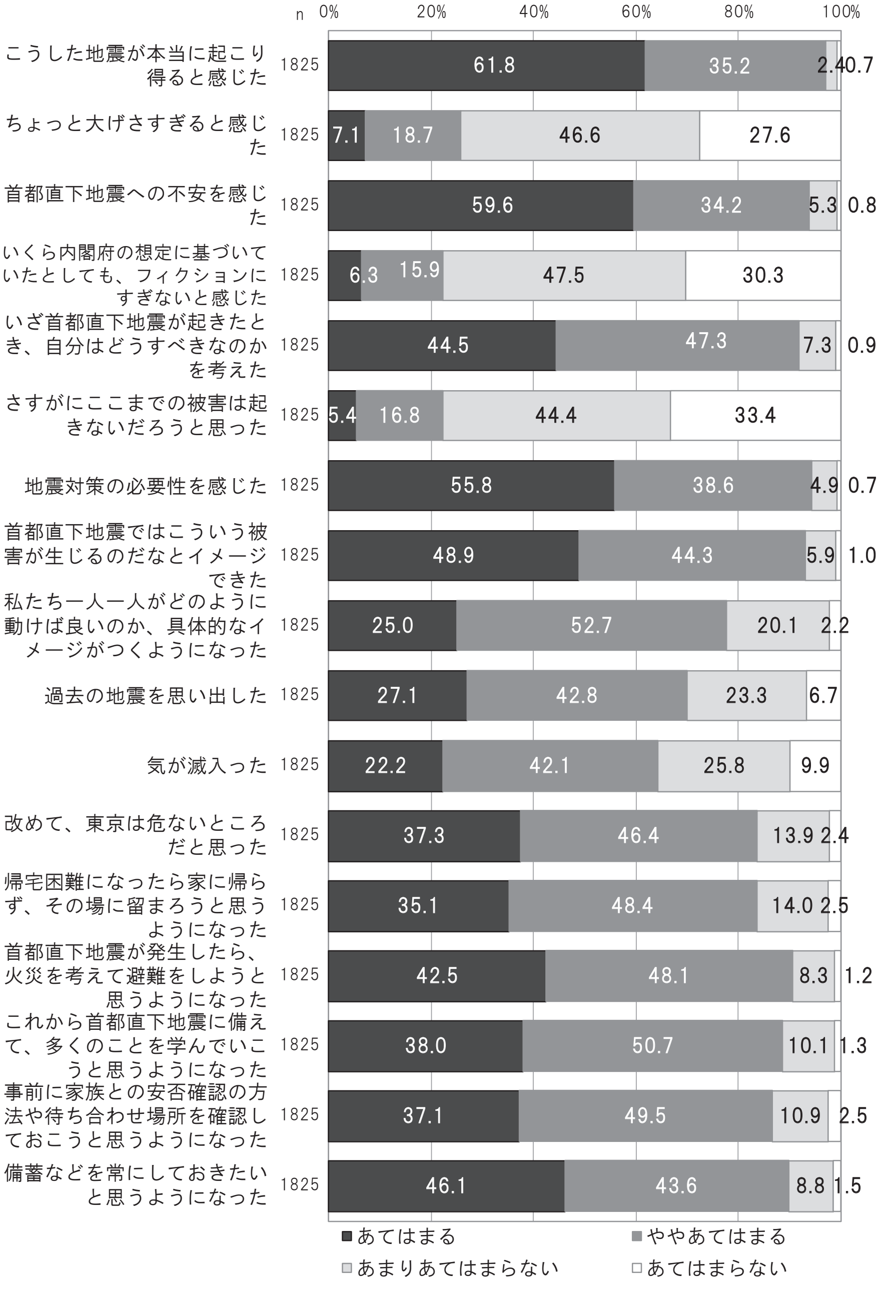


図 3.3.2 「パラレル東京」の感想

次に、どのような心理状態になったかを「あなたは『ドラマ パラレル東京』をご覧になって、どのようなことを感じましたか」と問うた（第 2 波 Q7)。ここでは「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の 4 点尺度でそれぞれ回

答していただいた。その結果が図 3.3.2 である。全体として「こうした地震が本当に起こり得ると感じた」「首都直下地震ではこういう被害が生じるのだなとイメージできた」など、番組への肯定的な反応が目立つ。また、「パラレル東京」では火災に関するシーンが多くあったのだが、「首都直下地震が発生したら、火災を考えて避難をしようと思うようになった」に肯定的な反応も非常に多かった。一方で、「さすがにここまでの被害は起きないだろうと思った」「いくら内閣府の想定に基づいていたとしても、フィクションにすぎないと感じた」といったネガティブな反応は少数であった。

3.4 LINE のグループチャットの確認状況と評価

本節では、LINE のグループチャットについても同様に確認状況と評価を問うたので、その結果を述べる。

全員に対して LINE のグループチャットの視聴状況について「あなたは、『ドラマ　パラレル東京』に連動した LINE のグループチャットを、この 1 週間にどの程度見ましたか。見ていなくて、フォローしていない場合は、『フォローしていない』を選択してください」と問うた（第 2 波 Q8）。その結果が図 3.4.1 である。75.8%の人が「フォローしていない」と答えている。

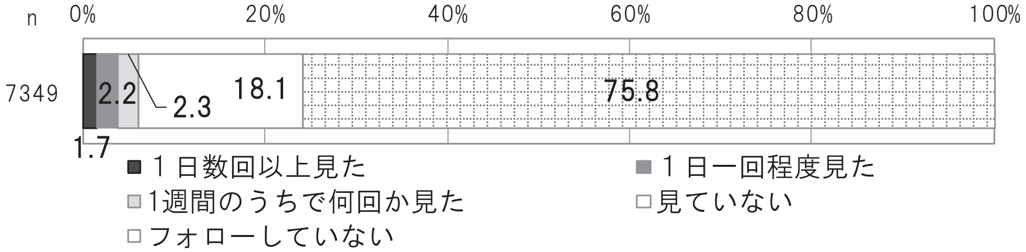


図 3.4.1　「パラレル東京」の感想

以下では、ここで LINE のグループチャットをフォローしていた人（n=1,782）について述べる。

まず、LINE のグループチャットをフォローしたきっかけを問うた（第 2 波 Q9）。その結果が図 3.4.2 である。最も多かったのは「前回のアンケート調査での告知」で 40.5%であった。次いで「ＮＨＫスペシャル」で 32.7%であり、テレビからの流入は約 3 割程度であった。

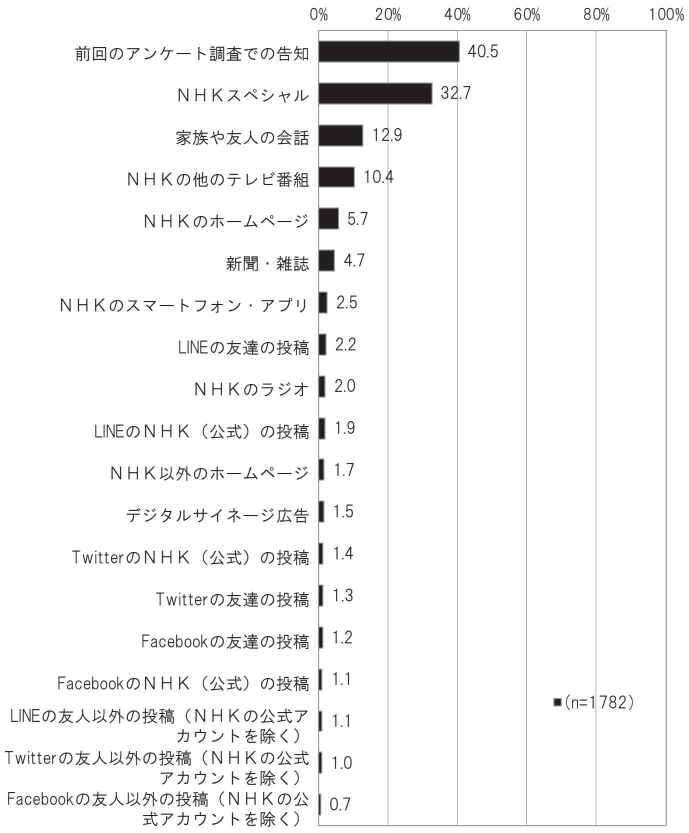


図 3.4.2　LINE のグループチャットフォローのきっかけ

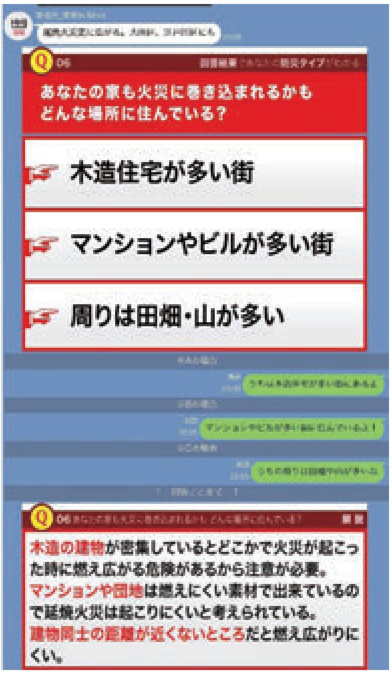


図 3.4.3　LINE のグループチャットの設問画面（デモ画面）

では、実際にフォローした人の印象はどうであったか。次に、「あなたは、『ドラマ　パラレル東京』に連動した LINE のグループチャットをご利用になって、いかがでしたか」と複数回答で問うた（第 2 波 Q11）。その結果が図 3.4.4 である。最も多かったのは「防災行動につながった」で 37.1％であった。このグループチャットでは「あなたの防災タイプ診断」という試みが行われた（図 3.4.3）。グループチャットの中で 1 日に何回か登場人物たちからアドバイスを求められたり、質問を投げかけられる。たとえば「あなたの家も火災に巻き込まれるかも、どんな場所に住んでいる？」と問われ、提示された選択肢に回答をすると、「木造の建物が密集しているとどこかで火災が起こった時に燃え広がる危険があるから注意が必要」などと回答に対する評価が提示される。最終的に、その回答結果に基づいて、回答者が災害時にどのような行動を取りがちか、簡単な診断結果がフィードバックされることとなっていた。こうした設問があったことが「防災行動につながった」と答えた人が増加した一因と考えられる。また、「ドラマと連動したチャットは新規性があり、好奇心が満たされた」や「ドラマの登場人物とやり取りしているようで、親近感がわいた」などのドラマと連動したことに対して評価していたのはいずれの項目も 1 割程度であった。

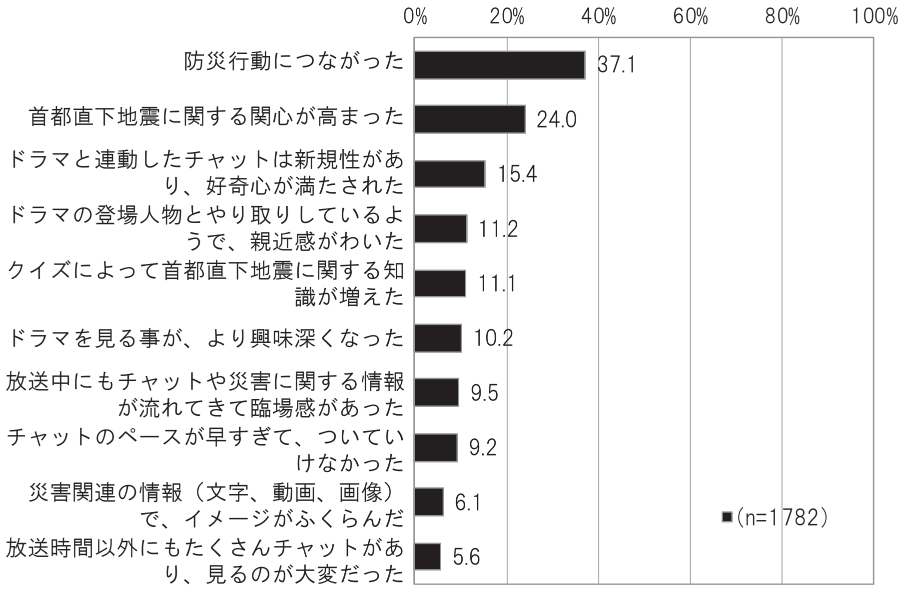


図 3.4.4 LINE のグループチャットの印象

最後に、前節と同様に、グループチャットを見てどのような心理状態になったかを「あなたは、『ドラマ　パラレル東京』に連動した LINE のグループチャットをご覧になって、どのようなことを感じましたか」と問うた（第 2 波 Q12）。その結果が図 3.4.5 である。

全体として「パラレル東京」と比較して反応が弱い（図 3.3.2）。多くの項目で「あてはまらない」「あまりあてはまらない」の割合が増加している。コンテンツへの効果を問う項目（たとえば「こうした地震が本当に起こり得ると感じた」「首都直下地震ではこういう被害が生じるのだなとイメージできた」など）では「あてはまる」の割合が「パラレル東京」よりも減少している。これはテレビという映像メディアの有効性を示すものであろう。LINE のグループチャットでは当然、被災状況に関する動画も流れているが、常に見ているわけでもない（図 3.4.1）。テレビの方が心理面により影響を及ぼしていると考えられる。

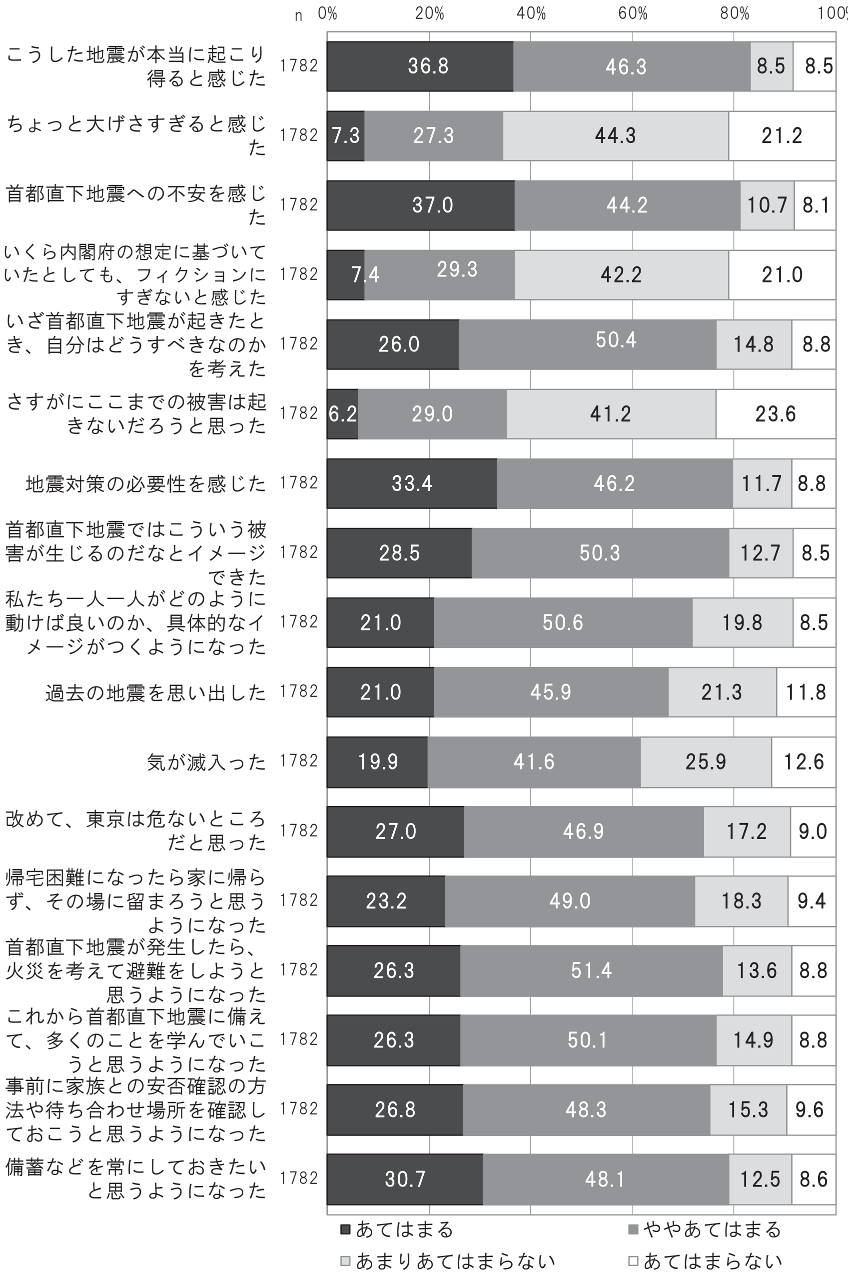


図 3.4.5　LINE グループチャットの感想

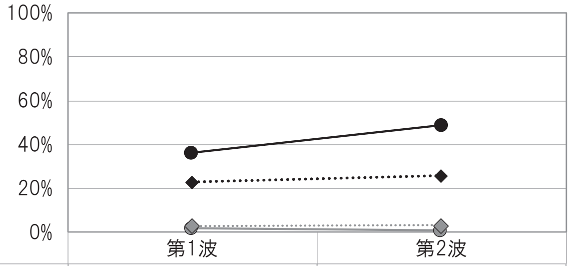
4. 態度や行動への番組効果

4.1　首都直下地震に対する態度の変化

本節では首都直下地震に対する態度について述べる。

まず、今回のキャンペーン放送にあたり、ＮＨＫは「防災減災の必要性を『自分ごと』

として捉えることを目的」としている（ＮＨＫホームページ，2019)。そこで、この目的が達成されるかを「あなたは、首都直下地震によって被害を受けることを『自分ごと』としてとらえていますか」と直接的に問い、「強く『自分ごと』としてとらえている」「やや『自分ごと』としてとらえている」「どちらともいえない」「あまり『自分ごと』としてとらえていない」「全く『自分ごと』としてとらえていない」の 5 点尺度で第 1 波、第 2 波両方で回答してもらった（第 1 波 Q17、第 2 波 Q28)。その結果を番組視聴の有無で分析をすると、番組を視聴した人（36.5%→48.8%）は番組を視聴していない人（22.7%→25.6%）と比較して「強く『自分ごと』としてとらえている」の割合が増加している（図 4.1.1)。



	第1波	第2波
強く「自分ごと」としてとらえている（視聴あり）	36.5%	48.8%
強く「自分ごと」としてとらえている（視聴なし）	22.7%	25.6%
全く「自分ごと」としてとらえていない（視聴あり）	1.7%	0.8%
全く「自分ごと」としてとらえていない（視聴なし）	3.2%	3.2%

図 4.1.1　首都直下地震を「自分ごと」ととらえているか

次に、自分ならびに周囲の人の意識の変化である。

Davison(1983)はテレビ番組などの接触により、自分はメディアからの影響を受けにくいと考えるが、自分以外の他者（第三者）は影響を受けやすいと考える、という他者へのマスメディアの影響を過大視する第三者効果仮説を提唱した。そうした仮説を踏まえ、「あなたは、『首都直下地震ウィーク』のキャンペーンを見聞きして、あなたご自身および周囲の人の防災に対する意識は高まったと思いますか」と問うた（第 2 波 Q42)。その結果が図 4.1.2（回答者自身）ならびに図 4.1.3（周囲の人）である。「パラレル東京」を視聴した人の 94.7%が回答者自身の「意識が高まった」と答えており、視聴していない人の 60.6%より 3 割以上多い。また、回答者自身が「非常に意識は高まったと思う」が 26.2%である一方、周囲の人が「非常に意識は高まったと思う」は 12.2%と、影響を受けにくいと考えている。

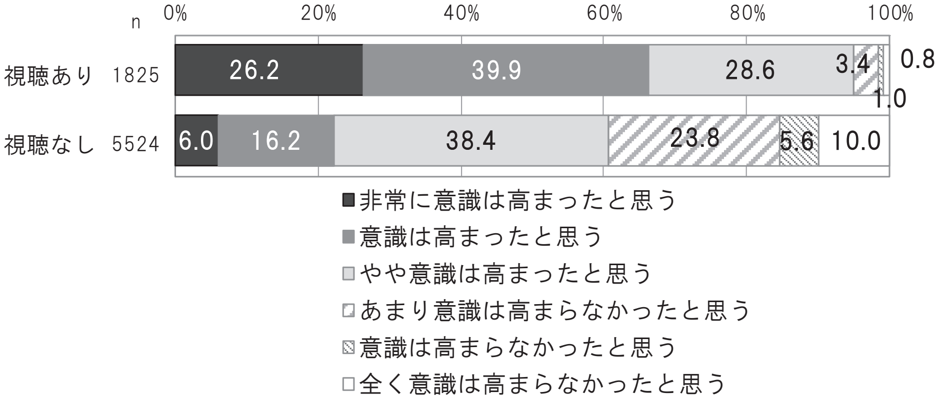


図 4.1.2　回答者自身の防災に対する意識の高まり

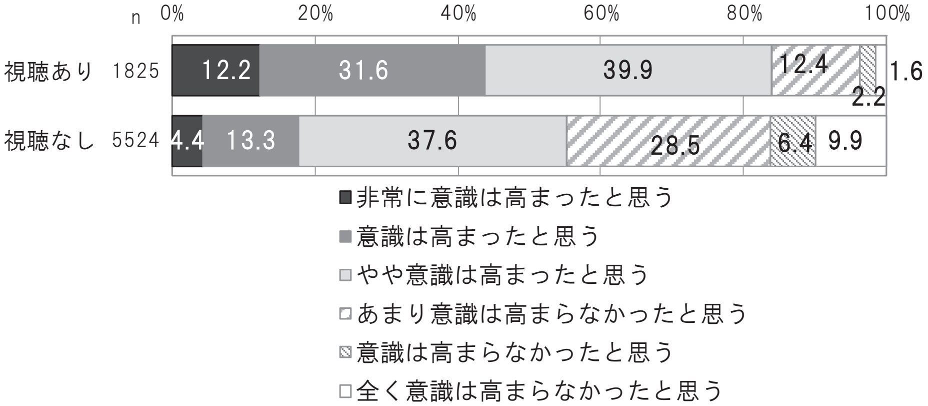


図 4.1.3　周囲の人の防災に対する意識の高まり

さらに、「非常に意識は高まったと思う」=5 点、「意識は高まったと思う」=4 点、「やや意識は高まったと思う」=3 点、「あまり意識は高まらなかったと思う」=2 点、「意識は高まらなかったと思う」=1 点、「全く意識は高まらなかったと思う」=0 点として得点化した結果が表 4.1.2 である。「パラレル東京」を視聴した人（3.8 点）の方が視聴しなかった人（2.6 点）よりも有意に意識が高くなった（U 検定）。そして、それは回答者本人だけではなく、周囲の人に対する評価においても同様である（それぞれ 3.3 点と 2.5 点）。また、視聴した人は回答者自身の意識に関する得点の方が（3.8 点）、周囲の人の意識に関する得点（3.3 点）よりも高く、第三者効果がみられなかった。

表 4.1.1　視聴の有無と防災に対する意識の関係　　（＊＊＊：p< .001）

	平均値（SD）			
	視聴あり（n=1825）	視聴なし（n=5524）	Mann-Whitney の U	有意確率
回答者自身	3.8点（0.9）	2.6点（1.6）	2258901.50	＊＊＊
周囲の人	3.3点（1.0）	2.5点（1.5）	3066059.50	＊＊＊

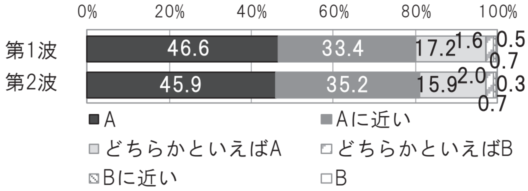
4.2　災害に関する意見の変化

本節では Noelle-Neumann（1982=2013）の沈黙の螺旋仮説を実証するために設定した設問の単純集計を示す。沈黙の螺旋理論とは時間の経過とともに少数派意見の保持者が多数派からの反対をおそれて意見を表明しなくなり、そこにマスメディアが特定の「多数派意見」を提示することで多数派の意見が大きくなり、ますます少数派は沈黙してしまう、という循環が螺旋状に生じ、それが多数派に反対する人が 0 になるまで続く、というものである。本研究では安野（2006）を基に、災害に関して意見が分かれる設問を設定した（第 1 波 Q7～15、第 2 波 Q18～26）。両極端な 2 つの意見を提示し、それぞれに対して①回答者自身の意見（設問文は「あなた自身は A と B のどちらの意見に近いですか」、②マスメディアの論調（設問文は「マスメディアの論調は A と B のどちらの意見に近いですか」）、③周囲他者の意見（設問文は「世間の人はどのように考えている人が多いと思いますか」）をそれぞれ問うた。選択肢は、①、②は「A」「A に近い」「どちらかといえば A」「どちらかといえば B」「B に近い」「B」、③は「圧倒的に A の意見の人が多い」「A の意見の人が多い」「どちらかといえば A の意見が多い」「どちらかといえば B の意見が多い」「B の意見の人が多い」「圧倒的に B の意見の人が多い」の 6 点尺度で回答していただいた。以下ではこの 6 点尺度を順位尺度とみなし、分析を行う。

（1）災害への向き合い方

まずは、災害への向き合い方である。自分自身がハザードそのものから生き延びることを考えるべきか、それとも被災者支援、復興などを考えるべきか、を明らかにするため「災害時の対応、救援活動について、次のような二つの意見があります。A.災害時、まず自分や家族が助かるための対策を考えておくことが重要である／B.災害時、いかに被災者を支援したり、ボランティアをしたりするかが重要である」と 2 つの意見を提示して問うた。①回答者自身の意見、②マスメディアの論調、③周囲他者の意見の結果に関して、視聴の有無で差が生じるかをみた結果がそれぞれ順番に図 4.2.1 から図 4.2.6 である。

「パラレル東京」視聴の有無に関わらず、全ての項目で第 1 波と第 2 波の間で有意な差がみられず（Wilcoxon の符号付き順位検定）、意見の割合はほとんど変化がなかった。



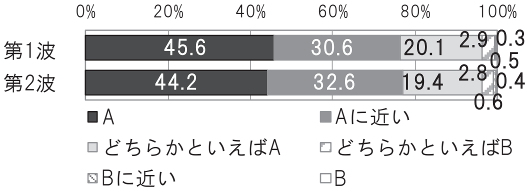
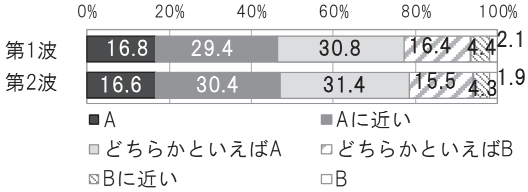


図 4.2.1　災害時の対応、救援活動に関する回答者の意見（視聴あり、n=1,825、n.s.）

図 4.2.2　災害時の対応、救援活動に関する回答者の意見（視聴なし、n=5,524、n.s.）

（Wilcoxon の符号付き順位検定, n.s.：有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01, ＊＊＊:p<.001）



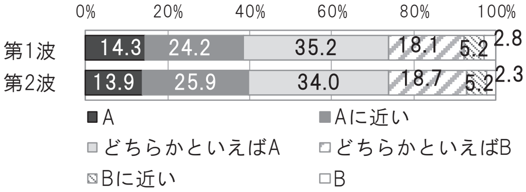
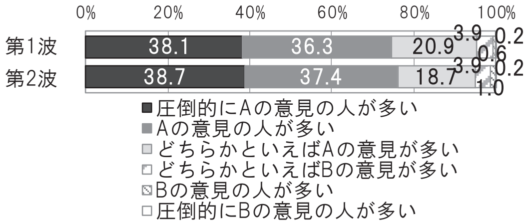


図 4.2.3　災害時の対応、救援活動に関するマスメディアの論調（視聴あり、n=1,825、n.s.）

図 4.2.4　災害時の対応、救援活動に関するマスメディアの論調（視聴なし、n=5,524、n.s.）

（Wilcoxon の符号付き順位検定, n.s.：有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01, ＊＊＊:p<.001）



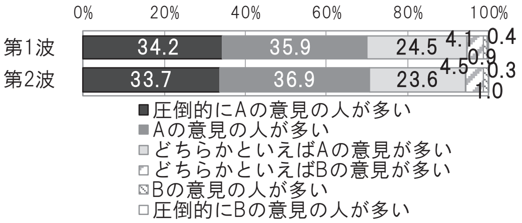


図 4.2.5　災害時の対応、救援活動に関する他者の意見（視聴あり、n=1,825、n.s.）

図 4.2.6　災害時の対応、救援活動に関する他者の意見（視聴なし、n=5,524、n.s.）

（Wilcoxon の符号付き順位検定, n.s.：有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01, ＊＊＊:p<.001）

（2）災害対策への考え方

次に、災害対策への考え方である。ハザードそのものから生き延びることを考えるべきか、それとも、ハザードによる生死は分からないので（もしくは自分が死ぬとは考えたくないので）、生き延びた後の避難生活を考えるべきか、を明らかにするため「災害時の事前対応、事後対応について、次のような二つの意見があります。 A.災害が起こってしまってからでは遅いので、災害発生前の対策を考えておくことが重要である／B.災害は防げないのだから、災害発生後の対応を考えておくことが重要である」と 2 つの意見を提示して問

うた。①回答者自身の意見、②マスメディアの論調、③周囲他者の意見の結果に関して、視聴の有無で差が生じるかをみた結果がそれぞれ順番に図 4.2.7 から図 4.2.12 である。

「パラレル東京」を視聴していない人は全ての項目で第 1 波と第 2 波の間で有意な差がみられず、意見の割合にほとんど変化がなかった(Wilcoxon の符号付き順位検定)。一方、「パラレル東京」を視聴した人の中では第 1 波から第 2 波の間で有意な差がみられた。回答者が「A (災害が起こってしまってからでは遅いので、災害発生前の対策を考えておくことが重要である)」と答える人の割合が若干、増加している (図 4.2.7)。同様にマスメディアの論調も「A」ならびに「A に近い」と答える人の割合が増加している。これは、「パラレル東京」が地震発生から 4 日間を描いており、災害発生後の対応、つまり避難生活にはほとんど言及がなされなかったことが影響していると考えられる。「パラレル東京」によって「災害が起こってしまってからでは遅いので、災害発生前の対策を考えておくことが重要である」という回答者の意見ならびにマスメディアの論調の割合が増加したと言える。ある種、番組の効果と言えよう。

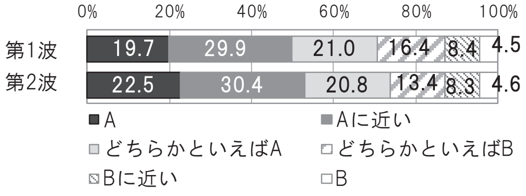


図 4.2.7　発生前の対策か発生後の対応かに関する回答者の意見（視聴あり、n=1,825、＊）

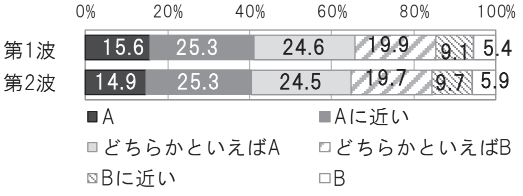


図 4.2.8　発生前の対策か発生後の対応かに関する回答者の意見（視聴なし、n=5,524、n.s.）

（Wilcoxon の符号付き順位検定, n.s. : 有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01, ＊＊＊:p<.001）

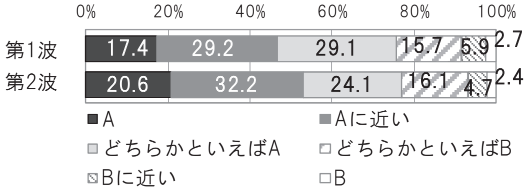


図4.2.9　発生前の対策か発生後の対応かに関するマスメディアの論調（視聴あり、n=1,825、＊＊＊）

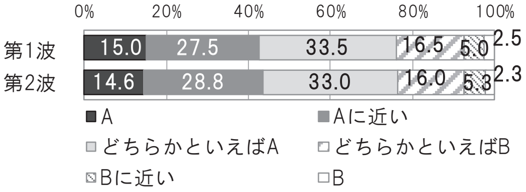


図4.2.10　発生前の対策か発生後の対応かに関するマスメディアの論調（視聴なし、n=5,524、n.s.）

（Wilcoxon の符号付き順位検定, n.s. : 有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01, ＊＊＊:p<.001）

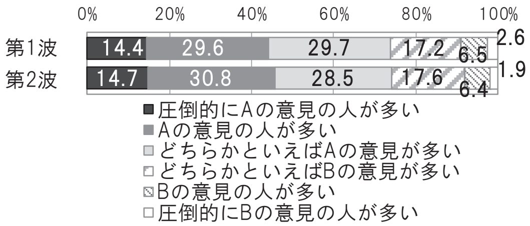


図 4.2.11　発生前の対策か発生後の対応かに関する他者の意見（視聴あり、n=1,825、n.s.）

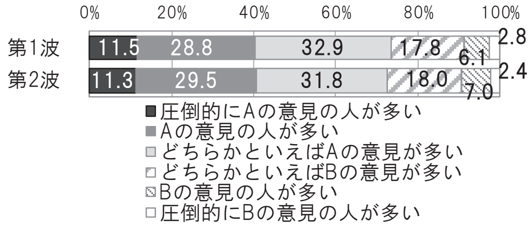


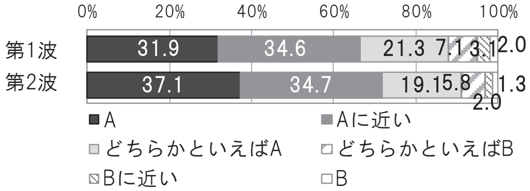
図 4.2.12　発生前の対策か発生後の対応かに関する他者の意見（視聴なし、n=5,524、n.s.）

（Wilcoxon の符号付き順位検定，n.s.：有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01，＊＊＊:p<.001）

（３）自助・公助

最後に、自助・公助への考え方である。近頃、政府などの公共機関を中心に災害対策を行うことの限界があることから（内閣府，2018）、国民ひとりひとりが防災意識を持ち、自らの命は自らが守ることが求められるようになっている。そこで、災害対策を誰が中心的に実施すると考えられているのかを明らかにするため、「災害対策を誰が中心的に実施するかについて、次のような二つの意見があります。 A.災害時には、自治体や政府は何もできないので、まず自分や家族で自分たちの身を守るべきだ／B.災害時には、まず公的な機関である自治体や政府が住民の身を守るために何とかすべきだ」と２つの意見を提示して問うた。①回答者自身の意見、②マスメディアの論調、③周囲他者の意見の結果に関して、視聴の有無で差が生じるかをみた結果がそれぞれ順番に図 4.2.13 から図 4.2.18 である。

こちらはほとんどすべての項目に関して、第 1 波と第 2 波の間で有意な差がみられた（Wilcoxon の符号付き順位検定）。いずれの項目も「A（災害時には、自治体や政府は何もできないので、まず自分や家族で自分たちの身を守るべきだ)」という自助の考え方に関して、有意に増加している。前項と同様に「パラレル東京」を視聴した人が①回答者自身の意見、②マスメディアの論調に関して自助の意見が有意に増加になることは番組の影響と考えられる。だが、それだけではなく、③周囲他者の意見、ならびに「パラレル東京」を視聴していない人の①回答者自身の意見、②マスメディアの論調に関しても自助の意見が有意に増加している。だが、その要因についてここからは読み取れない。これについて明らかにすることは今後の課題ともいえる。



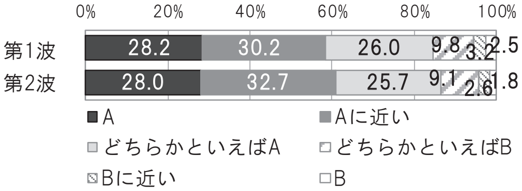
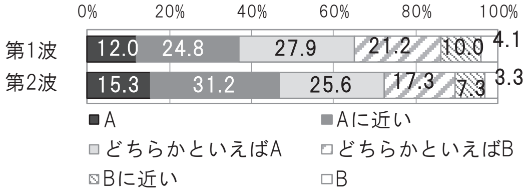


図 4.2.13　自助・公助に関する回答者の意見（視聴あり、n=1825、＊＊＊）

図 4.2.14　自助・公助に関する回答者の意見（視聴なし、n=5524、＊＊＊）

（Wilcoxon の符号付き順位検定, n.s.：有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01, ＊＊＊:p<.001）



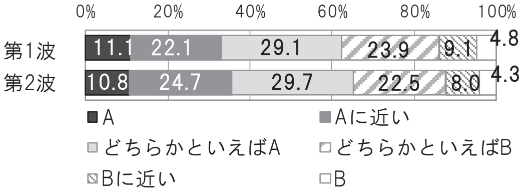
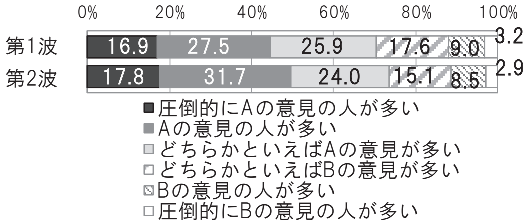


図 4.2.15　自助・公助に関するマスメディアの論調（視聴あり、n=1825、＊＊＊）

図 4.2.16　自助・公助に関するマスメディアの論調（視聴なし、n=5524、＊＊＊）

（Wilcoxon の符号付き順位検定, n.s.：有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01, ＊＊＊:p<.001）



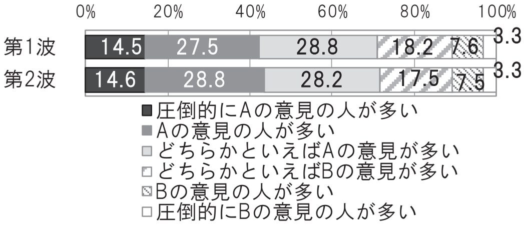


図 4.2.17　自助・公助に関する他者の意見（視聴あり、n=1,825、＊＊＊）

図 4.2.18　自助・公助に関する他者の意見（視聴なし、n=5,524、n.s.）

（Wilcoxon の符号付き順位検定, n.s.：有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01, ＊＊＊:p<.001）

4.3　知識の変化

本節では知識の変化について述べる。

マスコミュニケーションの効果研究の一つに知識ギャップ仮説がある。これは社会にマスメディアからの情報が流入すると、社会経済的地位の高い層から情報を取得して知識量を増やす。さらに、その知識増大のペースが速いことから、社会経済的地位の低い層との知識格差が増加する傾向があるというものである（Tichenor et al, 1970）。こうした考えを本研究にあてはめるならば、首都直下地震に関する知識を持っている人ほど「パラレル

東京」を視聴し、視聴した人ほどさらに首都直下地震に関する知識を手にすることで、その後も知識を増加させ、時間の経過とともに視聴していない人との知識の差が拡大する、と考えられる。

そこでまず、地震や火災に関する用語を 10 項目用意し、「知っている」「知らない」で単純に認知を問うた。第 1 波と第 2 波それぞれで問うており（第 1 波 Q2、第 2 波 Q13)、その結果がそれぞれ図 4.3.1 ならびに図 4.3.2 である。「火災旋風」や「群衆雪崩」といった「パラレル東京」のテーマとなった用語の認知率が上昇していることがわかる。

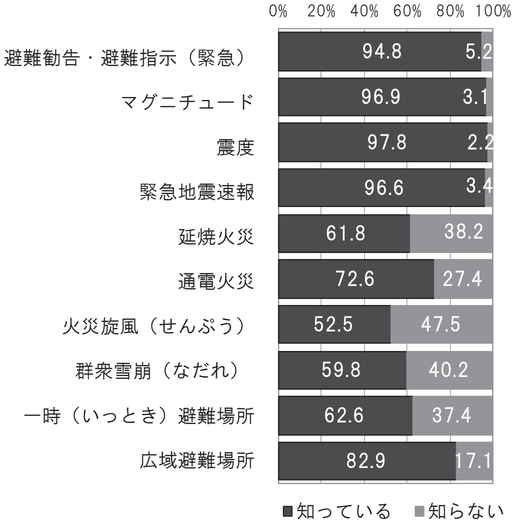


図 4.3.1 地震・火災に関する用語の認知度（第 1 波、n=7,349)

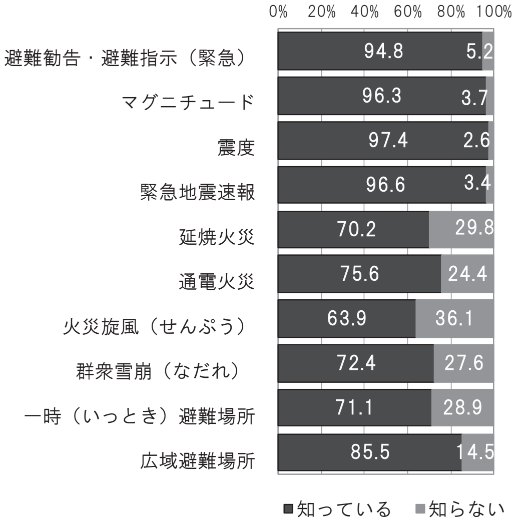


図 4.3.2 地震・火災に関する用語の認知度（第 2 波、n=7,349)

この中でも特に第 1 波調査で認知率の低かった「火災旋風」に関して、第 1 波から第 2 波の認知率の変化を「パラレル東京」の視聴の有無で差をみたのが図 4.3.3 である。そもそも「火災旋風」という用語を認知しているような人が「パラレル東京」を視聴しており、第 2 波では視聴した人の認知度は約 20％上昇し、視聴しなかった人との認知度の差がさらに増大した。ただし、視聴しなかった人でも増加している。また、紙幅の都合上省略するが、「延焼火災」、「通電火災」、「群衆雪崩」、「一時避難場所」、「広域避難場所」の認知率に関しても同様の傾向であった。

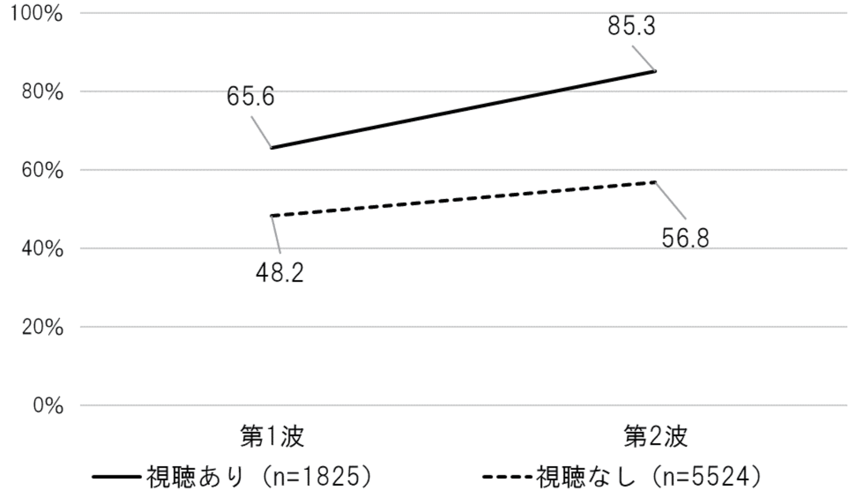


図 4.3.3　火災旋風の認知度の変化

次に、火災に関する知識について、さらに具体的に問うた。「あなたは火災について、次のことを知っていますか」として、9つの項目に対して、「知っている」「知らない」「意味がよく分からない」の3択で回答していただいた（第1波 Q6、第2波 Q17）。ここで設定した項目は首都直下地震に備えるうえで重要と考えられる項目を筆者らが設定したものである。第1波と第2波それぞれで問うており、その結果がそれぞれ図 4.3.4 ならびに図 4.3.5 である。ほとんどの項目で、第1波から第2波にかけて「知っている」割合が増加している。

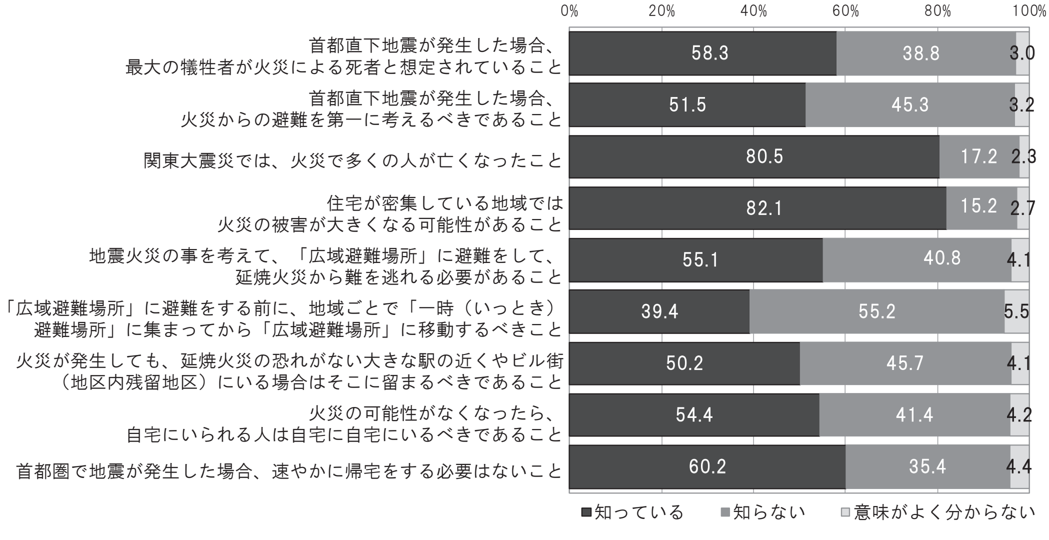


図 4.3.4　火災に関する知識（第1波、n=7,349）

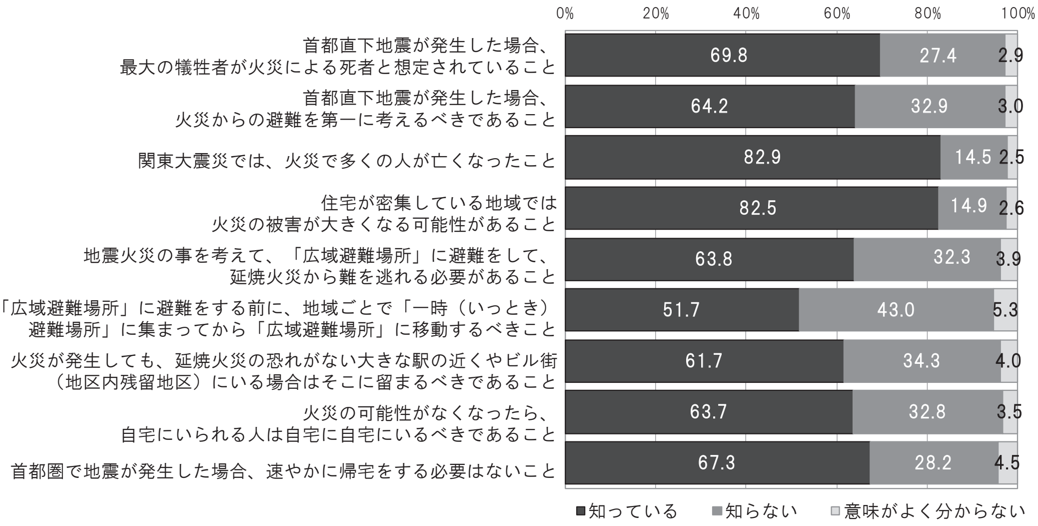


図 4.3.5　火災に関する知識（第 2 波、n=7,349）

そこでさらに、「パラレル東京」を視聴した効果を明らかにするために、この 9 つの項目に対して「知っている」と答えた数を算した。その平均値が第 1 波の時点では、「パラレル東京」を視聴した人は 6.4 個、「パラレル東京」を視聴していない人は 5.0 個であった。これも先と同様に火災に関する知識がある人が「パラレル東京」を視聴している。これらの差は U 検定の結果、有意な差であった（表 4.3.6）。そして第 2 波になると、「パラレル東京」を視聴した人は 7.5 個、「パラレル東京」を視聴していない人は 5.7 個であった。こちらも先と同様に視聴した人の方が知識を多く得ており、知識の差が開いている。これらの差も U 検定の結果、有意な差であった（表 4.3.6）。つまり、知識ギャップがみられた。

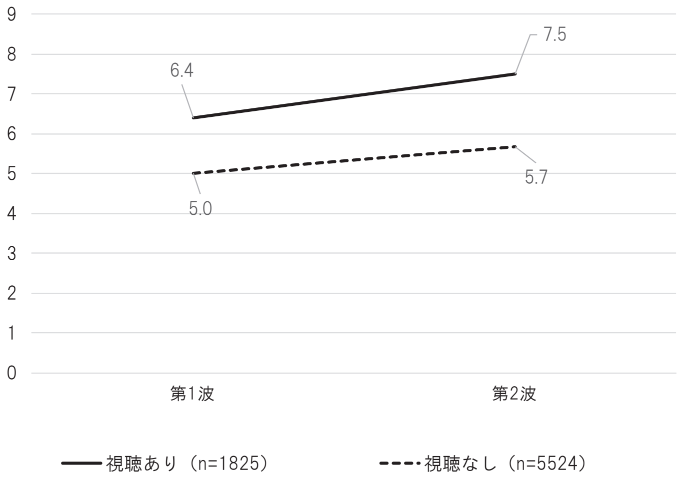


図 4.3.6　火災に関する知識の変化

表 4.3.6　視聴の有無と火災に関する知識の関係（＊＊＊：p< .001）

	平均値（SD）			
	視聴あり（n=1825）	視聴なし（n=5524）	Mann-Whitney の U	有意確率
第1波	6.4個（6.8）	5.0個（9.6）	3784119.50	＊＊＊
第2波	7.5個（4.8）	5.7個（10.2）	3338224.50	＊＊＊

以上のように、首都直下地震に関する知識を持っている人ほど「パラレル東京」を視聴し、視聴した人ほどさらに首都直下地震に関する知識を手にすることで、視聴していない人との知識の差が拡大したことが実証された。今後は、時間が経過した後に知識がどのような推移をたどるのかを明らかにする必要がある。

4.4　視聴後の行動

本節では「パラレル東京」を視聴した人の視聴後の防災に関する行動について述べる。

まず、首都直下地震に関する情報への接触度である。第 2 波の調査で「あなたは 12 月に入ってから､首都直下地震に関する情報に接しましたか｣と複数回答で問うた(第 2 波 Q36)。その結果が図 4.4.1 である。いずれの項目でも「パラレル東京」を視聴した人の方が多い（検定は参考として記載)。「パラレル東京」を視聴していない人でも 43.4%の人が何かしらの首都直下地震に関する情報に接触していることがわかる。

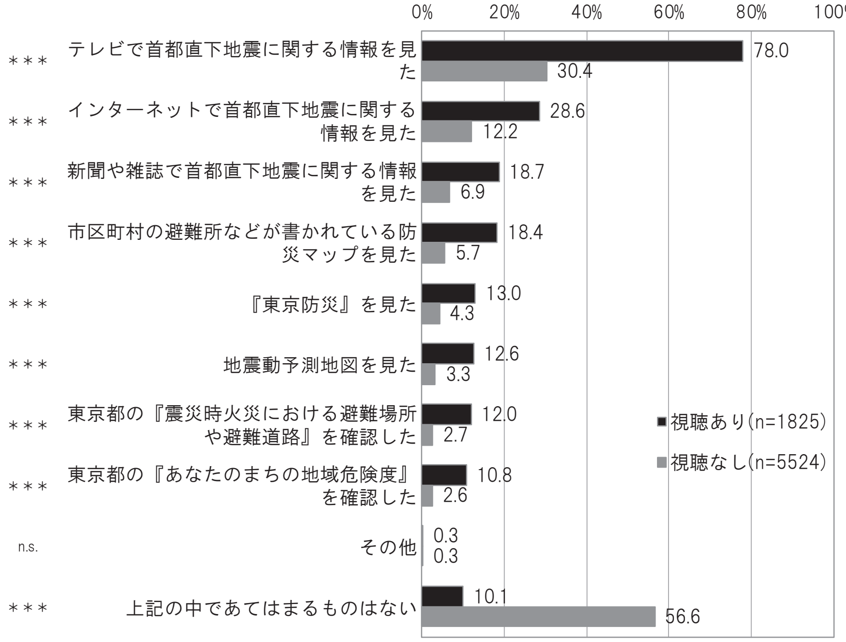


図 4.4.1　首都直下地震に関する情報接触度

（χ^2 検定，n.s.：有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01，＊＊＊:p<.001）

次に具体的な地震対策行動である。「パラレル東京」を視聴した人はどれほど、対策行動をとったのか。第2波調査は、番組終了からすぐの調査であったため、比較的、短時間で可能であり、経済的コストが低いものに絞って「あなたは12月に入ってから、次のような地震対策の中で、新たに行うようになったもの、もしくは改めて行ったものはありますか」と複数回答で問うた（第2波Q15）。その結果が図4.4.2である。いずれの項目も「パラレル東京」を視聴した人の方が多い（検定は参考として記載）。最も多かったのは「水の備蓄」で視聴した人の約半数が行っていた。多くの人が何かしらの地震対策行動をとったことがわかる。

以上のように、「パラレル東京」を視聴した人には態度や意見、知識、行動の面で視聴していない人と比較して、一定の効果がみられた。

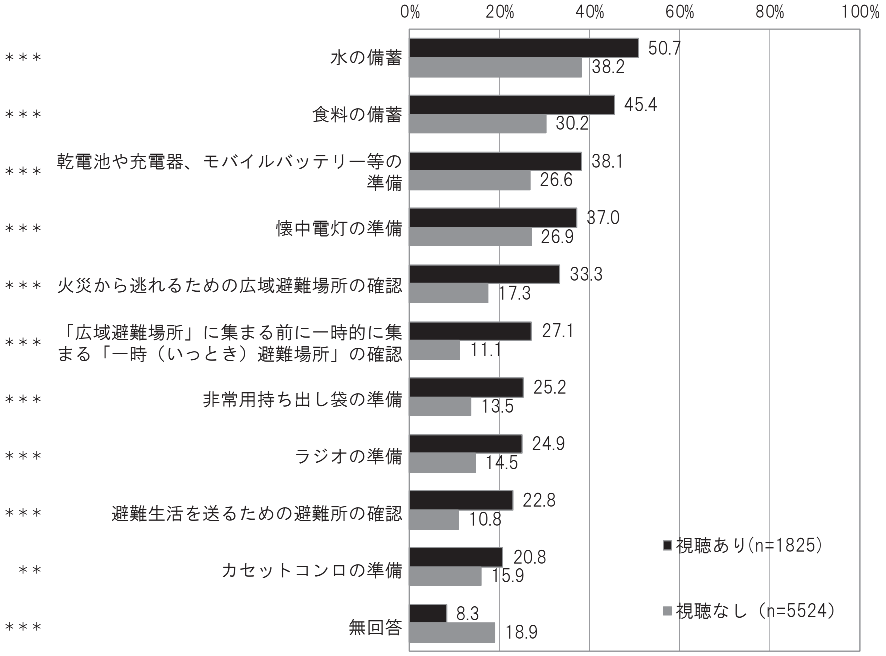


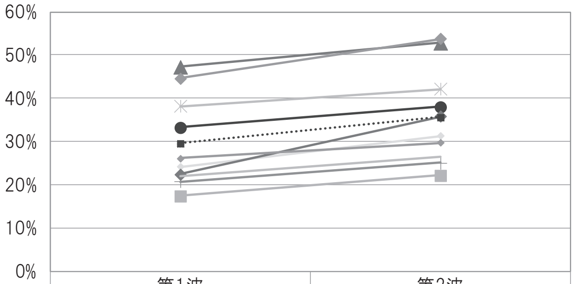
図4.4.2　12月に入ってからの地震対策行動

（χ^2検定，n.s.：有意差なし、＊:p<.05、＊＊:p<.01，＊＊＊:p<.001）

５．不安感の変化

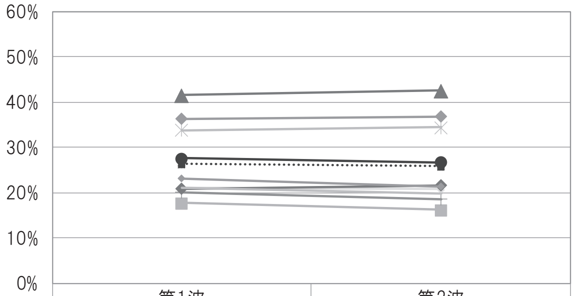
5.1　首都直下地震による首都圏への影響に対する不安感

ここでは、首都直下地震が起きた場合の被害を想定した「不安感」（中でも「とても不安を感じる」と回答した人の割合）が、番組放送前に実施した第1波調査と、放送後に実施した第2波調査ではどのように変化したのか、また番組視聴有無でいかに異なるのか、それぞれの意識の違いや変化を捉える。



	第1波	第2波
1. 首都圏内で電話がつながらなくなる	47.3%	52.8%
2. 首都圏内でメールやLINE・Twitterが使えなくなる	38.2%	42.1%
3. 首都圏内で大規模な延焼火災が発生する	44.6%	53.7%
4. 首都圏内の建物やエレベーター内に人が閉じ込められる	33.3%	38.0%
5. 首都圏内でデマ・流言がまん延する	24.1%	31.2%
6. 首都圏内で土砂災害が発生する	17.5%	22.2%
7. 首都圏内で液状化が発生する	20.8%	25.1%
8. 首都圏内で群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しが発生する	22.5%	35.7%
9. 首都圏内の工場や建物で爆発が起こる	21.9%	26.5%
10. 首都圏内の川がはん濫したり決壊したりする	26.2%	29.7%
全体平均	29.6%	35.7%

図 5.1.1 「とても不安を感じる」と回答した人の割合の変化（視聴あり）（n=1,825）



	第1波	第2波
1. 首都圏内で電話がつながらなくなる	41.6%	42.5%
2. 首都圏内でメールやLINE・Twitterが使えなくなる	33.9%	34.4%
3. 首都圏内で大規模な延焼火災が発生する	36.4%	36.8%
4. 首都圏内の建物やエレベーター内に人が閉じ込められる	27.6%	26.7%
5. 首都圏内でデマ・流言がまん延する	21.1%	20.8%
6. 首都圏内で土砂災害が発生する	17.8%	16.2%
7. 首都圏内で液状化が発生する	20.1%	18.6%
8. 首都圏内で群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しが発生する	20.9%	21.6%
9. 首都圏内の工場や建物で爆発が起こる	21.2%	19.8%
10. 首都圏内の川がはん濫したり決壊したりする	23.2%	21.5%
全体平均	26.4%	25.9%

図 5.1.2 「とても不安を感じる」と回答した人の割合の変化（視聴なし）（n=5,524）

まず、「首都直下地震が起きた場合、以下のような被害が発生することに対して、どの程度不安を感じますか」と質問し、次の 10 項目に対する不安感を尋ねた。すなわち「1. 首都圏内で電話がつながらなくなる」、「2. 首都圏内でメールや LINE・Twitter が使えなくなる」、「3. 首都圏内で大規模な延焼火災が発生する」、「4. 首都圏内の建物やエレベーター内に人が閉じ込められる」、「5. 首都圏内でデマ・流言がまん延する」、「6. 首都圏内で土砂災害が発生する」、「7. 首都圏内で液状化が発生する」、「8. 首都圏内で群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しが発生する」、「9. 首都圏内の工場や建物で爆発が起こる」、「10. 首都圏内の川がはん濫したり決壊したりする」の 10 項目である（第 1 波 Q22、第 2 波 Q32）。これらは主にドラマ「パラレル東京」内で取り上げられていたり、触れられていた首都直下地震によるさまざまな被害の内容を軸に作成した項目である。回答は「とても不安を感じる」、「やや不安を感じる」、「どちらともいえない」、「あまり不安を感じない」、「全く不安を感じない」の 5 件法で、いずれか 1 つ選択する形で回答を得た。

結果は、図 5.1.1、図 5.1.2、表 5.1.1 の通りである。まず、第 1 波調査から第 2 波調査にかけて、「視聴あり」の人たちの間で、10 項目いずれについても「とても不安を感じる」と回答した人の割合が数値的に増加していた。中でも「首都圏内で群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しが発生する」は最も多く 13.3%増加していた。次に「首都圏内で大規模な延焼火災が発生する」が 9.1%、第三に「首都圏内でデマ・流言がまん延する」が 7.1%増加していた。表 5.1.1 には、「とても不安を感じる」を「1」、それ以外を「0」とし、「1」を回答した人の割合と、マクネマー検定を行った結果を示した。

表 5.1.1 視聴有無によって異なる第 1 波と第 2 波間の不安意識の変化

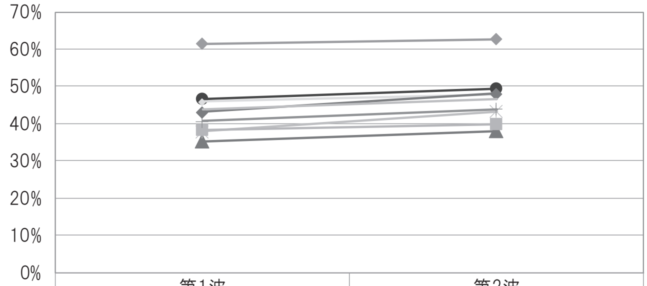
項目	視聴あり（N=1,825）			視聴なし（N=5,524）		
	第1波	第2波	差	第1波	第2波	差
1. 首都圏内で電話がつながらなくなる	47.3%	52.8%	5.5% ***	41.6%	42.5%	0.9%
2. 首都圏内でメールやLINE・Twitterが使えなくなる	38.2%	42.1%	3.9% **	33.9%	34.4%	0.6%
3. 首都圏内で大規模な延焼火災が発生する	44.6%	53.7%	9.1% ***	36.4%	36.8%	0.5%
4. 首都圏内の建物やエレベーター内に人が閉じ込められる	33.3%	38.0%	4.7% ***	27.6%	26.7%	-0.9%
5. 首都圏内でデマ・流言がまん延する	24.1%	31.2%	7.1% ***	21.1%	20.8%	-0.3%
6. 首都圏内で土砂災害が発生する	17.5%	22.2%	4.7% ***	17.8%	16.2%	-1.5% **
7. 首都圏内で液状化が発生する	20.8%	25.1%	4.3% ***	20.1%	18.6%	-1.5% **
8. 首都圏内で群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しが発生する	22.5%	35.7%	13.3% ***	20.9%	21.6%	0.7%
9. 首都圏内の工場や建物で爆発が起こる	21.9%	26.5%	4.7% ***	21.2%	19.8%	-1.3%
10. 首都圏内の川がはん濫したり決壊したりする	26.2%	29.7%	3.5% **	23.2%	21.5%	-1.8% **

（McNemarの検定，**p<.01, ***p<.001）

5.2 自宅や自分、家族への影響に対する不安感

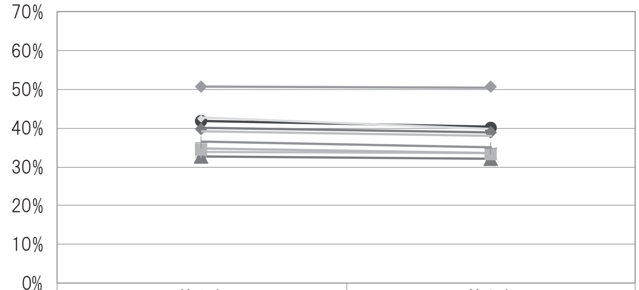
次に、「自宅や自分、家族への影響」に対する不安感について、「首都直下地震が起きた場合、以下のような被害にあうことに対して、どの程度不安を感じますか」

と質問し、以下の８項目に対する不安感を尋ねた（第１波 Q24、第２波 Q34)。すなわち、「1.自宅が倒壊する」、「2. 自宅が火災に遭う」、「3. 自宅のインフラ（電気・



	第1波	第2波
1. 自宅が倒壊する	35.3%	38.1%
2. 自宅が火災に遭う	37.9%	43.3%
3. 自宅のインフラ（電気・ガス・水道）が止まる	61.4%	62.6%
4. 自分や家族がケガをする	46.7%	49.4%
5. 自分や家族が命を落とす	45.9%	47.8%
6. 自分や家族が帰宅困難者になる	38.4%	39.8%
7. 自分や家族が避難生活を余儀なくされる	40.7%	43.8%
8. 自分や家族の食べ物・飲み物がなくなる	43.1%	48.1%
全体平均	43.7%	46.6%

図 5.2.1 「とても不安を感じる」と回答した人の割合の変化（視聴あり）（n=1,825）



	第1波	第2波
1. 自宅が倒壊する	32.7%	32.1%
2. 自宅が火災に遭う	33.9%	33.8%
3. 自宅のインフラ（電気・ガス・水道）が止まる	50.8%	50.7%
4. 自分や家族がケガをする	41.9%	40.3%
5. 自分や家族が命を落とす	42.6%	39.7%
6. 自分や家族が帰宅困難者になる	34.7%	33.5%
7. 自分や家族が避難生活を余儀なくされる	36.5%	35.0%
8. 自分や家族の食べ物・飲み物がなくなる	39.9%	38.9%
全体平均	39.1%	38.0%

図 5.2.2 「とても不安を感じる」と回答した人の割合の変化（視聴なし）（n=5,524）

ガス・水道）が止まる」、「4. 自分や家族がケガをする」、「5. 自分や家族が命を落とす」、「6. 自分や家族が帰宅困難者になる」、「7. 自分や家族が避難生活を余儀なくされる」、「8. 自分や家族の食べ物・飲み物がなくなる」の 8 項目である。これらは、地震が発生した際に遭うことが予想される被害を軸に作成した項目である。回答は、「とても不安を感じる」～「全く不安を感じない」の 5 件法から回答を得た。

結果は、図 5.2.1、図 5.2.2、表 5.2.1 の通りである。全体として視聴有無に関わらず、「自宅のインフラ（電気・ガス・水道）が止まる」が、他の項目と比べ不安感が高かった。また、5.1 と同様、第 1 波調査から第 2 波調査にかけて変化を見ると、「視聴あり」の人達の間で 8 項目いずれにおいても不安感（「とても不安を感じる」と回答した人の割合）が数値的に増加していた。中でも「自宅が火災に遭う」が比較的多く、5.4%増加していた。ドラマ「パラレル東京」においては、延焼火災や火災旋風など首都直下地震による火災の被害が象徴的に取り上げられていた。表 5.1.1 と同様、表 5.2.1 には「とても不安を感じる」を「1」、それ以外を「0」とし、「1」を回答した人の割合と、マクネマー検定を行った結果を示した。

表 5.2.1 視聴有無によって異なる第 1 波と第 2 波間の不安意識の変化

項目	視聴あり（N=1,825）			視聴なし（N=5,524）		
	第1波	第2波	差	第1波	第2波	差
1. 自宅が倒壊する	35.3%	38.1%	2.7%	32.7%	32.1%	-0.6%
2. 自宅が火災に遭う	37.9%	43.3%	5.4% ***	33.9%	33.8%	0.0%
3. 自宅のインフラ（電気・ガス・水道）が止まる	61.4%	62.6%	1.2%	50.8%	50.7%	-0.1%
4. 自分や家族がケガをする	46.7%	49.4%	2.7%	41.9%	40.3%	-1.5%
5. 自分や家族が命を落とす	45.9%	47.8%	1.9%	42.6%	39.7%	-3.0% ***
6. 自分や家族が帰宅困難者になる	38.4%	39.8%	1.5%	34.7%	33.5%	-1.2%
7. 自分や家族が避難生活を余儀なくされる	40.7%	43.8%	3.2% **	36.5%	35.0%	-1.5%
8. 自分や家族の食べ物・飲み物がなくなる	43.1%	48.1%	5.0% ***	39.9%	38.9%	-1.0%

（McNemarの検定，**p<.01, ***p<.001）

5.3　不安感の変化に関するまとめ

以上、首都直下地震が起きた場合の被害を想定した上での、「不安感」（「とても不安を感じる」と回答した人の割合）に注目して、第 1 波調査（番組放送前）と第 2 波調査（番組放送後）における変化について見た結果、下記の諸点が明らかになった。

第一に、「視聴あり」の人の間で、特に「首都圏内で群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しが発生する」について、「とても不安を感じる」と回答した人の割合が大きく増加し

ていた。第二に、「首都圏内で大規模な延焼火災が発生する」や「自宅が火災に遭う」においても「とても不安を感じる」と回答した人の割合が相対的に高くなっていた。いずれについても、「パラレル東京」で取り上げられていた首都直下地震による被害のうちの一つであり、映像としてもインパクトのあるシーンであったことが考えられる。第三に、全体的に見て「視聴あり」の人は、放送後に「とても不安を感じる」と回答した人の割合が全体的に高くなっていた。

以上のことから、「パラレル東京」が放送されたことによって、「視聴あり」の人達の間に、首都直下地震に対する不安感、中でも群衆雪崩や将棋倒し、火災に対する「不安感」(「とても不安を感じる」とする人の割合)が増加し、影響が生じていたものと推測される。

６．居住地域による差異

今回の調査では東京都内在住者を対象としているが、「パラレル東京」の題材である首都直下地震における被害の程度は、東京都内といえどもさまざまである。地震による家屋倒壊は震源地に近いほど被害が大きいであろう。内閣府の「首都直下地震の被害想定と対策について(最終報告)」によると(内閣府ホームページ,2013b)、冬の夕方に発災した場合、揺れによる全壊よりも地震火災による被害の方が大きくなる。そこで、この内閣府の都心南部直下地震の焼失棟数を参考に、回答者を居住地で表6.1.1のように23区東部(n=1,717)、23区中部(n=1,187)、23区西部(n=2,243)、多摩地域(n=2,198)、島しょ部(n=4)に分けた。23区東部では建物の倒壊と焼失棟数が多く、23区西部は焼失棟数が多い。23区中部は東部や西部ほどではないがある程度の被害が想定されるが、多摩地域はそれほどでもない。また島しょ部は回収サンプルサイズが小さいため除外した。本章では、この４つの地域で、視聴態度や視聴の影響、等について比較していく。

表 6.1.1 地域の区分とサンプルサイズ

地域	対象市区町村（カッコ内はサンプルサイズ）			
23 区東部 (1717 人)	足立区(325 人) 北区(206 人)	荒川区(99 人) 江東区(301 人)	江戸川区(310 人) 墨田区(141 人)	葛飾区(228 人) 台東区(107 人)
23 区中部 (1187 人)	新宿区(195 人) 千代田区(29 人)	板橋区(315 人) 豊島区(169 人)	渋谷区(113 人) 文京区(138 人)	中央区(97 人) 港区(131 人)
23 区西部 (2243 人)	大田区(386 人) 世田谷区(499 人)	品川区(244 人) 中野区(201 人)	杉並区(357 人) 練馬区(405 人)	 目黒区(151 人)
多摩地域 (2198 人)	昭島市(44 人) 清瀬市(43 人) 国分寺市(76 人) 多摩市(86 人) 八王子市(257 人) 東村山市(85 人) 福生市(33 人) 武蔵野市(102 人) 瑞穂町(11 人)	あきる野市(32 人) 国立市(36 人) 小平市(99 人) 調布市(148 人) 羽村市(18 人) 東大和市(41 人) 町田市(228 人) 武蔵村山市(26 人) 檜原村(0 人)	稲城市(40 人) 小金井市(70 人) 狛江市(44 人) 西東京市(133 人) 東久留米市(51 人) 日野市(112 人) 三鷹市(98 人) 奥多摩町(1 人)	青梅市(50 人) 立川市(97 人) 府中市(134 人) 日の出町(3 人)
島しょ部 (4 人)	大島町(1 人) 神津島村(1 人) 小笠原村(0 人)	八丈町(1 人) 三宅村(0 人)	利島村(0 人) 御蔵島村(0 人)	新島村(1 人) 青ヶ島村(0 人)

6.1　居住地域による「パラレル東京」接触・態度

まず、４つの地域で「パラレル東京」の視聴（第 2 波 Q3）について差異があるのか確認する。「パラレル東京」自体はプロローグと DAY1～DAY4 までであるが、ＮＨＫが「首都直下ウィーク」として放送した 2 回のＮＨＫスペシャルも含めた合計７本の番組を対象とする。なお、ここでは DAY1～DAY4 以外の視聴者について示すが、以下の分析ではこれまでと同じく、DAY1～DAY4 を「放送中にすべて見た」「放送中に一部見た」「録画したものを見た」「ＮＨＫオンデマンドで見た」を視聴者、「見なかった」を非視聴者とした。地域ごとの各回の視聴者の比率、およびいずれか１回でも見た人の比率をまとめたものが表 6.1.2 である。いずれの地域でも初回の「プロローグ」の視聴者が最も多く 20%強で、回を追うごとに視聴者の比率が小さくなっていく。また、いずれか１回でも見た人の意率は 25%前後であった。いずれにおいても 23 区東部がもっとも低い傾向はあるものの、χ^2検定の結果では５％水準で有意な差は見られなかった。

表 6.1.2 地域ごとの「パラレル東京」視聴者の比率

	23 区東部 (n=1717)	23 区中部 (n=1187)	23 区西部 (n=2243)	多摩地域 (n=2198)	χ^2 値	p 値
プロローグ（12/1）	21.5%	24.5%	22.2%	22.7%	3.74	0.2912
DAY1（12/2）	20.1%	21.9%	22.0%	22.4%	3.43	0.3303
DAY2（12/3）	18.0%	18.9%	19.4%	19.4%	1.62	0.6540
DAY3（12/4）	16.8%	18.8%	18.4%	18.7%	3.06	0.3828
DAY4（12/5）	16.8%	19.0%	18.5%	18.7%	3.33	0.3428
NHK ｽﾍﾟｼｬﾙ（12/7）	14.7%	17.3%	16.9%	17.2%	5.37	0.1467
NHK ｽﾍﾟｼｬﾙ（12/8）	14.8%	17.9%	16.5%	17.7%	7.46	0.0586
いずれか１回でも見た	23.3%	25.0%	25.6%	25.2%	3.09	0.3778

※23 区東部の NHK スペシャル（12/7・12/7）は、残差分析の結果５％水準で有意に低い。

次に「パラレル東京」を視聴した人に対して、もっとも印象に残ったものが何であるか（第 2 波 Q6）を比較する（表 6.1.3)。χ^2検定では有意ではなかったものの、残差分析を行った結果、23 区東部では延焼火災が低く、23 区西部では火災旋風が高くデマや誤った情報によるパニックが低く、多摩地域で火災旋風が低かった（いずれも５％未満の水準)。23 区東部は 23 区中部や多摩地域と比べて延焼火災のリスクが高いにもかかわらず他の地域よりも低くなっているが、単一選択式であるため有意ではないものの火災旋風が高くなっており、火災旋風の印象が強かったのであろう。

表 6.1.3 地域ごとの「パラレル東京」でもっとも印象に残ったもの（SA・視聴者のみ）

	23 区東部 (n=400)	23 区中部 (n=297)	23 区西部 (n=575)	多摩地域 (n=553)
登場人物の心の葛藤や行動	16.3%	19.2%	16.9%	18.1%
延焼火災	10.5% -	13.5%	15.1%	15.7%
火災旋風	24.5%	18.9%	25.4% +	18.6% -
都内の物的被害（建物、道路など）	17.5%	15.8%	17.0%	17.0%
都内の人的被害（遺体、群衆雪崩など）	18.0%	20.2%	16.5%	17.9%
デマや誤った情報によるパニック	9.8%	9.1%	6.4% -	9.9%
レスキュー隊員などによる救助のシーン	1.8%	1.0%	1.0%	0.5%
その他	1.8%	2.4%	1.6%	2.2%

※ $\chi^2(21)=25.55$、$p=0.2238$

※数値横の+-は、残差分析の結果、５％水準で+は高い、-は低いことを示す。

表 6.1.4 地域ごとの「パラレル東京」で感じたこと

	23 区東部 (n=400)	23 区中部 (n=297)	23 区西部 (n=575)	多摩地域 (n=553)	*F* 値	*p* 値
こうした地震が本当に起こり得ると感じた	3.57	3.59	3.58	3.59	0.10	0.9576
ちょっと大げさすぎると感じた	2.05	2.10	2.06	2.03	0.42	0.7354
首都直下地震への不安を感じた	3.47	3.51	3.55	3.55	1.58	0.1912
いくら内閣府の想定に基づいていたとしても、フィクションにすぎないと感じた	2.02	2.00	1.96	1.97	0.57	0.6368
いざ首都直下地震が起きたとき、自分はどうすべきなのかを考えた	3.35	3.38	3.35	3.35	0.16	0.9225
さすがにここまでの被害は起きないだろうと思った	1.95	2.01	1.93	1.92	0.86	0.4598
地震対策の必要性を感じた	3.48	3.47	3.50	3.52	0.61	0.6090
首都直下地震ではこういう被害が生じるのだなとイメージできた	3.39	3.42	3.42	3.41	0.19	0.9050
私たち一人一人がどのように動けば良いのか、具体的なイメージがつくようになった	3.03	3.01	2.95	3.03	1.35	0.2550
過去の地震を思い出した	2.98	2.87	2.83	2.94	2.72	0.0430
気が滅入った	2.86	2.81	2.75	2.70	2.68	0.0455
改めて、東京は危ないところだと思った	3.24	3.12	3.17	3.20	1.49	0.2155
帰宅困難になったら家に帰らず、その場に留まろうと思うようになった	3.15	3.15	3.16	3.18	0.14	0.9334
首都直下地震が発生したら、火災を考えて避難をしようと思うようになった	3.28	3.29	3.33	3.35	1.11	0.3451
これから首都直下地震に備えて、多くのことを学んでいこうと思うようになった	3.23	3.25	3.24	3.29	0.73	0.5318
事前に家族との安否確認の方法や待ち合わせ場所を確認しておこうと思うようになった	3.16	3.21	3.21	3.25	1.26	0.2869
備蓄などを常にしておきたいと思うようになった	3.33	3.29	3.32	3.41	2.59	0.0516

※Tukey の多重範囲検定では、５％水準で有意なものは見られなかった。
※「あてはまる」を４～「あてはまらない」を１とした平均値。

地域ごとに「パラレル東京」をみて感じたこと（第 2 波 Q7）を確認したものが表 6.1.4 である。各数値は、「あてはまる」を４～「あてはまらない」を１とした平均値である。５％水準で見た場合、ほとんどの項目で地域による差異は見られなかった。「過去の地震を思い出した」と「気が滅入った」の 2 項目で分散分析による関連は見られたが、具体的な差異は Tukey の多重範囲検定の結果で有意なものは見られなかった。

以上のように、「パラレル東京」の接触や印象等について、地域による明確な差異はほとんど見られなかった。

6.2　地域ごとの「パラレル東京」視聴有無による影響の比較

居住地域によって、「パラレル東京」の視聴態度にはほとんど差異がみられなかったが、視聴の有無によって首都直下地震に対する不安や被害を受ける想定などの態度の変化に差異はないのであろうか。

まず初めに、地域ごとに視聴の有無で、首都直下地震に対する不安とどの程度自分事と

考えているかの変化に差があるのか確認する。首都直下地震に対する不安（第 1 波 Q1、第 2 波 Q13）について、「とても不安を感じる」を 6 ～「まったく不安を感じない」を 1 としたうえで、第 2 波調査－第 1 波調査として首都直下不安の変化量とした。また首都直下地震をどの程度自分事としてとらえているか（第 1 波 Q17、第 2 波 Q28）について、「強く「自分ごと」としてとらえている」を 6 ～「全く「自分ごと」としてとらえていない」を 1 としたうえで、第 2 波調査－第 1 波調査として自分事程度の変化量とした。これらを各地域で「パラレル東京」の視聴者と非視聴者で差異があるのか確認したものが表 6.2.1 である。

表 6.2.1 各地域の「パラレル東京」視聴有無による首都直下地震への不安の変化と首都直下地震の自分事の程度の変化

	23区東部		23区中部		23区西部		多摩地域	
	視聴者	非視聴者	視聴者	非視聴者	視聴者	非視聴者	視聴者	非視聴者
n	400	1317	297	890	575	1668	553	1645
首都直下不安	0.10	-0.06 ***	0.01	-0.01	0.11	-0.02 **	0.09	-0.03 **
自分事程度	0.23	0.12 *	0.27	0.08 *	0.27	0.06 ***	0.29	0.12 ***

※数値は 2 回目調査－1回目調査。
※数値横の記号は、視聴者と非視聴者の間にKruskal-Wallis 検定の結果、***：p<.001、**：p<.01、*、p<.05で有意差があることを示す。

首都直下不安の変化量は、23 区東部、23 区西部、多摩地域で有意に視聴者が非視聴者よりも高くなっている。つまりこの 3 地域では、「パラレル東京」を視聴したことによって首都直下地震に対する不安が増加しているといえよう。ここで、非視聴者の不安が若干ではあるが負の値を示しているが、これは単純集計を見ても明らかであるが天井効果であろう。また、多摩地域の不安も増加しているが、これは多摩直下地震や立川断層帯地震のためであろう。一方 23 区中部では比較的非木造建築が多く、地震による揺れは大きいが、他の地域に比べて倒壊や地震火災による延焼が多くないことによるものであろう。

また、自分事の程度はいずれの地域においても視聴者が非視聴者よりも高くなっている。つまりすべての地域で「パラレル東京」を視聴したことによって首都直下地震が自分ごとであるという意識が高まったといえる。

つぎに、地域ごとに視聴の有無で、首都直下地震での被害に対する不安と自分自身が被害にあう確率の変化に差があるのか確認する。首都直下地震の被害に対する不安（第 1 波 Q20 および Q24、第 2 波 Q30 および Q34）について、「とても不安を感じる」を 6 ～「まったく不安を感じない」を 1 としたうえで、第 2 波調査－第 1 波調査として不安の変化量とした。また首都直下地震の被害に自分があう確率（第 1 波 Q21 および Q25、第 2 波 Q31 および Q35）について、「10％以下」を 10～「100％」を 100 としたうえで、第 2 波調査－第

1 波調査として被害にあう確率の変化量とした。

これらを各地域で「パラレル東京」の視聴者と非視聴者で差異があるのかを、それぞれの被害ごとに不安・確率の順に確認したものが表 6.6 である。ここで、不安と被害にあう確率の関係について触れておく。いずれも視聴者が高くなる前提であるが、分析結果は不安と被害にあう確率が有意か否かで、以下の４象限に分けることができる。【象限１】不安と被害にあう確率のいずれも有意である場合、視聴によって不安を持つと同時に被害にあう確率が高いと考え何らかの備えを考えるであろう。【象限２】不安が有意であるが被害にあう確率が有意でない場合、視聴によって不安ではあるが被害にあうと思っておらず、いわゆる正常性バイアスの状態で、備えがおろそかになる可能性がある。【象限３】不安は有意でないが被害にあう確率が有意である場合、視聴によって被害にあると思っているにもかかわらず不安でなく、その被害が大きな問題でないと思っているかすでに準備が整っていることが想定できる。【象限４】不安と被害にあう確率のいずれも有意でない場合、視聴による影響は受けていないと考えられる。

これらを前提に表 6.2.1 の結果のうち特徴的な部分を見ていく。23 区東部では、③の延焼火災や⑫の自宅火災、⑭⑮の人的被害、⑰⑱の被災後、④の閉じ込めや⑤のデマ・流言、⑥の土砂災害で、不安は高まったが被害にあう確率の見積もりは高まっていない。特に③⑫といった火災についてリスクの高い地域にもかかわらず、それらにあう確率の見積もりが高まっていない点は、今後、対策が必要であろう。一方で、⑦の液状化や⑩の河川の氾濫や決壊については不安と被害にあう確率の見積もりの双方が高まっている。

23 区中部では、⑭のケガや④の閉じ込め、⑤のデマ・流言、⑥の土砂災害で、不安は高まったが被害にあう確率の見積もりは高まっていない。また、⑧の群衆雪崩や⑨の爆発被害、⑩の河川の氾濫や決壊、⑯の帰宅困難者、⑰の避難生活では不安と被害にあう確率の見積もりの双方が高まっている。しかし、23 区中部では、視聴者と非視聴者で不安や被害にあう確率の変化に差異がみられないものが多く､比較的被害想定が小さい地域とはいえ、課題であろう。

23 区西部では、⑪の自宅の倒壊でのみ不安は高まったが被害にあう確率の見積もりは高まっていない。一方で、③～⑩、⑫⑭～⑱と多くの項目で不安と被害にあう確率の見積もりのいずれもが高まっている。この点は被害の想定と一致している。

多摩地域では、④の閉じ込め、⑪の自宅倒壊、⑫の自宅火災、⑮の人命で不安は高まっているが、被害にあう確率の見積もりは高まっていない。また、③の延焼火災や⑤のデマ・流言、⑧の群衆雪崩、⑨の爆発被害、⑩の河川の氾濫や決壊、⑰の避難生活で、不安と被害にあう確率の見積もりのいずれもが高まっている。多摩地域は内閣府の都心南部直下地震の想定では被害は少ないものの、多摩直下地震や立川断層帯地震などを含めると､「パラレル東京」の視聴による影響がみられるのであろう。

表 6.2.2 各地域の「パラレル東京」視聴有無による、被害に対する不安の変化と自分自身が被害にあう確率の変化

		23区東部		23区中部		23区西部		多摩地域	
		視聴者	非視聴者	視聴者	非視聴者	視聴者	非視聴者	視聴者	非視聴者
	n	400	1317	297	890	575	1668	553	1645
①自分自身の電話がつながらなくなる	不安	0.09	0.02	0.10	0.04	0.08	0.08	0.11	0.03 †
	確率	2.15	-1.36 ***	0.57	-0.31	3.10	-0.26 ***	0.11	0.16
②自分自身のメールやLINE・Twitterが使えなくなる	不安	0.17	0.04 *	0.05	0.02	0.02	0.06	0.08	0.04
	確率	3.05	-0.46 **	1.11	-0.10	1.37	-0.05 †	1.14	0.15
③自分自身が大規模な延焼火災に巻き込まれる	不安	0.07	-0.10 ***	0.08	-0.01	0.08	-0.02 *	0.09	-0.07 ***
	確率	2.43	0.37	2.36	1.38	4.38	0.80 ***	4.12	0.96 ***
④自分自身が建物やエレベーター内に閉じ込められる	不安	0.07	-0.08 **	0.08	-0.04 *	0.15	-0.03 ***	0.00	-0.11 *
	確率	2.40	1.10	3.06	1.83	3.06	1.18 *	2.22	0.57
⑤自分自身がデマ・流言にまどわされる	不安	0.20	-0.04 ***	0.14	-0.01 *	0.18	0.01 ***	0.20	-0.00 ***
	確率	2.83	1.33	3.40	2.52	2.90	1.11 *	4.34	1.05 ***
⑥自分自身が土砂災害に巻き込まれる	不安	0.21	-0.06 ***	0.07	-0.07 *	0.11	-0.05 ***	0.09	-0.04 **
	確率	2.73	1.63	3.30	2.33	3.83	0.64 ***	2.80	1.21 †
⑦自分自身が液状化被害に巻き込まれる	不安	0.21	-0.08 ***	0.14	-0.06 **	0.12	-0.01 *	0.13	-0.02 *
	確率	4.13	0.16 ***	4.78	2.09 †	3.58	1.40 **	3.83	1.76 †
⑧自分自身が群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しに巻き込まれる	不安	0.41	0.01 ***	0.41	0.03 ***	0.38	0.01 ***	0.28	0.06 ***
	確率	7.25	2.00 ***	8.45	2.82 ***	8.47	1.37 ***	7.79	2.50 ***
⑨自分自身が工場や建物の爆発被害に巻き込まれる	不安	0.25	-0.03 ***	0.16	-0.06 **	0.21	-0.01 ***	0.15	-0.01 **
	確率	2.98	0.77 †	5.96	0.98 **	4.30	1.36 **	4.81	1.32 ***
⑩自分自身が川のはん濫や決壊被害に巻き込まれる	不安	0.12	-0.07 **	0.13	-0.05 **	0.14	0.00 **	0.10	-0.02 *
	確率	2.25	-0.02 *	4.81	1.63 *	3.46	1.16 *	3.63	1.77 *
⑪自宅が倒壊する	不安	0.06	-0.02	0.07	0.03	0.10	-0.00 *	0.09	-0.04 **
	確率	1.33	0.57	0.44	1.22	1.70	0.25	0.90	-0.09
⑫自宅が火災に遭う	不安	0.12	-0.00 *	0.01	0.03	0.09	0.00 *	0.09	-0.02 **
	確率	1.95	0.84	0.24	1.01	3.58	0.18 ***	0.61	0.45
⑬自宅のインフラ（電気・ガス・水道）が止まる	不安	0.03	-0.04	0.07	0.02	0.01	-0.02	0.02	0.00
	確率	1.68	0.06	1.58	-0.18	3.43	0.36 ***	1.27	0.26
⑭自分や家族がケガをする	不安	0.09	-0.06 **	0.07	-0.06 *	0.11	-0.03 **	0.04	-0.03 †
	確率	0.00	-0.51	1.28	-0.27	1.72	-0.86 *	1.21	-0.23
⑮自分や家族が命を落とす	不安	0.05	-0.09 *	0.02	-0.09 †	0.05	-0.07 **	0.05	-0.06 *
	確率	1.55	0.73	0.20	-1.06	1.44	-0.04 *	1.72	0.32
⑯自分や家族が帰宅困難者になる	不安	0.07	-0.02 †	0.08	-0.07 *	0.11	-0.03 **	0.01	-0.04
	確率	1.88	-0.37 †	3.23	-0.35 *	1.70	-0.45 *	0.99	0.74
⑰自分や家族が避難生活を余儀なくされる	不安	0.07	-0.05 *	0.11	-0.03 *	0.08	-0.02 *	0.09	-0.04 **
	確率	1.38	-0.43	3.67	0.81 *	2.50	0.06 *	2.48	0.15 *
⑱自分や家族の食べ物・飲み物がなくなる	不安	0.12	-0.05 ***	0.08	-0.02	0.09	-0.03 ***	0.08	-0.03 **
	確率	1.98	-0.41	2.93	0.13 *	3.11	0.65 *	2.80	0.63 †

※数値は２回目調査－1回目調査。

※「確率」は自分自身があう確率

※数値横の記号は、視聴者と非視聴者の間にKruskal-Wallis 検定の結果、***：p<.001、**：p<.01、*、p<.05で有意差があることを示す。†<.10で、参考値。

本章では、居住地域を被害想定により分類し、その地域による視聴態度や視聴の影響、等について比較した。視聴態度については地域に差は見られないが、その影響については地域特性（被害の特徴）と関連がみられた。しかし「パラレル東京」での被害の映像が、自分の居住している地域、もしくは近隣でよく知っている地域であれば、より影響が強くなることが想定できる。その点を考えると、「パラレル東京」での被害の映像がどこの地域であるのかといった分析を加えて、地域の区分や比較を行うことが今後の課題である。

引用・参考文献

Davison, P. , 1983, The Third-Person Effect in communication, Public Opinion Quarterly, 47(1), pp.1-15

Hester, J.B. and Gonzenbach, W.J.: 'The environment: TV news, real- world cues, and public opinion over time', Mass Communication Review, 22, pp.5-20, 1995

廣井脩，2004，災害情報と社会心理，北樹出版

内閣府ホームページ，過去の首都直下地震対策について http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/past/index.html，2021年1月29日アクセス

内閣府ホームページ，2006，災害教訓の継承に関する専門調査会報告書　1923 関東大震災，http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1923_kanto_daishinsai/index.html アクセス

内閣府ホームページ，2013a，首都直下地震の被害想定と対策について（最終報告），http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/taisaku_wg/pdf/syuto_wg_report.pdf，2021年1月29日アクセス

内閣府ホームページ，2013b，首都直下地震の被害想定と対策について（最終報告）別添資料１　～人的・物的被害（定量的な被害）～，http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/taisaku_wg/pdf/syuto_wg_siryo01.pdf，2021年1月29日アクセス

内閣府，2018，平成30年版防災白書

ＮＨＫホームページ，2019，プレスリリース　「12月に体感・首都直下地震ウィーク」，https://www.nhk.or.jp/info/pr/toptalk/assets/pdf/soukyoku/2019/09/001.pdf，2021年1月26日アクセスＮＨＫホームページ，2020，放送ガイドライン2020インターネットガイドライン統合版，https://www.nhk.or.jp/pr/keiei/bc-guideline/pdf/guideline2020.pdf，2021年1月29日アクセス

ＮＨＫホームページ，2020，首都直下地震　助かるためのキーワード https://www3.nhk.or.jp/news/special/saigai/natural-disaster/natural-disaster_16.html，2020　，2021年1月28日アクセス

Noelle-Neumann E.,1982=2013，池田謙一・安野智子訳，沈黙の螺旋理論[改訂復刻版]:世論形成過程の社会心理学，北大路書房

関谷直也・橋元良明・中村功・小笠原盛浩・山本太郎・千葉直子・関良明・高橋克巳，2012，東日本大震災における首都圏住民の震災時の情報行動，東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編，No.28，pp.65-113

竹下俊郎，1998，メディアの議題設定機能―マスコミ効果研究における理論と実証―，学文社

Tichenor, P. J., Donohue, G. A., & Olien, C. N.,1970, Mass media flow and differential growth in knowledge. Public Opinion Quarterly, 34, pp.159-170.

東京都ホームページ， 2014，首都直下地震等による東京の被害想定－概要版－，https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/000/401/assumption_h24outline.pdf，2021年1月29日アクセス

安野智子，2006，重層的な世論形成過程-メディア・ネットワーク・公共性，東京大学出版会

付属資料（アンケート調査の単純集計）

【第１波】

(SA)1回目F1．あなたの性別をお知らせください。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	男性	53.4
2	女性	46.6

(SA)1回目F2．あなたの年齢をお知らせください。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	19歳以下	0.5
2	20代	5.8
3	30代	16.4
4	40代	26.9
5	50代	29.5
6	60代	14.8
7	70歳以上	6.2

(SA)1回目F3．あなたがお住まいの地域を、以下の中から選択してください。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	新宿区	2.7
2	足立区	4.4
3	荒川区	1.3
4	板橋区	4.3
5	江戸川区	4.2
6	大田区	5.3
7	葛飾区	3.1
8	北区	2.8
9	江東区	4.1
10	品川区	3.3
11	渋谷区	1.5
12	杉並区	4.9
13	墨田区	1.9
14	世田谷区	6.8
15	台東区	1.5
16	中央区	1.3
17	千代田区	0.4
18	豊島区	2.3
19	中野区	2.7
20	練馬区	5.5
21	文京区	1.9
22	港区	1.8
23	目黒区	2.1
24	昭島市	0.6
25	あきる野市	0.4
26	稲城市	0.5
27	青梅市	0.7
28	清瀬市	0.6
29	国立市	0.5
30	小金井市	1.0
31	国分寺市	1.0

32	小平市	1.3
33	狛江市	0.6
34	立川市	1.3
35	多摩市	1.2
36	調布市	2.0
37	西東京市	1.8
38	八王子市	3.5
39	羽村市	0.2
40	東久留米市	0.7
41	東村山市	1.2
42	東大和市	0.6
43	日野市	1.5
44	府中市	1.8
45	福生市	0.4
46	町田市	3.1
47	三鷹市	1.3
48	武蔵野市	1.4
49	武蔵村山市	0.4
50	奥多摩町	0.0
51	日の出町	0.0
52	瑞穂町	0.1
53	大島町	0.0
54	八丈町	0.0
55	檜原村	0.0
56	利島村	0.0
57	新島村	0.0
58	神津島村	0.0
59	三宅村	0.0
60	御蔵島村	0.0
61	青ヶ島村	0.0
62	小笠原村	0.0

(SA)1回目F4. あなたが主に通勤・通学している市区町村をお知らせください。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	新宿区	6.6
2	足立区	1.5
3	荒川区	0.6
4	板橋区	1.4
5	江戸川区	1.6
6	大田区	2.5
7	葛飾区	1.1
8	北区	1.0
9	江東区	2.5
10	品川区	3.2
11	渋谷区	3.6
12	杉並区	1.9
13	墨田区	1.2
14	世田谷区	3.0
15	台東区	1.5
16	中央区	4.3
17	千代田区	7.1
18	豊島区	2.2
19	中野区	1.2

20	練馬区	1.7
21	文京区	1.6
22	港区	6.9
23	目黒区	1.1
24	昭島市	0.4
25	あきる野市	0.2
26	稲城市	0.2
27	青梅市	0.4
28	清瀬市	0.1
29	国立市	0.2
30	小金井市	0.4
31	国分寺市	0.4
32	小平市	0.5
33	狛江市	0.2
34	立川市	0.9
35	多摩市	0.6
36	調布市	0.7
37	西東京市	0.4
38	八王子市	1.7
39	羽村市	0.2
40	東久留米市	0.2
41	東村山市	0.3
42	東大和市	0.2
43	日野市	0.4
44	府中市	0.8
45	福生市	0.1
46	町田市	1.1
47	三鷹市	0.4
48	武蔵野市	0.7
49	武蔵村山市	0.2
50	奥多摩町	0.0
51	日の出町	0.0
52	瑞穂町	0.1
53	大島町	0.0
54	八丈町	0.0
55	檜原村	0.0
56	利島村	0.0
57	新島村	0.0
58	神津島村	0.0
59	三宅村	0.0
60	御蔵島村	0.0
61	青ヶ島村	0.0
62	小笠原村	0.0
63	東京都以外	4.4
64	通勤も通学もしていない	24.3

(FA)1回目Q0_1. あなたは「首都直下地震」について、どのようなイメージをお持ちですか。どのようなことでも構いませんので、ご自由にお書きください（単語でも文章でも結構です）。

	%	
全体(n=7349)	100.0	
回答者数(n=7349)	100.0	**省略**

(SA)1回目Q1. あなたは、以下の災害について不安を感じていますか。 あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	とても不安を感じている	やや不安を感じている	どちらともいえない	あまり不安を感じていない	全く不安を感じていない
1回目Q1項目1	首都直下地震(n=7349)	%	100.0	49.2	35.7	10.0	3.7	1.5
1回目Q1項目2	南海トラフ地震(n=7349)	%	100.0	28.7	40.2	20.9	7.5	2.7
1回目Q1項目3	津波(n=7349)	%	100.0	14.6	24.1	26.0	23.6	11.6
1回目Q1項目4	高潮(n=7349)	%	100.0	12.0	20.9	28.8	24.6	13.8
1回目Q1項目5	富士山噴火・浅間山噴火などの大規模降灰(n=7349)	%	100.0	17.7	35.2	28.5	14.0	4.7
1回目Q1項目6	首都圏での河川の大規模はん濫（荒川や多摩川など）(n=7349)	%	100.0	23.0	35.1	23.2	13.3	5.4
1回目Q1項目7	内水はん濫や中小河川のはん濫(n=7349)	%	100.0	17.3	31.3	29.1	15.1	7.1
1回目Q1項目8	土砂災害(n=7349)	%	100.0	11.5	21.5	31.3	23.7	12.0
1回目Q1項目9	台風(n=7349)	%	100.0	27.0	44.0	20.1	6.5	2.3
1回目Q1項目10	台風による停電(n=7349)	%	100.0	29.1	44.3	19.2	5.5	2.0

(SA)1回目Q2. あなたは以下の災害に関する用語を知っていますか。 あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	知っている	知らない
1回目Q2項目1	避難勧告・避難指示（緊急）(n=7349)	%	100.0	94.8	5.2
1回目Q2項目2	マグニチュード(n=7349)	%	100.0	96.9	3.1
1回目Q2項目3	震度(n=7349)	%	100.0	97.8	2.2
1回目Q2項目4	緊急地震速報(n=7349)	%	100.0	96.6	3.4
1回目Q2項目5	延焼火災(n=7349)	%	100.0	61.8	38.2
1回目Q2項目6	通電火災(n=7349)	%	100.0	72.6	27.4
1回目Q2項目7	火災旋風（せんぷう）(n=7349)	%	100.0	52.5	47.5
1回目Q2項目8	群衆雪崩（なだれ） (n=7349)	%	100.0	59.8	40.2
1回目Q2項目9	一時（いっとき）避難場所(n=7349)	%	100.0	62.6	37.4
1回目Q2項目10	広域避難場所(n=7349)	%	100.0	82.9	17.1

(MA)1回目Q3. あなたはふだん、次のような地震対策を行っていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

		%
全体(n=6612)		100.0
1	家具の転倒防止	52.1
2	パソコンやテレビなどの滑り止め	32.3
3	家具の配置の工夫	40.2
4	ガラスの飛散防止	17.2
5	消火器の準備	31.4
6	食器棚に掛け金をかけるなど、飛び出し防止	21.5
7	地震保険への加入	39.6

(MA)1回目Q4. 前問で選択したこと以外で、次のような地震対策を行っていますか。 あてはまるものをいくつでもお選びください。

		%
全体(n=6947)		100.0
1	火災から逃れるための広域避難場所の確認	**40.0**
2	「広域避難場所」に集まる前に一時的に集まる「一時（いっとき）避難場所」の確認	**24.7**
3	避難生活を送るための避難所の確認	**25.2**
4	水の備蓄	**64.1**
5	食料の備蓄	**55.5**
6	非常用持ち出し袋の準備	**36.2**
7	懐中電灯の準備	**65.3**
8	乾電池や充電器、モバイルバッテリー等の準備	**51.9**
9	ラジオの準備	**41.1**
10	カセットコンロの準備	**35.5**

(SA)1回目Q5. あなたは同居する家族と地震で連絡が取れなくなった場合を想定して、安否確認方法や待ち合わせ場所を決めていますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	安否確認方法と待ち合わせ場所の両方を決めている	**15.6**
2	安否確認方法のみ決めている	**9.9**
3	待ち合わせ場所のみ決めている	**13.9**
4	安否確認方法と待ち合わせ場所の両方とも決めていない	**37.8**
5	同居している家族はいない（一人暮らし）	**22.8**

(SA)1回目Q6. あなたは火災について、次のことを知っていますか。 あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	知っている	知らない	意味がよく分からない
1回目Q6項目1	首都直下地震が発生した場合、最大の犠牲者が火災による死者と想定されていること(n=7349)	%	100.0	58.3	38.8	3.0
1回目Q6項目2	首都直下地震が発生した場合、火災からの避難を第一に考えるべきであること(n=7349)	%	100.0	51.5	45.3	3.2
1回目Q6項目3	関東大震災では、火災で多くの人が亡くなったこと(n=7349)	%	100.0	80.5	17.2	2.3
1回目Q6項目4	住宅が密集している地域では火災の被害が大きくなる可能性があること(n=7349)	%	100.0	82.1	15.2	2.7
1回目Q6項目5	地震火災の事を考えて、「広域避難場所」に避難をして、延焼火災から難を逃れる必要があること(n=7349)	%	100.0	55.1	40.8	4.1
1回目Q6項目6	「広域避難場所」に避難をする前に、地域ごとで「一時（いっとき）避難場所」に集まってから「広域避難場所」に移動するべきこと(n=7349)	%	100.0	39.4	55.2	5.5
1回目Q6項目7	火災が発生しても、延焼火災の恐れがない大きな駅の近くやビル街（地区内残留地区）にいる場合はそこに留まるべきであること(n=7349)	%	100.0	50.2	45.7	4.1
1回目Q6項目8	火災の可能性がなくなったら、自宅にいられる人は自宅に自宅にいるべきであること(n=7349)	%	100.0	54.4	41.4	4.2
1回目Q6項目9	首都圏で地震が発生した場合、速やかに帰宅をする必要はないこと(n=7349)	%	100.0	63.8	32.3	3.9

(SA)1回目Q7. 災害時の対応、救援活動について、次のような二つの意見があります。 A.災害時、まず自分や家族が助かるための対策を考えておくことが重要である B.災害時、いかに被災者を支援したり、ボランティアをしたりするかが重要である
（１）あなた自身はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	45.8
2	Aに近い	31.3
3	どちらかといえばA	19.3
4	どちらかといえばB	2.5
5	Bに近い	0.6
6	B	0.4

(SA)1回目Q8. （２）マスメディアの論調はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	14.9
2	Aに近い	25.5
3	どちらかといえばA	34.2
4	どちらかといえばB	17.7
5	Bに近い	5.0
6	B	2.7

(SA)1回目Q9. （３）世間の人はどのように考えている人が多いと思いますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	圧倒的にAの意見の人が多い	35.2
2	Aの意見の人が多い	36.0
3	どちらかといえばAの意見が多い	23.6
4	どちらかといえばBの意見が多い	4.1
5	Bの意見の人が多い	0.8
6	圧倒的にBの意見の人が多い	0.3

(SA)1回目Q10. 災害時の事前対応、事後対応について、次のような二つの意見があります。 A.災害が起こってしまってからでは遅いので、災害発生前の対策を考えておくことが重要である B.災害は防げないのだから、災害発生後の対応を考えておくことが重要である （１）あなた自身はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	16.6
2	Aに近い	26.5
3	どちらかといえばA	23.7
4	どちらかといえばB	19.1
5	Bに近い	8.9
6	B	5.2

(SA)1回目Q11. （２）マスメディアの論調はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	15.6
2	Aに近い	27.9
3	どちらかといえばA	32.4
4	どちらかといえばB	16.3
5	Bに近い	5.2
6	B	2.6

(SA)1回目Q12. （３）世間の人はどのように考えている人が多いと思いますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	圧倒的にAの意見の人が多い	12.2
2	Aの意見の人が多い	29.0
3	どちらかといえばAの意見が多い	32.1
4	どちらかといえばBの意見が多い	17.7
5	Bの意見の人が多い	6.2
6	圧倒的にBの意見の人が多い	2.7

(SA)1回目Q13. 災害対策を誰が中心的に実施するかについて、次のような二つの意見があります。 A.災害時には、自治体や政府は何もできないので、まず自分や家族で自分たちの身を守るべきだ B.災害時には、まず公的な機関である自治体や政府が住民の身を守るために何とかすべきだ
（１）あなた自身はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	29.1
2	Aに近い	31.3
3	どちらかといえばA	24.9
4	どちらかといえばB	9.2
5	Bに近い	3.2
6	B	2.4

(SA)1回目Q14. （２）マスメディアの論調はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	11.3
2	Aに近い	22.8
3	どちらかといえばA	28.8
4	どちらかといえばB	23.2
5	Bに近い	9.3
6	B	4.6

(SA)1回目Q15. （３）世間の人はどのように考えている人が多いと思いますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	圧倒的にAの意見の人が多い	15.1
2	Aの意見の人が多い	27.5
3	どちらかといえばAの意見が多い	28.1
4	どちらかといえばBの意見が多い	18.1
5	Bの意見の人が多い	7.9
6	圧倒的にBの意見の人が多い	3.3

(SA)1回目Q16. あなたは、Ｑ７～Ｑ１５まででお伺いしたような、救援活動、災害時の事前対応と事後対応、災害対策を誰が中心に実施するかなどの災害対策のありかたについて、もし意見を求められた場合、次のようなことをするつもりはありますか。あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	するつもりがある	するつもりはない
1回目Q16項目1	Twitterで意見を述べる(n=7349)	%	100.0	10.7	89.3
1回目Q16項目2	Facebookで意見を述べる(n=7349)	%	100.0	7.0	93.0
1回目Q16項目3	LINEで友人・知人に意見を述べる(n=7349)	%	100.0	20.8	79.2
1回目Q16項目4	家族に積極的に意見を述べる(n=7349)	%	100.0	45.6	54.4
1回目Q16項目5	家族に意見を求められれば意見を述べる(n=7349)	%	100.0	65.1	34.9
1回目Q16項目6	友人に意見を求められれば意見を述べる(n=7349)	%	100.0	59.7	40.3
1回目Q16項目7	友人に積極的に意見を述べる(n=7349)	%	100.0	24.2	75.8
1回目Q16項目8	署名運動に協力する(n=7349)	%	100.0	26.8	73.2
1回目Q16項目9	街頭インタビューに応じる(n=7349)	%	100.0	19.3	80.7

(SA)1回目Q17. あなたは、首都直下地震によって被害を受けることを「自分ごと」としてとらえていますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	強く「自分ごと」としてとらえている	26.2
2	やや「自分ごと」としてとらえている	40.1
3	どちらともいえない	20.7
4	あまり「自分ごと」としてとらえていない	10.3
5	全く「自分ごと」としてとらえていない	2.8

(SA)1回目Q19. 今後30年以内に首都直下地震はどれくらいの確率で発生すると思いますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	100%	15.2
2	90%	8.8
3	80%	18.4
4	70%	20.7
5	60%	8.6
6	50%	16.4
7	40%	2.4
8	30%	4.7
9	20%	1.7
10	10%以下	3.1

(SA)1回目Q20. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害にあうことに対して、どの程度不安を感じますか。

			全体	とても不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない
1回目Q20項目1	自分自身の電話がつながらなくなる(n=7349)	%	100.0	40.3	36.7	14.5	6.3	2.2
1回目Q20項目2	自分自身のメールやLINE・Twitterが使えなくなる(n=7349)	%	100.0	33.0	31.6	19.3	8.6	7.5
1回目Q20項目3	自分自身が大規模な延焼火災に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	40.5	34.4	18.5	5.2	1.4
1回目Q20項目4	自分自身が建物やエレベーター内に閉じ込められる(n=7349)	%	100.0	33.7	34.0	22.0	7.9	2.4
1回目Q20項目5	自分自身がデマ・流言にまどわされる(n=7349)	%	100.0	17.2	29.8	32.8	14.0	6.2
1回目Q20項目6	自分自身が土砂災害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	18.6	20.7	29.4	21.3	10.1
1回目Q20項目7	自分自身が液状化被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	19.5	24.6	30.7	17.6	7.6
1回目Q20項目8	自分自身が群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しに巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	19.9	25.1	30.8	15.8	8.5
1回目Q20項目9	自分自身が工場や建物の爆発被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	20.4	25.6	30.6	16.0	7.4
1回目Q20項目10	自分自身が川のはん濫や決壊被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	22.5	26.7	27.9	15.5	7.4

(SA)1回目Q21. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害に、どれくらいの確率であうと思いますか。

			全体	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%以下
1回目Q21項目1	自分自身の電話がつながらなくなる(n=7349)	%	100.0	32.8	16.9	20.3	10.6	6.1	9.5	1.1	1.0	0.4	1.2
1回目Q21項目2	自分自身、メールやLINE・Twitterが使えなくなる(n=7349)	%	100.0	27.8	15.7	18.8	11.8	7.8	11.1	1.6	1.6	0.7	3.0
1回目Q21項目3	自分自身が大規模な延焼火災に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	6.5	5.2	12.4	15.7	14.8	24.8	6.1	6.9	3.2	4.4
1回目Q21項目4	自分自身が建物やエレベーター内に閉じ込められる(n=7349)	%	100.0	5.2	4.3	9.1	11.5	12.9	26.0	8.0	9.5	5.5	7.9
1回目Q21項目5	自分自身がデマ・流言にまどわされる(n=7349)	%	100.0	4.9	3.7	8.2	10.5	12.5	23.1	8.6	10.5	6.5	11.6
1回目Q21項目6	自分自身が土砂災害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	3.9	3.0	5.3	7.3	9.6	19.9	9.3	12.9	8.5	20.5
1回目Q21項目7	自分自身が液状化被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	4.2	3.5	6.6	8.5	11.0	20.4	9.1	11.9	8.4	16.3
1回目Q21項目8	自分自身が群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しに巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	4.0	3.4	6.5	9.5	11.4	21.1	9.0	11.6	8.6	15.0
1回目Q21項目9	自分自身が工場や建物の爆発被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	4.1	3.3	6.5	9.4	11.2	20.9	8.9	11.6	9.1	15.0
1回目Q21項目10	自分自身が川のはん濫や決壊被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	4.7	5.1	8.0	10.1	11.3	19.7	7.9	10.3	8.2	14.7

(SA)1回目Q22. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害が発生することに対して、どの程度不安を感じますか。

			全体	とても不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない
1回目Q22項目1	首都圏内で電話がつながらなくなる(n=7349)	%	100.0	43.0	36.3	13.5	5.3	1.9
1回目Q22項目2	首都圏内でメールやLINE・Twitterが使えなくなる(n=7349)	%	100.0	34.9	33.4	18.5	7.2	6.0
1回目Q22項目3	首都圏内で大規模な延焼火災が発生する(n=7349)	%	100.0	38.4	37.7	18.6	3.8	1.6
1回目Q22項目4	首都圏内の建物やエレベーター内に人が閉じ込められる(n=7349)	%	100.0	29.0	37.8	23.9	7.0	2.4
1回目Q22項目5	首都圏内でデマ・流言がまん延する(n=7349)	%	100.0	21.9	34.9	29.4	9.4	4.5
1回目Q22項目6	首都圏内で土砂災害が発生する(n=7349)	%	100.0	17.7	27.2	32.1	16.2	6.9
1回目Q22項目7	首都圏内で液状化が発生する(n=7349)	%	100.0	20.3	32.9	29.4	12.4	5.0
1回目Q22項目8	首都圏内で群衆雪崩(なだれ)や将棋倒しが発生する(n=7349)	%	100.0	21.3	31.7	28.7	12.0	6.3
1回目Q22項目9	首都圏内の工場や建物で爆発が起こる(n=7349)	%	100.0	21.3	33.4	29.2	11.4	4.6
1回目Q22項目10	首都圏内の川がはん濫したり決壊したりする(n=7349)	%	100.0	24.0	34.1	26.5	11.0	4.4

(SA)1回目Q23. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害に、どれくらいの確率であうと思いますか。

			全体	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%以下
1回目Q23項目1	首都圏内で電話がつながらなくなる(n=7349)	%	100.0	33.9	17.4	18.6	10.7	6.1	9.4	1.5	1.1	0.4	1.1
1回目Q23項目2	首都圏内でメールやLINE・Twitterが使えなくなる(n=7349)	%	100.0	28.2	16.9	17.5	11.5	8.5	11.0	1.9	1.5	0.8	2.2
1回目Q23項目3	首都圏内で大規模な延焼火災が発生する(n=7349)	%	100.0	16.0	11.3	18.8	15.6	12.6	15.7	3.3	2.9	1.5	2.1
1回目Q23項目4	首都圏内の建物やエレベーター内に人が閉じ込められる(n=7349)	%	100.0	15.7	9.9	15.1	14.8	12.3	17.5	4.3	4.6	2.5	3.3
1回目Q23項目5	首都圏内でデマ・流言がまん延する(n=7349)	%	100.0	12.6	8.4	14.3	14.6	14.0	19.3	4.5	5.1	3.2	4.0
1回目Q23項目6	首都圏内で土砂災害が発生する(n=7349)	%	100.0	7.4	5.4	10.2	12.5	14.3	20.3	8.3	8.4	5.2	8.0
1回目Q23項目7	首都圏内で液状化が発生する(n=7349)	%	100.0	10.4	8.0	13.6	13.6	12.6	18.8	6.9	6.6	4.0	5.5
1回目Q23項目8	首都圏内で群衆雪崩(なだれ)や将棋倒しが発生する(n=7349)	%	100.0	9.7	7.2	12.8	12.5	13.3	19.0	7.0	6.6	4.5	7.3
1回目Q23項目9	首都圏内の工場や建物で爆発が起こる(n=7349)	%	100.0	9.0	7.4	12.8	13.9	13.5	19.4	7.2	6.7	4.7	5.6
1回目Q23項目10	首都圏内の川がはん濫したり決壊したりする(n=7349)	%	100.0	9.9	8.5	14.0	13.1	13.1	18.8	6.1	6.5	4.4	5.6

(SA)1回目Q24. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害にあうことに対して、どの程度不安を感じますか。

			全体	とても不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない
1回目Q24項目1	自宅が倒壊する(n=7349)	%	100.0	33.3	31.0	19.7	13.0	3.0
1回目Q24項目2	自宅が火災に遭う(n=7349)	%	100.0	34.9	34.8	20.3	8.3	1.8
1回目Q24項目3	自宅のインフラ（電気・ガス・水道）が止まる(n=7349)	%	100.0	53.5	31.0	12.5	2.2	0.9
1回目Q24項目4	自分や家族がケガをする(n=7349)	%	100.0	43.1	34.0	18.0	3.5	1.5
1回目Q24項目5	自分や家族が命を落とす(n=7349)	%	100.0	43.4	29.1	20.4	5.1	2.0
1回目Q24項目6	自分や家族が帰宅困難者になる(n=7349)	%	100.0	35.6	33.2	21.7	6.7	2.7
1回目Q24項目7	自分や家族が避難生活を余儀なくされる(n=7349)	%	100.0	37.5	34.7	20.8	5.2	1.7
1回目Q24項目8	自分や家族の食べ物・飲み物がなくなる(n=7349)	%	100.0	40.7	35.7	18.1	4.3	1.3

(SA)1回目Q25. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害に、どれくらいの確率であうと思いますか。

			全体	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%以下
1回目Q25項目1	自宅が倒壊する(n=7349)	%	100.0	7.7	7.0	13.8	13.3	11.8	19.9	6.3	8.2	4.7	7.4
1回目Q25項目2	自宅が火災に遭う(n=7349)	%	100.0	7.1	7.0	14.4	14.5	13.5	21.8	5.8	7.2	4.1	4.6
1回目Q25項目3	自宅のインフラ（電気・ガス・水道）が止まる(n=7349)	%	100.0	25.6	15.8	18.4	12.7	9.2	12.3	1.8	2.0	0.8	1.4
1回目Q25項目4	自分や家族がケガをする(n=7349)	%	100.0	9.1	8.2	15.0	15.2	13.8	23.9	3.9	5.0	2.7	3.2
1回目Q25項目5	自分や家族が命を落とす(n=7349)	%	100.0	6.9	5.6	10.8	10.9	12.0	25.5	5.5	7.5	5.4	9.9
1回目Q25項目6	自分や家族が帰宅困難者になる(n=7349)	%	100.0	12.8	10.2	15.3	12.2	11.5	19.6	3.8	5.1	3.3	6.2
1回目Q25項目7	自分や家族が避難生活を余儀なくされる(n=7349)	%	100.0	12.1	9.4	14.9	13.5	12.7	20.7	4.0	5.0	3.4	4.4
1回目Q25項目8	自分や家族の食べ物・飲み物がなくなる(n=7349)	%	100.0	14.1	11.0	15.8	13.7	12.5	18.6	4.0	4.3	2.8	3.3

(MA)1回目Q26. あなたはこの1か月の間、首都直下地震に関する情報に接しましたか。 あてはまるものをいくつでもお選びください。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	テレビで首都直下地震に関する情報を見た	29.1
2	新聞や雑誌で首都直下地震に関する情報を見た	10.2
3	インターネットで首都直下地震に関する情報を見た	13.0
4	地震動予測地図を見た	6.5
5	市区町村の避難所などが書かれている防災マップを見た	13.3
6	東京都の『震災時火災における避難場所や避難道路』を確認した	7.1
7	東京都の『あなたのまちの地域危険度』を確認した	6.4
8	『東京防災』を見た	9.0
9	その他	0.2
10	上記の中であてはまるものはない	54.8

(SA)1回目Q27. 以下のメディアについて、ふだん１日平均どのくらい利用していますか。 あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。
※「ラジオ」はradikoも含みます。

			全体	8時間以上	5時間以上8時間未満	4時間以上5時間未満	3時間以上4時間未満	2時間以上3時間未満	1時間30分以上2時間未満	1時間以上1時間30分未満	30分以上1時間未満	30分未満	まったく利用しない
1回目Q27項目1	テレビ（ＮＨＫ）(n=7349)	%	100.0	0.7	0.7	1.5	2.5	4.8	6.8	10.6	17.5	27.6	27.4
1回目Q27項目2	テレビ（ＮＨＫ以外）(n=7349)	%	100.0	3.0	5.0	5.6	9.7	14.0	11.4	12.0	11.5	11.7	16.1
1回目Q27項目3	ラジオ（ＮＨＫ）(n=7349)	%	100.0	0.3	0.4	0.7	1.0	1.5	1.7	1.5	2.7	8.9	81.2
1回目Q27項目4	ラジオ（ＮＨＫ以外）(n=7349)	%	100.0	0.8	1.3	1.3	1.7	2.8	2.8	2.6	4.1	12.4	70.2
1回目Q27項目5	新聞(n=7349)	%	100.0	0.3	0.3	0.5	1.0	1.6	2.5	3.8	11.6	26.1	52.3
1回目Q27項目6	雑誌(n=7349)	%	100.0	0.2	0.3	0.4	0.7	1.3	1.7	1.9	5.8	25.4	62.5
1回目Q27項目7	パソコンでのインターネット (n=7349)	%	100.0	5.7	5.3	6.0	9.6	15.2	12.4	12.8	10.8	9.6	12.6
1回目Q27項目8	スマートフォン・従来型携帯電話でのインターネット(n=7349)	%	100.0	2.5	2.4	3.9	6.1	10.3	11.5	12.8	15.7	18.3	16.4

(MA)1回目Q28. あなたは、以下のホームページやアプリをふだん見たり利用したりしますか。 あてはまるものをいくつでもお選びください。

		%
全体(n=6868)		100.0
1	ＬＩＮＥ	65.2
2	Ｔｗｉｔｔｅｒ	35.3
3	Ｆａｃｅｂｏｏｋ	27.8
4	ＹｏｕＴｕｂｅ	55.7
5	ＮＨＫのホームページ	10.8
6	ＮＨＫニュース・防災アプリ	17.0

(SA)1回目Q29. あなたは、次のメディアの情報のうち、信頼できる情報はどの程度あると思いますか。 あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。 なお、利用していないメディアについては、大体の印象でお答えください。※「ラジオ」はradikoも含みます。

			全体	全部信頼できる	大部分信頼できる	半々くらい	一部しか信頼できない	まったく信頼できない
1回目Q29項目1	テレビ（ＮＨＫ）(n=7349)	%	100.0	9.4	48.9	28.6	7.3	5.8
1回目Q29項目2	テレビ（ＮＨＫ以外）(n=7349)	%	100.0	4.0	37.4	42.0	11.7	4.9
1回目Q29項目3	ラジオ（ＮＨＫ）(n=7349)	%	100.0	7.4	44.7	33.4	8.0	6.5
1回目Q29項目4	ラジオ（ＮＨＫ以外）(n=7349)	%	100.0	3.8	35.5	43.9	11.1	5.7
1回目Q29項目5	新聞(n=7349)	%	100.0	5.4	40.1	36.7	11.4	6.4
1回目Q29項目6	雑誌(n=7349)	%	100.0	1.5	14.0	47.6	26.8	10.1
1回目Q29項目7	パソコンでのインターネット (n=7349)	%	100.0	2.5	20.3	52.9	20.3	3.9
1回目Q29項目8	スマートフォン・従来型携帯電話でのインターネット(n=7349)	%	100.0	2.7	19.3	52.6	20.5	5.0

(SA)1回目Q30. あなたは、以下のＮＨＫの番組を見ることがありますか。 それぞれあてはまるものを１つ選択してください。

			全体	毎回必ず見る	よく見る	ほとんど見ない	見たことがない
1回目Q30項目1	ＮＨＫスペシャル(n=7349)	%	100.0	2.3	23.9	41.4	32.4
1回目Q30項目2	おはよう日本(n=7349)	%	100.0	5.3	15.5	38.5	40.7
1回目Q30項目3	あさイチ(n=7349)	%	100.0	2.2	11.7	41.4	44.8
1回目Q30項目4	まいにちスクスク(n=7349)	%	100.0	0.6	2.6	19.8	77.0
1回目Q30項目5	ごごナマ(n=7349)	%	100.0	0.6	4.7	26.1	68.5
1回目Q30項目6	シブ５時(n=7349)	%	100.0	1.0	7.1	26.8	65.1
1回目Q30項目7	首都圏ネットワーク(n=7349)	%	100.0	2.3	18.5	37.3	41.8
1回目Q30項目8	沼にハマって聞いてみた(n=7349)	%	100.0	0.5	3.0	15.8	80.7
1回目Q30項目9	ハートネットＴＶ(n=7349)	%	100.0	0.5	3.5	19.5	76.6

(SA)1回目Q31. あなたはテレビ放送を見ながらスマートフォン、携帯電話を利用することがよくありますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	よくある	27.6
2	ときどきある	29.3
3	あまりない	12.5
4	ほとんどない	11.8
5	まったくない	18.8

(SA)1回目Q32. NHKが12月1日から始める「体感 首都直下地震ウイーク」をご存知ですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	知っている	10.7
2	知らない	89.3

(MA)1回目Q33. あなたは、「体感 首都直下地震ウイーク」を何で見聞きしましたか。 あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体(n=785)		100.0
1	ＮＨＫスペシャル	43.8
2	ＮＨＫの他のテレビ番組	60.5
3	ＮＨＫのラジオ	5.4
4	新聞・雑誌	9.3
5	ＮＨＫのホームページ	11.5
6	ＮＨＫのスマートフォン・アプリ	4.6
7	ＮＨＫ以外のホームページ	4.2
8	ＬＩＮＥの友達の投稿	3.6
9	Ｔｗｉｔｔｅｒの友達の投稿	3.8
10	Ｆａｃｅｂｏｏｋの友達の投稿	2.8
11	ＬＩＮＥのＮＨＫ（公式）の投稿	2.7
12	ＴｗｉｔｔｅｒのＮＨＫ（公式）の投稿	3.3
13	ＦａｃｅｂｏｏｋのＮＨＫ（公式）の投稿	2.2
14	ＬＩＮＥの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	3.1
15	Ｔｗｉｔｔｅｒの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	2.9
16	Ｆａｃｅｂｏｏｋの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	2.0
17	家族や友人の会話	4.8
18	デジタルサイネージ広告	1.9

(SA)1回目Q34. NHKが12月2日から4夜連続で放送をする、ＮＨＫスペシャル「ドラマ　パラレル東京」をご存知ですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	知っている	10.0
2	知らない	90.0

(MA)1回目Q35. あなたは、ＮＨＫスペシャル「ドラマ　パラレル東京」を何で見聞きしましたか。 あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体(n=736)		100.0
1	ＮＨＫスペシャル	39.1
2	ＮＨＫの他のテレビ番組	57.7
3	ＮＨＫのラジオ	5.4
4	新聞・雑誌	10.9
5	ＮＨＫのホームページ	9.1
6	ＮＨＫのスマートフォン・アプリ	5.0
7	ＮＨＫ以外のホームページ	6.3
8	ＬＩＮＥの友達の投稿	3.0
9	Ｔｗｉｔｔｅｒの友達の投稿	2.4
10	Ｆａｃｅｂｏｏｋの友達の投稿	1.8
11	ＬＩＮＥのＮＨＫ（公式）の投稿	2.7
12	ＴｗｉｔｔｅｒのＮＨＫ（公式）の投稿	2.6
13	ＦａｃｅｂｏｏｋのＮＨＫ（公式）の投稿	1.8
14	ＬＩＮＥの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	1.6
15	Ｔｗｉｔｔｅｒの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	2.3
16	Ｆａｃｅｂｏｏｋの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	1.6
17	家族や友人の会話	4.9
18	デジタルサイネージ広告	2.3

(SA)1回目Q36. あなたが最後に在籍していた、または現在在学中の学校は、次のどれですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	中学校	1.0
2	高校	18.3
3	短大・高専・専門学校	21.0
4	大学	52.9
5	大学院	6.9

(SA)1回目Q37. お宅の世帯年収（税込）は、次のうちどれですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	～200万未満	11.8
2	200万円以上～400万円未満	19.5
3	400万円以上～600万円未満	21.6
4	600万円以上～800万円未満	16.5
5	800万円以上～1000万円未満	12.7
6	1000万円以上～1200万円未満	7.2
7	1200万円以上～1400万円未満	4.1
8	1400万円以上～	6.7

【第２波】

(SA)2回目Q1. あなたは首都直下地震に関心がありますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	とても関心がある	32.0
2	関心がある	33.4
3	やや関心がある	22.0
4	あまり関心がない	8.0
5	関心がない	1.6
6	全く関心がない	2.9

(FA)2回目Q2_1. あなたは「首都直下地震」について、どのようなイメージをお持ちですか。どのようなことでも構いませんので、ご自由にお書きください（単語でも文章でも結構です）。

	%	
全体(n=7349)	100.0	
回答者数(n=7349)	100.0	省略

(SA)2回目Q3. あなたは、以下のNHK「体感　首都直下地震ウィーク（12/1～12/8）」に関する番組を見ましたか。あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。 それぞれの番組について、複数回見た場合には、最初に見た時のことについてお答えください。

			全体	放送中にすべて見た	放送中に一部見た	録画したものを見た	NHKオンデマンドで見た	見なかった
2回目Q3項目1	12月1日（日）21:00～のＮＨＫスペシャル「プロローグ ” あなたは生きのびられるか”」(n=7349)	%	100.0	7.1	10.5	4.8	0.2	77.4
2回目Q3項目2	12月2日（月）19:30～のＮＨＫスペシャル「ドラマ　パラレル東京　DAY1 ” あなたを襲う震度７の衝撃”」(n=7349)	%	100.0	6.3	8.8	6.2	0.3	78.4
2回目Q3項目3	12月3日（火）22:00～のＮＨＫスペシャル「ドラマ　パラレル東京　DAY2 ” 多発する未知の脅威”」(n=7349)	%	100.0	5.8	6.6	6.2	0.4	81.0
2回目Q3項目4	12月4日（水）22:00～のＮＨＫスペシャル「ドラマ　パラレル東京　DAY3 ” 命の瀬戸際 新たな危機”」(n=7349)	%	100.0	5.6	6.2	6.0	0.4	81.8
2回目Q3項目5	12月5日（木）22:00～のＮＨＫスペシャル「ドラマ　パラレル東京　DAY4 ” 危機を生きぬくために”」(n=7349)	%	100.0	5.7	6.3	5.9	0.3	81.8
2回目Q3項目6	12月7日（土）21:00～のＮＨＫスペシャル「終わりの見えない被災」(n=7349)	%	100.0	5.1	6.7	4.3	0.4	83.5
2回目Q3項目7	12月8日（日）21:10～のＮＨＫスペシャル「災害に耐える社会へ」(n=7349)	%	100.0	5.5	6.7	4.1	0.4	83.3

(MA)2回目Q4. 「ドラマ　パラレル東京」を見たきっかけは何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体(n=1825)		100.0
1	テレビをつけたら放送していた	31.3
2	普段からＮＨＫスペシャルは習慣で見ていた	25.4
3	12月1日（日）のＮＨＫスペシャル「プロローグ”あなたは生きのびられるか”」	18.3
4	ＮＨＫスペシャルの予告	46.7
5	ＮＨＫの他のテレビ番組	9.6
6	ＮＨＫのラジオ	0.7
7	新聞・雑誌	5.1
8	ＮＨＫのホームページ	3.7
9	ＮＨＫのスマートフォン・アプリ	1.4
10	ＮＨＫ以外のホームページ	1.8
11	番組に連動したLINEアカウント「パラレル東京」	2.4
12	ＬＩＮＥの友達の投稿	0.8
13	Ｔｗｉｔｔｅｒの友達の投稿	0.9
14	Ｆａｃｅｂｏｏｋの友達の投稿	0.5
15	ＬＩＮＥのＮＨＫ（公式）の投稿	0.9
16	ＴｗｉｔｔｅｒのＮＨＫ（公式）の投稿	1.3
17	ＦａｃｅｂｏｏｋのＮＨＫ（公式）の投稿	0.7
18	ＬＩＮＥの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	0.5
19	Ｔｗｉｔｔｅｒの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	0.9
20	Ｆａｃｅｂｏｏｋの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	0.7
21	家族や友人の会話	7.0
22	デジタルサイネージ広告	0.8
23	前回のアンケート調査での告知	14.4

(MA)2回目Q5. 「ドラマ　パラレル東京」を視聴しているときに、以下のようなことをしましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体(n=1825)		100.0
1	番組に連動したＬＩＮＥを見ながら、視聴した	7.0
2	友達とＬＩＮＥをしながら、視聴した	3.5
3	家族や友人と番組について話しながら、視聴した	25.6
4	視聴しているときに、番組内容をＳＮＳに投稿した	2.2
5	Twitterを見ながら、視聴した	3.8
6	Facebookを見ながら、視聴した	1.2
7	番組について、インターネットで調べながら視聴した	6.1
8	災害や防災について、インターネットで調べながら視聴した	7.1
9	その他のことをしながら視聴した	3.9
10	テレビだけを見ていた	57.0

(FA)2回目Q5_9FA. 「ドラマ　パラレル東京」を視聴しているときに、以下のようなことをしましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

	%	
全体(n=72)	100.0	
回答者数(n=72)	100.0	省略

(SA)2回目Q6. 「ドラマ　パラレル東京」をご覧になって、以下のうち、何が最も印象に残りましたか。

		%
全体(n=1825)		100.0
1	登場人物の心の葛藤や行動	17.5
2	延焼火災	14.0
3	火災旋風	22.1
4	都内の物的被害（建物、道路など）	16.9
5	都内の人的被害（遺体、群衆雪崩など）	17.9
6	デマや誤った情報によるパニック	8.7
7	レスキュー隊員などによる救助のシーン	1.0
8	その他	1.9

(SA)2回目Q7. あなたは「ドラマ　パラレル東京」をご覧になって、どのようなことを感じましたか。あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2回目Q7項目1	こうした地震が本当に起こり得ると感じた(n=1825)	%	100.0	61.8	35.2	2.4	0.7
2回目Q7項目2	ちょっと大げさすぎると感じた(n=1825)	%	100.0	7.1	18.7	46.6	27.6
2回目Q7項目3	首都直下地震への不安を感じた(n=1825)	%	100.0	59.6	34.2	5.3	0.8
2回目Q7項目4	いくら内閣府の想定に基づいていたとしても、フィクションにすぎないと感じた(n=1825)	%	100.0	6.3	15.9	47.5	30.3
2回目Q7項目5	いざ首都直下地震が起きたとき、自分はどうすべきなのかを考えた(n=1825)	%	100.0	44.5	47.3	7.3	0.9
2回目Q7項目6	さすがにここまでの被害は起きないだろうと思った(n=1825)	%	100.0	5.4	16.8	44.4	33.4
2回目Q7項目7	地震対策の必要性を感じた(n=1825)	%	100.0	55.8	38.6	4.9	0.7
2回目Q7項目8	首都直下地震ではこういう被害が生じるのだなとイメージできた(n=1825)	%	100.0	48.9	44.3	5.9	1.0
2回目Q7項目9	私たち一人一人がどのように動けば良いのか、具体的なイメージがつくようになった(n=1825)	%	100.0	25.0	52.7	20.1	2.2
2回目Q7項目10	過去の地震を思い出した(n=1825)	%	100.0	27.1	42.8	23.3	6.7
2回目Q7項目11	気が滅入った(n=1825)	%	100.0	22.2	42.1	25.8	9.9
2回目Q7項目12	改めて、東京は危ないところだと思った(n=1825)	%	100.0	37.3	46.4	13.9	2.4
2回目Q7項目13	帰宅困難になったら家に帰らず、その場に留まろうと思うようになった(n=1825)	%	100.0	35.1	48.4	14.0	2.5
2回目Q7項目14	首都直下地震が発生したら、火災を考えて避難をしようと思うようになった(n=1825)	%	100.0	42.5	48.1	8.3	1.2
2回目Q7項目15	これから首都直下地震に備えて、多くのことを学んでいこうと思うようになった(n=1825)	%	100.0	38.0	50.7	10.1	1.3
2回目Q7項目16	事前に家族との安否確認の方法や待ち合わせ場所を確認しておこうと思うようになった(n=1825)	%	100.0	37.1	49.5	10.9	2.5
2回目Q7項目17	備蓄などを常にしておきたいと思うようになった(n=1825)	%	100.0	46.1	43.6	8.8	1.5

(SA)2回目Q8. あなたは、「ドラマ　パラレル東京」に連動したLINEのグループチャットを、この1週間にどの程度見ましたか。見ていなくて、フォローしていない場合は、「フォローしていない」を選択してください。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	１日数回以上見た	1.7
2	１日一回程度見た	2.2
3	1週間のうちで何回か見た	2.3
4	見ていない	18.1
5	フォローしていない	75.8

(MA)2回目Q9. 「ドラマ　パラレル東京」に連動したLINEのグループチャットをフォローしたきっかけは何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体(n=1782)		100.0
1	ＮＨＫスペシャル	32.7
2	ＮＨＫの他のテレビ番組	10.4
3	ＮＨＫのラジオ	2.0
4	新聞・雑誌	4.7
5	ＮＨＫのホームページ	5.7
6	ＮＨＫのスマートフォン・アプリ	2.5
7	ＮＨＫ以外のホームページ	1.7
8	ＬＩＮＥの友達の投稿	2.2
9	Ｔｗｉｔｔｅｒの友達の投稿	1.3
10	Ｆａｃｅｂｏｏｋの友達の投稿	1.2
11	ＬＩＮＥのＮＨＫ（公式）の投稿	1.9
12	ＴｗｉｔｔｅｒのＮＨＫ（公式）の投稿	1.4
13	ＦａｃｅｂｏｏｋのＮＨＫ（公式）の投稿	1.1
14	ＬＩＮＥの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	1.1
15	Ｔｗｉｔｔｅｒの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	1.0
16	Ｆａｃｅｂｏｏｋの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	0.7
17	家族や友人の会話	12.9
18	デジタルサイネージ広告	1.5
19	前回のアンケート調査での告知	40.5

(SA)2回目Q10．「ドラマ　パラレル東京」に連動したLINEのグループチャットで最後に表示される「診断結果」で表示された防災タイプは何でしたか。

		%
全体(n=1782)		100.0
1	診断結果を見ていない	**65.7**
2	診断結果を覚えていない	**10.4**
3	レスキュー隊員	**3.3**
4	ヒーロー	**1.3**
5	新米ポリス	**0.7**
6	情熱のアーティスト	**1.2**
7	孤高の作家	**1.5**
8	研究一筋の学者	**0.7**
9	見習い探偵	**0.5**
10	つきあい上手	**0.6**
11	冷静沈着なコメンテーター	**1.9**
12	知識先行の防災マニア	**0.8**
13	普通	**5.5**
14	インフルエンサー	**1.1**
15	防災ビギナー	**4.7**

(MA)2回目Q11．あなたは、「ドラマ　パラレル東京」に連動したLINEのグループチャットをご利用になって、いかがでしたか。あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体(n=1740)		100.0
1	ドラマと連動したチャットは新規性があり、好奇心が満たされた	**15.7**
2	ドラマの登場人物とやり取りしているようで、親近感がわいた	**11.5**
3	放送中にもチャットや災害に関する情報が流れてきて臨場感があった	**9.8**
4	クイズによって首都直下地震に関する知識が増えた	**11.4**
5	首都直下地震に関する関心が高まった	**24.5**
6	放送時間以外にもたくさんチャットがあり、見るのが大変だった	**5.7**
7	チャットのペースが早すぎて、ついていけなかった	**9.4**
8	災害関連の情報（文字、動画、画像）で、イメージがふくらんだ	**6.3**
9	ドラマを見る事が、より興味深くなった	**10.4**
10	防災行動につながった	**38.0**

(SA)2回目Q12. あなたは、「ドラマ　パラレル東京」に連動したLINEのグループチャットをご覧になって、どのようなことを感じましたか。あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2回目Q12項目1	こうした地震が本当に起こり得ると感じた(n=1782)	%	100.0	36.8	46.3	8.5	8.5
2回目Q12項目2	ちょっと大げさすぎると感じた(n=1782)	%	100.0	7.3	27.3	44.3	21.2
2回目Q12項目3	首都直下地震への不安を感じた(n=1782)	%	100.0	37.0	44.2	10.7	8.1
2回目Q12項目4	いくら内閣府の想定に基づいていたとしても、フィクションにすぎないと感じた(n=1782)	%	100.0	7.4	29.3	42.2	21.0
2回目Q12項目5	いざ首都直下地震が起きたとき、自分はどうすべきなのかを考えた(n=1782)	%	100.0	26.0	50.4	14.8	8.8
2回目Q12項目6	さすがにここまでの被害は起きないだろうと思った(n=1782)	%	100.0	6.2	29.0	41.2	23.6
2回目Q12項目7	地震対策の必要性を感じた(n=1782)	%	100.0	33.4	46.2	11.7	8.8
2回目Q12項目8	首都直下地震ではこういう被害が生じるのだなとイメージできた(n=1782)	%	100.0	28.5	50.3	12.7	8.5
2回目Q12項目9	私たち一人一人がどのように動けば良いのか、具体的なイメージがつくようになった(n=1782)	%	100.0	21.0	50.6	19.8	8.5
2回目Q12項目10	過去の地震を思い出した(n=1782)	%	100.0	21.0	45.9	21.3	11.8
2回目Q12項目11	気が滅入った(n=1782)	%	100.0	19.9	41.6	25.9	12.6
2回目Q12項目12	改めて、東京は危ないところだと思った(n=1782)	%	100.0	27.0	46.9	17.2	9.0
2回目Q12項目13	帰宅困難になったら家に帰らず、その場に留まろうと思うようになった(n=1782)	%	100.0	23.2	49.0	18.3	9.4
2回目Q12項目14	首都直下地震が発生したら、火災を考えて避難をしようと思うようになった(n=1782)	%	100.0	26.3	51.4	13.6	8.8
2回目Q12項目15	これから首都直下地震に備えて、多くのことを学んでいこうと思うようになった(n=1782)	%	100.0	26.3	50.1	14.9	8.8
2回目Q12項目16	事前に家族との安否確認の方法や待ち合わせ場所を確認しておこうと思うようになった(n=1782)	%	100.0	26.8	48.3	15.3	9.6
2回目Q12項目17	備蓄などを常にしておきたいと思うようになった(n=1782)	%	100.0	30.7	48.1	12.5	8.6

(SA)2回目Q13. あなたは、以下の災害について不安を感じていますか。 あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	とても不安を感じている	やや不安を感じている	どちらともいえない	あまり不安を感じていない	全く不安を感じていない
2回目Q13項目1	首都直下地震(n=7349)	%	100.0	**48.9**	**36.1**	**9.8**	**3.1**	**2.0**
2回目Q13項目2	南海トラフ地震(n=7349)	%	100.0	**27.1**	**42.3**	**20.3**	**6.7**	**3.7**
2回目Q13項目3	津波(n=7349)	%	100.0	**12.5**	**23.6**	**28.2**	**23.3**	**12.3**
2回目Q13項目4	高潮(n=7349)	%	100.0	**10.7**	**21.5**	**30.0**	**23.6**	**14.2**
2回目Q13項目5	富士山噴火・浅間山噴火などの大規模降灰(n=7349)	%	100.0	**17.7**	**37.4**	**27.6**	**12.4**	**5.0**
2回目Q13項目6	首都圏での河川の大規模はん濫（荒川や多摩川など）(n=7349)	%	100.0	**22.2**	**37.0**	**22.4**	**12.4**	**6.0**
2回目Q13項目7	内水はん濫や中小河川のはん濫(n=7349)	%	100.0	**16.9**	**34.8**	**26.9**	**14.1**	**7.3**
2回目Q13項目8	土砂災害(n=7349)	%	100.0	**11.4**	**23.9**	**31.7**	**21.9**	**11.2**
2回目Q13項目9	台風(n=7349)	%	100.0	**27.5**	**44.8**	**18.6**	**6.2**	**2.9**
2回目Q13項目10	台風による停電(n=7349)	%	100.0	**31.0**	**43.2**	**18.3**	**5.0**	**2.5**

(SA)2回目Q14. あなたは以下の災害に関する用語を知っていますか。 あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	知っている	知らない
2回目Q14項目1	避難勧告・避難指示（緊急）(n=7349)	%	100.0	**94.8**	**5.2**
2回目Q14項目2	マグニチュード(n=7349)	%	100.0	**96.3**	**3.7**
2回目Q14項目3	震度(n=7349)	%	100.0	**97.4**	**2.6**
2回目Q14項目4	緊急地震速報(n=7349)	%	100.0	**96.6**	**3.4**
2回目Q14項目5	延焼火災(n=7349)	%	100.0	**70.2**	**29.8**
2回目Q14項目6	通電火災(n=7349)	%	100.0	**75.6**	**24.4**
2回目Q14項目7	火災旋風（せんぷう）(n=7349)	%	100.0	**63.9**	**36.1**
2回目Q14項目8	群衆雪崩（なだれ） (n=7349)	%	100.0	**72.4**	**27.6**
2回目Q14項目9	一時（いっとき）避難場所(n=7349)	%	100.0	**71.1**	**28.9**
2回目Q14項目10	広域避難場所(n=7349)	%	100.0	**85.5**	**14.5**

(MA)2回目Q15. あなたは12月に入ってから、次のような地震対策の中で、新たに行うようになったもの、もしくは改めて行ったものはありますか。 あてはまるものをいくつでもお選びください。

		%
全体(n=6155)		100.0
1	火災から逃れるための広域避難場所の確認	**25.4**
2	「広域避難場所」に集まる前に一時的に集まる「一時（いっとき）避難場所」の確認	**18.0**
3	避難生活を送るための避難所の確認	**16.5**
4	水の備蓄	**49.3**
5	食料の備蓄	**40.6**
6	非常用持ち出し袋の準備	**19.6**
7	懐中電灯の準備	**35.1**
8	乾電池や充電器、モバイルバッテリー等の準備	**35.2**
9	ラジオの準備	**20.4**
10	カセットコンロの準備	**20.4**

(SA)2回目Q16. あなたは同居する家族と地震で連絡が取れなくなった場合を想定して、安否確認方法や待ち合わせ場所を決めていますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	安否確認方法と待ち合わせ場所の両方を決めている	15.7
2	安否確認方法のみ決めている	10.7
3	待ち合わせ場所のみ決めている	15.8
4	安否確認方法と待ち合わせ場所の両方とも決めていない	35.2
5	同居している家族はいない（一人暮らし）	22.6

(SA)2回目Q17. あなたは火災について、次のことを知っていますか。 あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	知っている	知らない	意味がよく分からない
2回目Q17項目1	首都直下地震が発生した場合、最大の犠牲者が火災による死者と想定されていること(n=7349)	%	100.0	69.8	27.4	2.9
2回目Q17項目2	首都直下地震が発生した場合、火災からの避難を第一に考えるべきであること(n=7349)	%	100.0	64.2	32.9	3.0
2回目Q17項目3	関東大震災では、火災で多くの人が亡くなったこと(n=7349)	%	100.0	82.9	14.5	2.5
2回目Q17項目4	住宅が密集している地域では火災の被害が大きくなる可能性があること(n=7349)	%	100.0	82.5	14.9	2.6
2回目Q17項目5	地震火災の事を考えて、「広域避難場所」に避難をして、延焼火災から難を逃れる必要があること(n=7349)	%	100.0	63.8	32.3	3.9
2回目Q17項目6	「広域避難場所」に避難をする前に、地域ごとで「一時（いっとき）避難場所」に集まってから「広域避難場所」に移動するべきこと(n=7349)	%	100.0	51.7	43.0	5.3
2回目Q17項目7	火災が発生しても、延焼火災の恐れがない大きな駅の近くやビル街（地区内残留地区）にいる場合はそこに留まるべきであること(n=7349)	%	100.0	61.7	34.3	4.0
2回目Q17項目8	火災の可能性がなくなったら、自宅にいられる人は自宅に自宅にいるべきであること(n=7349)	%	100.0	63.7	32.8	3.5
2回目Q17項目9	首都圏で地震が発生した場合、速やかに帰宅をする必要はないこと(n=7349)	%	100.0	72.1	24.2	3.8

(SA)2回目Q18. 災害時の対応、救援活動について、次のような二つの意見があります。 A.災害時、まず自分や家族が助かるための対策を考えておくことが重要である B.災害時、いかに被災者を支援したり、ボランティアをしたりするかが重要である
（１）あなた自身はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	44.6
2	Aに近い	33.3
3	どちらかといえばA	18.5
4	どちらかといえばB	2.6
5	Bに近い	0.6
6	B	0.4

(SA)2回目Q19. （２）マスメディアの論調はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	14.6
2	Aに近い	27.0
3	どちらかといえばA	33.3
4	どちらかといえばB	17.9
5	Bに近い	5.0
6	B	2.2

(SA)2回目Q20. （３）世間の人はどのように考えている人が多いと思いますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	圧倒的にAの意見の人が多い	34.9
2	Aの意見の人が多い	37.1
3	どちらかといえばAの意見が多い	22.4
4	どちらかといえばBの意見が多い	4.4
5	Bの意見の人が多い	1.0
6	圧倒的にBの意見の人が多い	0.2

(SA)2回目Q21. 災害時の事前対応、事後対応について、次のような二つの意見があります。 A.災害が起こってしまってからでは遅いので、災害発生前の対策を考えておくことが重要である B.災害は防げないのだから、災害発生後の対応を考えておくことが重要である
（１）あなた自身はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	16.8
2	Aに近い	26.5
3	どちらかといえばA	23.6
4	どちらかといえばB	18.1
5	Bに近い	9.4
6	B	5.6

(SA)2回目Q22. （２）マスメディアの論調はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	16.1
2	Aに近い	29.6
3	どちらかといえばA	30.8
4	どちらかといえばB	16.0
5	Bに近い	5.2
6	B	2.3

(SA)2回目Q23. （３）世間の人はどのように考えている人が多いと思いますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	圧倒的にAの意見の人が多い	12.1
2	Aの意見の人が多い	29.8
3	どちらかといえばAの意見が多い	30.9
4	どちらかといえばBの意見が多い	17.9
5	Bの意見の人が多い	6.9
6	圧倒的にBの意見の人が多い	2.3

(SA)2回目Q24. 災害対策を誰が中心的に実施するかについて、次のような二つの意見があります。 A.災害時には、自治体や政府は何もできないので、まず自分や家族で自分たちの身を守るべきだ B.災害時には、まず公的な機関である自治体や政府が住民の身を守るために何とかすべきだ
（１）あなた自身はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	30.3
2	Aに近い	33.2
3	どちらかといえばA	24.1
4	どちらかといえばB	8.3
5	Bに近い	2.4
6	B	1.7

(SA)2回目Q25. （２）マスメディアの論調はAとBのどちらの意見に近いですか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	A	11.9
2	Aに近い	26.3
3	どちらかといえばA	28.7
4	どちらかといえばB	21.2
5	Bに近い	7.8
6	B	4.1

(SA)2回目Q26. （３）世間の人はどのように考えている人が多いと思いますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	圧倒的にAの意見の人が多い	15.4
2	Aの意見の人が多い	29.5
3	どちらかといえばAの意見が多い	27.2
4	どちらかといえばBの意見が多い	16.9
5	Bの意見の人が多い	7.8
6	圧倒的にBの意見の人が多い	3.2

(SA)2回目Q27. あなたは、Ｑ１８～Ｑ２６まででお伺いしたような、救援活動、災害時の事前対応と事後対応、災害対策を誰が中心に実施するかなどの災害対策のありかたについて、もし意見を求められた場合、次のようなことをするつもりはありますか。あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	するつもりがある	するつもりはない
2回目Q27項目1	Twitterで意見を述べる(n=7349)	%	100.0	9.3	90.7
2回目Q27項目2	Facebookで意見を述べる(n=7349)	%	100.0	6.5	93.5
2回目Q27項目3	LINEで友人・知人に意見を述べる(n=7349)	%	100.0	17.6	82.4
2回目Q27項目4	家族に積極的に意見を述べる(n=7349)	%	100.0	41.8	58.2
2回目Q27項目5	家族に意見を求められれば意見を述べる(n=7349)	%	100.0	62.7	37.3
2回目Q27項目6	友人に意見を求められれば意見を述べる(n=7349)	%	100.0	57.4	42.6
2回目Q27項目7	友人に積極的に意見を述べる(n=7349)	%	100.0	22.0	78.0
2回目Q27項目8	署名運動に協力する(n=7349)	%	100.0	26.3	73.7
2回目Q27項目9	街頭インタビューに応じる(n=7349)	%	100.0	18.9	81.1

(SA)2回目Q28. あなたは、首都直下地震によって被害を受けることを「自分ごと」としてとらえていますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	強く「自分ごと」としてとらえている	31.4
2	やや「自分ごと」としてとらえている	40.5
3	どちらともいえない	17.7
4	あまり「自分ごと」としてとらえていない	7.8
5	全く「自分ごと」としてとらえていない	2.6

(SA)2回目Q29. 今後30年以内に首都直下地震はどれくらいの確率で発生すると思いますか。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	100%	**14.7**
2	90%	**9.1**
3	80%	**19.0**
4	70%	**26.4**
5	60%	**7.6**
6	50%	**13.8**
7	40%	**1.7**
8	30%	**4.1**
9	20%	**1.1**
10	10%以下	**2.6**

(SA)2回目Q30. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害にあうことに対して、どの程度不安を感じますか。

			全体	とても不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない
2回目Q30項目1	自分自身の電話がつながらなくなる(n=7349)	%	100.0	**42.5**	**37.2**	**12.8**	**5.0**	**2.4**
2回目Q30項目2	自分自身のメールやLINE・Twitterが使えなくなる(n=7349)	%	100.0	**34.4**	**32.4**	**18.3**	**7.4**	**7.4**
2回目Q30項目3	自分自身が大規模な延焼火災に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	**38.8**	**36.5**	**18.0**	**4.6**	**2.1**
2回目Q30項目4	自分自身が建物やエレベーター内に閉じ込められる(n=7349)	%	100.0	**31.9**	**35.3**	**22.1**	**7.8**	**2.9**
2回目Q30項目5	自分自身がデマ・流言にまどわされる(n=7349)	%	100.0	**18.1**	**31.4**	**31.0**	**13.3**	**6.2**
2回目Q30項目6	自分自身が土砂災害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	**17.2**	**22.5**	**28.9**	**21.5**	**9.9**
2回目Q30項目7	自分自身が液状化被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	**18.6**	**26.4**	**30.5**	**16.9**	**7.6**
2回目Q30項目8	自分自身が群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しに巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	**20.9**	**29.7**	**28.6**	**13.4**	**7.4**
2回目Q30項目9	自分自身が工場や建物の爆発被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	**19.7**	**28.5**	**29.1**	**15.7**	**6.9**
2回目Q30項目10	自分自身が川のはん濫や決壊被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	**21.4**	**28.5**	**28.2**	**14.8**	**7.1**

(SA)2回目Q31. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害に、どれくらいの確率であうと思いますか。

			全体	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%以下
2回目Q31項目1	自分自身の電話がつながらなくなる(n=7349)	%	100.0	32.5	16.9	21.1	11.2	5.7	8.7	1.0	1.1	0.5	1.3
2回目Q31項目2	自分自身、メールやLINE・Twitterが使えなくなる(n=7349)	%	100.0	27.5	15.6	20.8	12.1	7.3	9.9	1.5	1.6	0.7	3.1
2回目Q31項目3	自分自身が大規模な延焼火災に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	7.0	5.6	14.3	16.5	15.1	21.9	6.4	6.4	2.8	3.9
2回目Q31項目4	自分自身が建物やエレベーター内に閉じ込められる(n=7349)	%	100.0	5.3	4.9	10.4	13.7	13.2	22.5	7.9	9.5	5.5	7.1
2回目Q31項目5	自分自身がデマ・流言にまどわされる(n=7349)	%	100.0	4.5	4.9	9.6	11.4	13.3	22.1	7.6	10.3	6.0	10.3
2回目Q31項目6	自分自身が土砂災害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	3.5	2.8	6.4	9.2	10.5	18.7	10.1	13.3	7.7	17.7
2回目Q31項目7	自分自身が液状化被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	4.1	3.6	8.2	10.4	11.3	19.9	9.0	11.7	7.6	14.2
2回目Q31項目8	自分自身が群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しに巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	4.1	4.3	9.5	11.5	11.7	20.5	8.6	10.6	7.1	12.2
2回目Q31項目9	自分自身が工場や建物の爆発被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	3.9	3.9	8.4	10.3	12.1	19.9	8.8	11.7	7.9	13.3
2回目Q31項目10	自分自身が川のはん濫や決壊被害に巻き込まれる(n=7349)	%	100.0	4.7	4.8	9.9	11.7	11.5	18.5	8.1	10.8	7.2	12.9

(SA)2回目Q32. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害が発生することに対して、どの程度不安を感じますか。

			全体	とても不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない
2回目Q32項目1	首都圏内で電話がつながらなくなる(n=7349)	%	100.0	45.1	36.2	11.9	4.5	2.3
2回目Q32項目2	首都圏内でメールやLINE・Twitterが使えなくなる(n=7349)	%	100.0	36.3	33.8	17.0	6.7	6.2
2回目Q32項目3	首都圏内で大規模な延焼火災が発生する(n=7349)	%	100.0	41.0	37.8	15.9	3.3	2.1
2回目Q32項目4	首都圏内の建物やエレベーター内に人が閉じ込められる(n=7349)	%	100.0	29.5	38.7	22.8	6.5	2.4
2回目Q32項目5	首都圏内でデマ・流言がまん延する(n=7349)	%	100.0	23.4	35.2	27.8	9.0	4.6
2回目Q32項目6	首都圏内で土砂災害が発生する(n=7349)	%	100.0	17.7	28.5	31.7	15.6	6.5
2回目Q32項目7	首都圏内で液状化が発生する(n=7349)	%	100.0	20.2	33.7	29.3	11.6	5.2
2回目Q32項目8	首都圏内で群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しが発生する(n=7349)	%	100.0	25.1	33.7	25.6	9.9	5.6
2回目Q32項目9	首都圏内の工場や建物で爆発が起こる(n=7349)	%	100.0	21.5	35.3	27.7	10.6	4.9
2回目Q32項目10	首都圏内の川がはん濫したり決壊したりする(n=7349)	%	100.0	23.5	35.4	26.4	9.9	4.7

(SA)2回目Q33. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害に、どれくらいの確率であうと思いますか。

			全体	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%以下
2回目Q33項目1	首都圏内で電話がつながらなくなる(n=7349)	%	100.0	34.0	17.8	19.3	10.7	5.8	8.0	1.3	1.1	0.6	1.3
2回目Q33項目2	首都圏内でメールやLINE・Twitterが使えなくなる(n=7349)	%	100.0	28.5	16.8	19.1	12.4	7.2	9.3	1.9	1.6	0.8	2.4
2回目Q33項目3	首都圏内で大規模な延焼火災が発生する(n=7349)	%	100.0	17.3	12.2	19.9	16.5	11.5	13.1	3.3	2.6	1.5	2.3
2回目Q33項目4	首都圏内の建物やエレベーター内に人が閉じ込められる(n=7349)	%	100.0	16.3	11.0	16.4	15.2	12.2	14.6	4.3	4.3	2.4	3.4
2回目Q33項目5	首都圏内でデマ・流言がまん延する(n=7349)	%	100.0	12.9	9.5	15.2	14.4	13.3	17.6	5.2	5.1	3.0	4.0
2回目Q33項目6	首都圏内で土砂災害が発生する(n=7349)	%	100.0	7.7	5.6	12.3	13.7	13.7	19.5	7.5	8.0	4.5	7.4
2回目Q33項目7	首都圏内で液状化が発生する(n=7349)	%	100.0	10.6	7.9	14.7	14.4	13.5	17.8	5.9	6.2	3.7	5.3
2回目Q33項目8	首都圏内で群衆雪崩（なだれ）や将棋倒しが発生する(n=7349)	%	100.0	11.0	9.0	14.8	14.7	13.0	16.7	5.3	5.7	3.8	6.2
2回目Q33項目9	首都圏内の工場や建物で爆発が起こる(n=7349)	%	100.0	9.7	7.4	14.6	14.9	14.1	17.7	5.8	6.3	4.4	5.2
2回目Q33項目10	首都圏内の川がはん濫したり決壊したりする(n=7349)	%	100.0	10.3	8.2	14.9	14.9	13.4	17.8	5.6	5.9	3.8	5.4

(SA)2回目Q34. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害にあうことに対して、どの程度不安を感じますか。

			全体	とても不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない
2回目Q34項目1	自宅が倒壊する(n=7349)	%	100.0	33.6	31.6	19.0	12.5	3.3
2回目Q34項目2	自宅が火災に遭う(n=7349)	%	100.0	36.2	34.5	19.3	7.9	2.1
2回目Q34項目3	自宅のインフラ（電気・ガス・水道）が止まる(n=7349)	%	100.0	53.7	31.0	11.8	2.3	1.2
2回目Q34項目4	自分や家族がケガをする(n=7349)	%	100.0	42.6	34.9	16.9	3.7	1.9
2回目Q34項目5	自分や家族が命を落とす(n=7349)	%	100.0	41.7	30.0	20.1	5.4	2.8
2回目Q34項目6	自分や家族が帰宅困難者になる(n=7349)	%	100.0	35.1	34.3	20.8	6.6	3.2
2回目Q34項目7	自分や家族が避難生活を余儀なくされる(n=7349)	%	100.0	37.2	35.7	19.9	5.0	2.2
2回目Q34項目8	自分や家族の食べ物・飲み物がなくなる(n=7349)	%	100.0	41.2	35.5	17.4	4.0	1.9

(SA)2回目Q35. 首都直下地震が起きた場合、以下のような被害に、どれくらいの確率であうと思いますか。

			全体	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%以下
2回目Q35項目1	自宅が倒壊する(n=7349)	%	100.0	7.5	7.5	14.6	14.4	11.4	18.7	5.7	8.6	4.3	7.5
2回目Q35項目2	自宅が火災に遭う(n=7349)	%	100.0	7.0	8.0	15.5	15.5	12.9	20.0	5.3	7.0	3.8	5.0
2回目Q35項目3	自宅のインフラ（電気・ガス・水道）が止まる(n=7349)	%	100.0	26.9	16.1	18.7	12.8	8.4	10.7	1.9	1.8	0.9	1.7
2回目Q35項目4	自分や家族がケガをする(n=7349)	%	100.0	8.3	8.5	16.2	16.0	13.3	22.0	4.4	4.8	2.5	4.0
2回目Q35項目5	自分や家族が命を落とす(n=7349)	%	100.0	6.5	5.9	11.6	11.9	11.8	24.2	5.6	7.3	5.1	10.1
2回目Q35項目6	自分や家族が帰宅困難者になる(n=7349)	%	100.0	12.2	11.2	15.3	13.7	10.7	18.6	4.1	4.7	3.6	5.9
2回目Q35項目7	自分や家族が避難生活を余儀なくされる(n=7349)	%	100.0	11.6	10.6	16.2	14.2	11.6	19.2	4.2	5.0	3.0	4.5
2回目Q35項目8	自分や家族の食べ物・飲み物がなくなる(n=7349)	%	100.0	13.8	11.9	17.6	14.5	11.3	17.1	3.7	4.1	2.4	3.5

(MA)2回目Q36. あなたは12月に入ってから、首都直下地震に関する情報に接しましたか。 あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	テレビで首都直下地震に関する情報を見た	**42.2**
2	新聞や雑誌で首都直下地震に関する情報を見た	**9.8**
3	インターネットで首都直下地震に関する情報を見た	**16.3**
4	地震動予測地図を見た	**5.6**
5	市区町村の避難所などが書かれている防災マップを見た	**8.8**
6	東京都の『震災時火災における避難場所や避難道路』を確認した	**5.0**
7	東京都の『あなたのまちの地域危険度』を確認した	**4.6**
8	『東京防災』を見た	**6.4**
9	その他	**0.3**
10	上記の中であてはまるものはない	**45.0**

(FA)2回目Q36_9FA. あなたは12月に入ってから、首都直下地震に関する情報に接しましたか。 あてはまるものをすべて選択してください。

	%	
全体(n=24)	100.0	
回答者数(n=24)	100.0	**省略**

(SA)2回目Q37. 以下のメディアについて、12月に入ってから、１日平均どのくらい利用しましたか。 あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。 ※「ラジオ」はradikoも含みます。

			全体	8時間以上	5時間以上8時間未満	4時間以上5時間未満	3時間以上4時間未満	2時間以上3時間未満	1時間30分以上2時間未満	1時間以上1時間30分未満	30分以上1時間未満	30分未満	まったく利用しなかった
2回目Q37項目1	テレビ（ＮＨＫ）(n=7349)	%	100.0	2.5	1.3	1.6	2.7	5.8	7.0	11.5	16.2	21.7	29.7
2回目Q37項目2	テレビ（ＮＨＫ以外）(n=7349)	%	100.0	6.1	4.1	5.3	8.7	12.7	9.9	11.4	10.2	9.9	21.7
2回目Q37項目3	ラジオ（ＮＨＫ）(n=7349)	%	100.0	0.6	0.4	0.8	1.0	1.3	1.4	1.5	2.6	6.9	83.6
2回目Q37項目4	ラジオ（ＮＨＫ以外）(n=7349)	%	100.0	1.5	1.3	1.1	1.5	2.7	2.5	2.8	4.8	9.4	72.6
2回目Q37項目5	新聞(n=7349)	%	100.0	1.1	0.7	0.6	1.2	1.7	2.4	4.2	10.8	23.2	54.1
2回目Q37項目6	雑誌(n=7349)	%	100.0	0.4	0.4	0.6	1.0	1.3	1.6	2.2	5.6	19.8	67.1
2回目Q37項目7	パソコンでのインターネット (n=7349)	%	100.0	9.8	5.0	6.1	9.2	12.9	11.3	11.4	10.0	7.4	16.9
2回目Q37項目8	スマートフォン・従来型携帯電話でのインターネット(n=7349)	%	100.0	6.0	2.7	3.6	5.9	9.1	10.0	11.8	13.3	15.8	21.8

(SA)2回目Q38. あなたは12月に入ってから、以下のＮＨＫの番組を見ましたか。 あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	すべて見た	何度か見た	一回見た	まったく見なかった
2回目Q38項目1	おはよう日本(n=7349)	%	100.0	3.8	19.4	4.0	72.7
2回目Q38項目2	あさイチ(n=7349)	%	100.0	2.1	14.8	5.6	77.4
2回目Q38項目3	まいにちスクスク(n=7349)	%	100.0	0.5	2.7	1.8	95.0
2回目Q38項目4	ごごナマ(n=7349)	%	100.0	0.5	5.9	3.0	90.7
2回目Q38項目5	シブ５時(n=7349)	%	100.0	0.8	9.5	4.0	85.7
2回目Q38項目6	首都圏ネットワーク(n=7349)	%	100.0	2.0	21.7	7.3	69.0
2回目Q38項目7	沼にハマって聞いてみた(n=7349)	%	100.0	0.5	2.8	2.7	93.9
2回目Q38項目8	ハートネットＴＶ(n=7349)	%	100.0	0.5	3.2	3.0	93.2
2回目Q38項目9	生きるスキル(n=7349)	%	100.0	1.3	3.2	2.7	92.9
2回目Q38項目10	巨大地震あなたの町の”地域リスク”(n=7349)	%	100.0	2.0	6.4	5.7	86.0
2回目Q38項目11	楽しく！防災クンレン(n=7349)	%	100.0	0.7	2.5	2.8	93.9

(MA)2回目Q39. あなたは12月に入ってから、「体感 首都直下地震ウイーク」を何で見聞きしましたか。 あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	ＮＨＫスペシャル	27.2
2	ＮＨＫの他のテレビ番組	18.2
3	ＮＨＫのラジオ	1.4
4	新聞・雑誌	4.9
5	ＮＨＫのホームページ	2.9
6	ＮＨＫのスマートフォン・アプリ	1.1
7	ＮＨＫ以外のホームページ	1.4
8	ＬＩＮＥの友達の投稿	0.9
9	Ｔｗｉｔｔｅｒの友達の投稿	1.1
10	Ｆａｃｅｂｏｏｋの友達の投稿	0.6
11	ＬＩＮＥのＮＨＫ（公式）の投稿	0.7
12	ＴｗｉｔｔｅｒのＮＨＫ（公式）の投稿	0.9
13	ＦａｃｅｂｏｏｋのＮＨＫ（公式）の投稿	0.4
14	ＬＩＮＥの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	0.4
15	Ｔｗｉｔｔｅｒの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	0.8
16	Ｆａｃｅｂｏｏｋの友人以外の投稿（ＮＨＫの公式アカウントを除く）	0.4
17	家族や友人の会話	6.4
18	デジタルサイネージ広告	1.1
19	どこでも見聞きしなかった	53.6

(MA)2回目Q40. あなたは12月に入ってから、災害・防災についてNHKの番組以外で見聞きしましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体(n=6091)		100.0
1	Twitterアカウント「みんなで考える防災（@nhk_ikiruskill）」	**4.2**
2	NHK以外のテレビ番組	**25.2**
3	新聞	**20.9**
4	インターネット上の記事	**32.3**
5	講演会	**0.3**
6	家族・友人との会話	**39.2**

(MA)2回目Q41. あなたの家はハザードマップや東京都の地域危険度でどのような危険性がある場所ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体(n=7349)		100.0
1	火災	**32.4**
2	建物の倒壊	**25.3**
3	土砂災害	**6.6**
4	高潮	**6.1**
5	洪水	**21.1**
6	津波	**6.2**
7	ハザードマップや東京都の地域危険度では危険性が低い	**26.4**
8	ハザードマップも東京都の地域危険度も見たことがない	**21.6**

(SA)2回目Q42. あなたは、「首都直下地震ウィーク」のキャンペーンを見聞きして、あなたご自身および周囲の人の防災に対する意識は高まったと思いますか。あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	非常に意識は高まったと思う	意識は高まったと思う	やや意識は高まったと思う	あまり意識は高まらなかったと思う	意識は高まらなかったと思う	全く意識は高まらなかったと思う
2回目Q42項目1	あなたご自身(n=7349)	%	100.0	**11.0**	**22.1**	**36.0**	**18.7**	**4.4**	**7.8**
2回目Q42項目2	周囲の人(n=7349)	%	100.0	**6.3**	**17.8**	**38.2**	**24.5**	**5.3**	**7.8**

(SA)2回目Q43. あなたは「首都直下地震ウィーク」のキャンペーン（ドラマ、NHKスペシャル、関連番組、LINEなどの関連するもの）に接し、どのようなことを感じましたか。あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2回目Q43項目1	こうした地震が本当に起こり得ると感じた(n=7349)	%	100.0	34.4	45.1	11.2	9.3
2回目Q43項目2	ちょっと大げさすぎると感じた(n=7349)	%	100.0	6.7	22.7	47.6	23.0
2回目Q43項目3	首都直下地震への不安を感じた(n=7349)	%	100.0	33.2	45.2	12.7	9.0
2回目Q43項目4	いくら内閣府の想定に基づいていたとしても、フィクションにすぎないと感じた(n=7349)	%	100.0	6.1	23.9	46.2	23.8
2回目Q43項目5	いざ首都直下地震が起きたとき、自分はどうすべきなのかを考えた(n=7349)	%	100.0	21.4	49.2	19.0	10.3
2回目Q43項目6	さすがにここまでの被害は起きないだろうと思った(n=7349)	%	100.0	5.8	23.9	46.3	24.1
2回目Q43項目7	地震対策の必要性を感じた(n=7349)	%	100.0	31.0	46.6	13.3	9.0
2回目Q43項目8	首都直下地震ではこういう被害が生じるのだなとイメージできた(n=7349)	%	100.0	25.2	49.2	16.1	9.4
2回目Q43項目9	私たち一人一人がどのように動けば良いのか、具体的なイメージがつくようになった(n=7349)	%	100.0	16.8	46.8	25.4	11.0
2回目Q43項目10	過去の地震を思い出した(n=7349)	%	100.0	19.3	41.6	25.3	13.8
2回目Q43項目11	気が滅入った(n=7349)	%	100.0	18.2	37.1	29.0	15.7
2回目Q43項目12	改めて、東京は危ないところだと思った(n=7349)	%	100.0	22.9	43.8	22.2	11.1
2回目Q43項目13	帰宅困難になったら家に帰らず、その場に留まろうと思うようになった(n=7349)	%	100.0	20.2	46.5	22.0	11.2
2回目Q43項目14	首都直下地震が発生したら、火災を考えて避難をしようと思うようになった(n=7349)	%	100.0	23.5	49.1	17.5	9.9
2回目Q43項目15	これから首都直下地震に備えて、多くのことを学んでいこうと思うようになった(n=7349)	%	100.0	20.7	49.9	19.4	10.0
2回目Q43項目16	事前に家族との安否確認の方法や待ち合わせ場所を確認しておこうと思うようになった(n=7349)	%	100.0	22.0	48.0	18.8	11.2
2回目Q43項目17	備蓄などを常にしておきたいと思うようになった(n=7349)	%	100.0	28.7	47.1	14.7	9.6